

リフレクションカード 2016年度後期

学科	栄養学科
氏名	銀光

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
栄養疫学	2	後期	選択	いいえ	98

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	○	○	○	×

3. 授業準備について

<p>授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。</p> <p><授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など</p>	<p>①栄養疫学は管理栄養士必修科目であり、国家試験資格取得に必須である。内容が幅広く、勉強意欲関心が重要になる。 ②初回の授業の最初に学習準備のため、シラバスを用いてオリエンテーションを行った。予習・復習について説明を行った。 ③授業で使用する配付資料を昨年より修正し、よりわかりやすい内容とした。 ④授業中の学生たちの勉強意欲を高めるため、授業中の質問や討論を増やした。 ⑤授業中に論文を読み、議論する場を設けた。</p>
---	---

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	達成された	達成された	達成された	やや達成された	達成された	
<p>(2)上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。</p> <p>* 根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示し下さい。</p> <p><授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など</p>	<p>①本試験の成績の平均値は78(±11)点であり、再試験後不合格者は0名であった。標準的レベル(概ね70点以上として試験を作成)に達した。 ②昨年度と比べると、本試験の平均点は上昇しており、次年度は成績を理想的レベル(平均点80点)まで上げる工夫が必要である。 ③「自分が学ぼうとしている専門分野のさまざまな課題を検討する力を得ることができた」と答えた者は98%であり、「自分が学ぼうとしている専門分野において、的確に判断する力を得ることができた」と答えた者も100%で、知識理解、思考判断については目標が達成されたと考えられる。</p>					

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

<p>DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。</p> <p><授業評価の指標> 「受講動機」、「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など</p>	<p>①CP、カリキュラムマップ上の位置づけからみても内容的妥当性 本科目は「専門教育科目、専門基礎分野」であり、管理栄養士必修科目である。管理栄養士国家試験に出題率が高く、また管理栄養士として働く上でも必要とされる知識である。 ②DP、行動目標からみても内容的妥当性 成績評価から知識・理解、思考判断、態度に関し、目標は達成したが、理想的レベルまでは達していなかった。管理栄養士国家試験の試験問題に準じて定期試験問題を作成したので内容的には妥当であったと考える。 ③まとめ 以上から、内容的妥当性には問題はないと思われる。</p>
--	--

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単に
お示しください。
また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示し
ください。

<授業評価の指標>

「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など

授業の質評価において、「テスト、レポート、提出物などの評価基準は明らかであった」の平均が3.3で、「授業中に自分の意見をまとめる、話し合う、発表するなど、学生が参加する機会が設けられていた」の平均が3.2であった。「口頭、文書など、何らかの形で学生の質問を受け付け、それに答える機会が作られた」の平均は3.3で、授業の内容はよかったが、「説明は理解しやすいものであった」の平均が3.2で低かったことが反省点である。次年度に向けては、知識・理解の行動目標をより具体的に示した上で、講義スライドや説明に力を入れて授業を進めたい。

学生の意見として、聞き取りにくいところがあったという意見があり、次年度からは改善して行きたい。

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示しください。

専門教育科目にあたる本科目の位置づけから、知識理解、思考判断、態度の面で課題は達成できたが、関心意欲、技能表現の面では課題を残した。今後、栄養疫学の疫学調査法の仕事現場での重要性をしっかりと説明し、学生の関心意欲の向上を目指していきたい。
授業過程を振り返ってみたとき、授業中、質疑応答、発表の時間が少なかったことで、学生の積極的な発言など関心意欲を高めることができなかった。以上から、毎回の授業のねらいを具体的に示して、予習したかをチェックし、授業中の質問、応答、発表時間を増やして、学生の関心意欲を高める努力を行っていきたい。
講義スライド、配布物（授業の参考資料）に関しては、学生の意見を積極的に取り入れ、来年度にむけて授業進捗と内容説明について改善して行きたい。

リフレクションカード 2016年度後期

学科	栄養学科
氏名	銀光

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
衛生学	2	後期	選択	いいえ	83

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	○	○	○	×

3. 授業準備について

<p>授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。</p> <p><授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など</p>	<p>①衛生学は選択科目であるが、国家試験資格取得に必須である。内容が幅広く、勉強意欲関心が重要になる。受講動機を見ると、「必須科目である」15.6%、「資格取得に必要である」49.4%で、「関心のある内容である」2.6%で、関心が低い内容であることを示唆するものであった。</p> <p>②初回の授業の最初に学習準備のため、シラバスを用いてオリエンテーションを行った。予習・復習について説明を行った。</p> <p>③授業で使用する配付資料を丁寧に作成し、よりわかりやすい内容とした。</p> <p>④授業中の学生たちの勉強意欲・関心を高めるため、授業中の質問や討論を増す必要がある。</p>
---	---

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
		達成された	達成された	達成された	やや達成された	達成された
<p>(2)上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。</p> <p>*根拠として、成績(トータル成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示し下さい。</p> <p><授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など</p>	<p>①本試験の成績の平均値は73.5(±8.9)点であり、再試験後不合格者は5名であった。標準的レベル(概ね70点以上として試験を作成)に達した。</p> <p>②次年度は成績を理想的レベル(平均点80点)まで上げる工夫が必要である。</p> <p>③「自分が学ぼうとしている専門分野のさまざまな課題を検討する力を得ることができた」と答えた者は97.5%であり、「自分が学ぼうとしている専門分野において、的確に判断する力を得ることができた」と答えた者も96.3%で、知識理解、思考判断については目標が達成されたと考えられる。</p> <p>④「図書館、インターネット利用」は非常に少なかったため、今後は課外課題を与え、図書館、インターネット利用を促進したい。</p>					

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

<p>DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。</p> <p><授業評価の指標> 「受講動機」、「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など</p>	<p>①CP、カリキュラムマップ上の位置づけからみた内容的妥当性 本科目は「専門教育科目、専門基礎分野」であり、選択科目である。管理栄養士国家試験に出題率が高く、また管理栄養士として働く上でも必要とされる知識である。</p> <p>②DP、行動目標からみた内容的妥当性 成績評価から知識・理解、思考判断については目標を達成したが、態度に関しやや達成された。しかしながら、理想的レベルまでは達していなかった。管理栄養士国家試験の試験問題に準じて定期試験問題を作成したので内容的には妥当であったと考える。</p> <p>③まとめ 以上から、内容的妥当性には問題はないと思われる。</p>
--	---

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお願いします。
また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお願いします。

<授業評価の指標>

「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など

授業の質評価において、「テスト、レポート、提出物などの評価基準は明らかであった」の平均が3.3で、「授業中に自分の意見をまとめる、話し合う、発表するなど、学生が参加する機会が設けられていた」の平均が3.2であった。「口頭、文書など、何らかの形で学生の質問を受け付け、それに答える機会が作られた」の平均は3.4で、授業の内容はよかった。また「説明は理解しやすいものであった」の平均が3.2で、やや低かった。次年度に向けては、知識・理解の行動目標をより具体的に示した上で、講義スライドや説明に力を入れて授業を進めたい。

学生の意見として、授業を進めるスピードが速く、聞き取りにくいところがあったという意見があり、次年度からは改善して行きたい。

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお願いします。

専門教育科目にあたる本科目の位置づけから、知識理解、思考判断、態度の面で課題は達成できたが、関心意欲の面では課題を残した。今後、衛生学の仕事現場での重要性をしっかりと説明し、学生の関心意欲の向上を目指していきたい。

授業過程を振り返ってみたとき、授業中、質疑応答、発表の時間が少なかったことで、学生の積極的な発言など関心意欲を高めることができなかった。以上から、毎回の授業のねらいを具体的に示して、予習したかをチェックし、授業中の質問、応答、発表時間を増やして、学生の関心意欲を高める努力を行っていきたい。

講義スライド、配布物（授業の参考資料）に関しては、学生の意見を積極的に取り入れ、来年度にむけて授業進捗と内容説明について改善して行きたい。

リフレクションカード 2016年度後期

学科	栄養学科
氏名	嶋村 美由紀

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
社会福祉概説	2	後期	必修	いいえ	97

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	×	○	×	×

3. 授業準備について

<p>授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。</p> <p><授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など</p>	<p>必修科目であるので、受講動機でも85/87人が必修科目であると答えている。①オリエンテーションの目的として、講義の進め方や目的、到達目標について具体的に示した。②授業の実施に当たっては、できるだけ具体的な内容を含めて、説明を行った。普段かかわりの少ない社会福祉に関して興味や関心を広げるところから始めている。社会福祉とは何か、生活することに何が含まれているのか、どのような方たちが社会福祉を必要としているのか、ソーシャルワーカーへの理解などを含めて授業を展開している。栄養に携わる専門職が社会福祉を学ぶ意味についても時間をかけて説明して、学習の動機づけができるように心がけている。</p>
---	---

4. 学生の目標達成状況について

(1) 教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	達成された	やや達成された		達成された		
<p>(2) 上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。</p> <p>* 根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示し下さい。</p> <p><授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など</p>	<p>成績評価について平均点は84.62点である。概ね社会福祉全体の理解とそれぞれの学生が興味関心のある現在の日本の福祉的課題について整理することができていた。授業の終わりに振り返りシートに記入して興味や関心、考えたことなどが確認できたため、意欲関心は達成されたと考える。</p>					

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

<p>DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。</p> <p><授業評価の指標> 「受講動機」、「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など</p>	<p>本科目は、栄養学科の必修科目として位置づけられている。管理栄養士を目指す学生の社会福祉に関する理解を促し、専門職としての連携を図る上で必要な知識であると思われる。学生の自己評価でも知識を確認修正したり新たに得ること、および事象を理解する視点や考え方を得ることができたの項目が一番評価点が高く、平均値は3.4であり内容的妥当性はあると考える。</p>
--	---

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお示しください。
また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。

<授業評価の指標>

「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など

学習量の評価では、課題以外の取り組みがほとんどできておらず、図書館などの利用もほとんどないとの結果であり、文献紹介や具体的な勉強方法について、一方向での説明に終わらずに、学生とやりとりをしながら双方向の情報提供を組み込んで行こうと思う。

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示しください。

普段は社会福祉ではない栄養の学修をしている栄養学科の学生に向けて、社会で起きていることへの興味関心をより広げることができるような情報提供と考える時間を設けていき、授業外での学習を促したり、勉強方法の具体的提示を行うことで、より継続して興味を持ち続けることへの動機づけができるのではないかと考えている。

リフレクションカード 2016年度後期

学科	栄養学科
氏名	高橋 甲枝

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
看護学	3	後期	選択	いいえ	13

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	○	○	○	×	○

3. 授業準備について

<p>授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。</p> <p><授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など</p>	<p>①栄養学科学生を対象とした「看護学」は、3年生対象・選択科目で、7名の教員で担当している。本年度は13名履修した。例年、4年生の受講が多かったが、本年度は3年生11名と受講割合が高かった。学生の受講動機は、「関心のある内容である」62.5%、次いで「単位数を確保する」50.0%で、「教員に勧められた」12.5%という学生もいた。</p> <p>②本科目は、保健医療チームにおける管理栄養士および栄養士との連携のあり方を考える一助とすることを念頭に、専門職である看護職の役割の理解に繋がるように考えて講義を展開している。看護の対象である患者および家族の健康段階、発達段階を考えて、「小児看護」「成人看護（急性期・回復期・慢性期・終末期）」「老年看護」「精神看護」「在宅看護」について講義を行っており、栄養学科の学生が興味・関心をもてるように栄養士との関連を盛り込みながら講義を行っている。</p> <p>さらに、実習へ行った学生もいるため、その時のことを聞きながら、病院での看護、在宅での看護について講義を行っている。</p> <p>③毎回、講義内容に関連した課題を提示し、講義内容の理解に繋げるようにしている。そのためか、学生の図書館等の利用率も良いと思われる。</p> <p>④7名の教員がオムニバス形式で講義を行っているが、学生の学習内容把握のために、「学びカード」を用いて学生の理解を把握するとともに互いに教授内容の把握のために回覧を行い、重複する内容や強調する内容を考えながら講義を行っている。</p>
---	---

4. 学生の目標達成状況について

<p>(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。</p>	全体を通して	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	達成された	達成された	やや達成された	達成された		達成された
<p>(2)上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。</p> <p>*根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示し下さい。</p> <p><授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など</p>	<p>各講義テーマにそった課題および最終レポートにて評価を行った。各講義テーマにそった課題はほぼ全員提出することができていたが、ネットからのコピーもみられた。最終レポートは1名未提出であった。最終的な成績の平均値は、未提出者を除くと平均74.3±5.7点、B判定3名(23.1%)、C判定8名(61.5%)、D判定1名(7.7%)であった。レポートはルーブリック評価表を用いて、自己評価および他者評価にて評価を行っている。全員が看護師の役割について述べることができ、協働する専門職であることの理解につながっていたと考える。</p>					

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

<p>DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。</p> <p><授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など</p>	<p>①CP、カリキュラムマップ上の位置づけからみでの内容的妥当性 本科目は、「専門教育科目」に位置づけられており、選択科目である。3年生開講であるが、4年生が受講することが多い。本年度は3年生が多く受けていた。 学生のレポート評価からも看護師の役割やチームとして協働する専門職であるという理解に繋がっており、内容的に妥当であったと考える。</p> <p>②DP、行動目標からみでの内容的妥当性 成績評価から思考判断に関する達成度がやや低いが、看護師の役割については理解に繋がっているため内容的には妥当であったと考える。</p> <p>③まとめ 以上のことから、内容的妥当性には問題ないと思われる。</p>
---	---

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお示しください。
また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。

<授業評価の指標>

「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など

授業の質評価において、平均値は3.2-3.7であり、「説明は理解しやすいものであった」3.7もっとも高く、次いで「口頭、文書など、何らかの形で学生の質問を受け付け、それに答える機会が作られていた」3.6であった。「学びカード」に講義後の学び気づきを記載してもらい、その内容に一人ずつ回答を行ったことが、質評価に繋がっていたと考える。今後も継続していきたい。
学生からの意見は特になかった。

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示しください。

毎年、同じ教員が関わることはないが、それぞれの看護の専門領域について伝えて行くことで、協働する専門職の理解に繋がると考える。
分かりやすい表現、動画や写真などを使い、分かりやすい講義を展開して、少しでも看護師のことを理解できるようにしていきたい。

リフレクションカード 2016年度後期

学科	栄養学科
氏名	清末 達人

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
応用生理学	1	後期	必修	いいえ	98

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	×	×	×	○

3. 授業準備について

<p>授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。</p> <p><授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など</p>	<p>ヒトは感覚情報を基に体性神経を駆使して臨機応変に次の行動を決定する。また自律神経系は、無意識下で内臓諸組織の生理機能を調整して生体の恒常性維持を行う。一方、もっと長い時間経過を経て器官・組織間の連携を行うのがホルモンを介した内分泌系による調節である。この科目では、これらの神経性および内分泌性の調節機能に焦点をあてて学習する。</p> <p>受講生は、高校での生物基礎、1年前期での解剖生理学を学習した上で、これらの高次生体調節機構について学ぶことになっている。これらはまた、管理栄養士国家試験における重要項目であり、栄養学科の科目で管理栄養士必修となっている。受講生の多くも管理栄養士必修ということで受講している。</p>
---	---

4. 学生の目標達成状況について

<p>(1) 教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。</p>	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	達成された	達成された				達成された
<p>(2) 上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。</p> <p>* 根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示し下さい。</p> <p><授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など</p>	<p>授業評価アンケートにおいて、「自分なりの目標を達成したか」という問いに「まあまあ達成した」以上の肯定的な回答が90%を越えている。また、「知識を確認、修正したり、新たに得ることができた」、「事象を理解する視点や考え方を得ることができたか」という問いに対する肯定的回答も、それぞれ90%を越えている。また、「自分が学ぼうとしている専門分野で、必要となる技術を身につけることができたか」との問いに対する肯定的評価もほぼ同程度であった。したがって、この科目で意図した教育目標は、ほぼ達成できたのではないかと考えられる。期末テストによる成績評価では、S、A、B、C、Dの度数は、27、39、14、11、1 となり、6割を超える学生がSまたはAの成績をとっており、この科目の課題に多くの学生が積極的に関わったことが反映されていると考えられる。</p>					

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

<p>DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。</p> <p><授業評価の指標> 「受講動機」、「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など</p>	<p>この科目は、1年前期の解剖生理学と併せて、栄養系の大学において、さらに専門的な医学系科目を学ぶための基礎知識を学習するものである。受講した学生の受講動機と学習到達度についての学生の自己評価からみて、この点についての所期の目標は、ほぼ達成できたと考えている。</p>
--	---

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお願いします。
また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお願いします。

<授業評価の指標>

「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など

この科目において学ぶ、「内分泌とホルモン」は、国家試験受験に頻出する重要な分野であるため、小テストを課すことにより、学生にある程度のストレスを与えている。

その結果、課題が重すぎると感じたためか、かなりの成績不振者が小テストの段階で出てしまい、その後の授業への取り組みにおいて熱意が感じられなくなってしまう傾向も過去に見られた。もう少し、課題を緩めに設定する必要も感じている。また、理想を言えば、自らの意思で課題を設定し、自ら解決しようとするPBLの導入も必要であると考えている。これについては、来年度この科目を担当する新任教員の努力に期待したい。

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお願いします。

国家試験受験まで、まだ十分な時間がある1年後期の段階では、内分泌腺とホルモンについての大まかな概要が理解できているかということを中心にして教育目標を立ててみた。ホルモンに関する小テストを2回実施したが、この課題に対してはほとんどの学生が積極的に取り組んだものと判断される。

今回身につけた知識が3年後の受験の時まで、どの程度残っているかといえば、必ずしも多くは期待できないというのが正直なところであるが、国家試験受験に必要なきめ細かい知識の積み上げは、4年になってからの管理栄養士演習で十分可能であると認識している。

リフレクションカード 2016年度後期

学科	栄養学科
氏名	尾上 均

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
生化学 I	1	後期	必修	いいえ	141

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	○	○	×	×

3. 授業準備について

<p>授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。</p> <p><授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など</p>	<p>①生化学という科目の本質上、講義では特に論理的思考を促すことに重点を置いている。一年時の選択科目「生活の中の化学」の内容との連動性を重視して講義を進めた。「化学」という単語が科目名についている時点で、多くの学生が苦手意識を持っていると考えられる。今年度の受験動機は、「必須科目である」97.5%、「資格取得に必要である」15.8%および「単位数を確保する」8.3%であった。一方、「関心のある内容である」は、わずか0.8%であった。生化学を意欲的な動機から受講する学生がほほいしない事実は、例年通りであり、最初から予想されたことであった。栄養学と生化学は、もともと起源を同一である科目であること、したがって、好むと好まざるに関わらず、栄養学を志すものは、この科目に真剣に取り組む必要があることを最初の講義で説明してから、以後の講義を進めた。</p> <p>②毎年、キーポイントやキーワードをまとめた資料を作成・改訂し、配布している。後尾の前後、試験前に目を通した上で、教科書やノートを使って学習に取り組むことを促している。</p> <p>③講義に用いるスライドは、前年のものを見直した上で、必要な改訂を加えて用いた。</p>
---	---

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	やや達成された	やや達成された	やや達成された	どちらともいえない		
(2)上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。	<p>最終成績の平均点は66点、不合格者は23名であり、合格率は、約75%であった。優(80点以上)は15名、秀(90点以上)は4名であった。50点未満での不合格者(未受験の学生3名を含む)は、11名であった。昨年同様、成績が高得点と低得点の両極端に分かれる傾向多見られた。約8割の学生は、予習・復習ともに0～2回しか行っていなかった。試験問題は、基礎的知識や基礎的な思考力を問う問題を併せて約9割、やや高度な知識や思考力を要する問題を併せて約1割の割合で作成した。基礎問題だけでも十分に合格点を達成できるような問題作成を心掛けた。予習復習を行う学生が少ない割には、合格率(75%)、高得点での合格者の割合(約20%)は、予想を上回るものであった。この原因は不明であるが、ここ3年間の学生の受講態度は非常に良く、そのことが合格率の向上等に寄与している可能性が考えられる。今後は、すべての学生が、せめて講義中だけでも意欲的に学習に取り組むことを促して、全員合格を目指したい。</p>					
<p>* 根拠として、成績(トータル成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。</p> <p><授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など</p>						

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

<p>DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。</p> <p><授業評価の指標> 「受講動機」、「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など</p>	<p>①CPでの位置づけは専門基礎科目であり、卒業必修かつ国家試験受験資格取得必修である。合格率、平均点、高得点者の割合から考え合わせて、内容的には妥当であると考えられる。</p> <p>②DPでの位置づけは、知識理解、思考判断、および意欲関心を問う科目である。試験での知識理解、思考判断を問う問題の正解率は比較的高く、概ね妥当な内容であったと考えられる。</p> <p>全体として概ね妥当な内容であったと考えられる。</p>
--	---

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単に示してください。
また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示ください。

<授業評価の指標>

「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など

授業の質評価において、「説明は理解しやすいものであった」の平均点が、2.8と低かった。説明の仕方、講義資料やスライドの図表および文章は、毎年見直しと改善を目指した改訂を行っているが、さらなる改善に取り組んでいく必要がある。その一方、学生にももう少し意欲的に受講してもらう必要があり、この点を以下に改善していくかを課題として、検討していきたい。

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示ください。

ここ3年間の合格率は、それ以前と比較して高いレベルを維持しており、達成状況は、まずまずとの印象を持っている。学生のまじめな受講態度の貢献が大であると考えているが、まじめなだけでなく、以下に意欲的に参加させるかが、今後の課題と考えている。

リフレクションカード 2016年度後期

学科	栄養学科
氏名	南里 宏樹

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
病理学	1	後期	必修	いいえ	95

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	○	×	×	×

3. 授業準備について

<p>授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。</p> <p><授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など</p>	<p>①病理学のように基礎医学に関する学習はほとんどの学生にとって初めて接する科目であると思うので、医学の専門用語については、できるだけ具体例を挙げて説明するようにした。</p> <p>②今回の受講動機をみると「必修科目である」が98.8%であるのに対し、「資格取得に必要である」と答えたものが17.3%と、昨年と同様に2つの数値に大きな差があった。この科目が、管理栄養士国家試験の受験に必修であることは、最初の授業で全員に伝えているが、まだ、十分とはいえない。実際に病理学・基礎医学の国試問題を提示することによって、その必要性を学生に理解させるようにしたい。また、「関心のある内容である」と答えたものがわずか2.5%に留まっていたが、病理学・基礎医学の知識が、管理栄養士の実践の場でも重要であることを、できるだけ具体的な事例を挙げて、説明していきたい。</p> <p>③授業の最初に学習準備のため、オリエンテーションを行い、授業計画表を配布した。</p> <p>④復習するための創作問題、国家試験の過去問の解説集などを配付して、自学自習の助けとした。</p> <p>⑤後期の中頃に確認テストを行い、学生の復習への意識を高め、学習状況を確認するようにした。</p>
---	--

4. 学生の目標達成状況について

<p>(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。</p>	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	どちらともいえない	どちらともいえない	どちらともいえない			
<p>(2)上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。</p> <p>*根拠として、成績(トータル成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。</p> <p><授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など</p>	<p>試験成績の平均値(100点満点)は72.9点(±13.3)で、内訳は、A(90点以上)が8名、B(80～89点)が24名、C(70点～79点)が30名、D(60～69点)が24名で、本試験不合格者(60点未満)は7名、出席回数不足による受験無資格者が2名であった。再試験によって5名が合格し、2名が再試験欠席であった。</p> <p>「到達度自己評価」は全項目で平均値が3点以上であるが、栄養学科の平均値より低い項目があるので、十分とは言えない。</p> <p>「学習量の評価」で、30分以上の復習を1回以上実施している学生が約30%で、これも十分とは言えない。昨年も同様の傾向であったので、練習問題および管理栄養士国家試験の過去問題および基礎栄養のまとめなどを早期に配付して、自己学習の手助けになるようにしたが、必ずしも改善されていない。</p> <p>その理由として、自由記述において、何をしたいかわからないという記述が多かったことより、授業時間の終わりにその日の授業の内容に関する練習問題などの課題を具体的に示すなどの対策を取っていきたい。</p>					

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

<p>DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。</p> <p><授業評価の指標> 「受講動機」、「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など</p>	<p>①CP、カリキュラムマップ上の位置づけからみての内容的妥当性 本科目は「専門教育科目・専門基礎分野」の必修科目であるが、国家試験の「人体の構造と機能及び疾病」に出題される内容であり、CP、カリキュラムマップ上の位置づけからみて、内容的には妥当であると考えます。</p> <p>②DP、行動目標からみての内容的妥当性 期末試験の成績において、概ね良好な成績を修めていることから、内容的には妥当であったと考える。</p> <p>③まとめ 以上から、内容的には概ね妥当であったと思われる。</p>
--	--

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお願いします。
また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお願いします。

<授業評価の指標>

「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など

「授業の質評価」において、項目4)の「授業中の学生参加」以外は、平均値が3.0以上であるが、栄養学科の平均値より低い。学生の成績と併せて判断すると、授業の目標はある程度達成できていると考えられるが、十分とは言えない。
学生の自由記述で、「(授業以外の学習の)仕方がわからない」、「課題がなかった」という感想があったが、今後、「病理学・基礎医学のまとめ」、「練習問題」、「国家試験の過去問題」などの復習課題を早めに配付して、自習の助けとなるようにしたい。

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお願いします。

専門教育科目・専門基礎分野にあたる本科目の位置づけから、基礎的知識の形成についてはある程度は達成できたと思われるが、十分ではない。予習・復習の時間が多くないことから分かるように、病理学・基礎医学の学習に対する興味・意欲は十分とはいえない。病理学・基礎医学と「栄養」との関連についてるだけ具体例を示すことによって、学生の関心を高めるようにしたい。一方で、配布した練習問題の学習状況をチェックするために、定期的に提出させるなどの方法を検討したい。

リフレクションカード 2016年度後期

学科	栄養学科
氏名	古田 吉史

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
食品学 I	1	後期	必修	いいえ	96

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	○	○	×	×

3. 授業準備について

<p>授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。</p> <p><授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など</p>	<p>①食品学 I は2年生前期に実施される食品学 II へと続く科目であり、管理栄養士の必須科目でもあるため、ほぼ全員の学生が受講している（受講動機からも読み取れる）。ただし、食品学 II とは異なり食品学 I はかなりサイエンス色が強く、難解な項目も多く含まれる。そのため、国家試験にもよく出題されるような重要なヶ所については時間を多くかけて説明し、それ以外の力所については深く掘り下げ過ぎることで学生達が拒絶反応をしめさないように説明することを心掛けた。</p> <p>②また、同時期に開講する食品学実験（食品に含まれる成分の化学特性について理解する）での実体験に講義内容を極力リンクさせることで、学習内容のより効果的なすり込みを図った。</p> <p>③講義中における学生の集中力や習熟度の向上、「見る・聴く・書く」のバランスを良好に保つために、毎回穴埋め式のテキストを準備し学生に配布した。</p> <p>④講義の終盤に「まとめと振り返りテスト」を実施し、学生らの習熟度の把握と知識の定着を図った。</p>
---	--

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
		達成された	達成された	達成された	達成された	
<p>(2)上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。</p> <p>* 根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差、S、A、B、C、Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示し下さい。</p> <p><授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など</p>	<p>最終的な成績の平均点が81点、再試験対象者が8名（うち6名は再試験により合格、2名は再試験を受験しなかったため再履修）、理想的レベル（90点以上として試験を作成）が全体の16%であったこと、また自由記述の意見に「講義が楽しかった」等の記載が見られたことから、概ね「知識理解」と「意欲関心を引き出す」という観点において、当初の目標を達成することができたのではないかと考えられる。</p> <p>「思考判断」に関しては、学生の到達度自己評価における「課題を検討する力を得ることができた」や「的確に判断する力を得ることができた」の項目がどちらも中央値が4となっており、学生らが自身の能力をある程度評価していることが読み取れる。また、期末テストの思考判断を問う問題の平均正答率も7割を超えていたことから、概ね目標を達成することができたと考えられる。</p> <p>また、次年度も今年度と同様に、トータルの成績の平均点が80点程度となるよう問題の難易度と出題範囲を調整したいと考えている。</p>					

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

<p>DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。</p> <p><授業評価の指標> 「受講動機」、「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など</p>	<p>①CP、カリキュラムマップ上の位置づけからみでの内容的妥当性 本科目は必修の科目であり全員が受講。2名を除き（再試非受験により再履修）受講した全ての学生が一定の成績を収めていることから、内容的には妥当であると考えられる。</p> <p>②DP、行動目標からみでの内容的妥当性 「知識理解」「思考判断」「意欲関心」の全ての項目において、達成度に問題はないと考えられる。</p> <p>③まとめ 以上のことから、内容的妥当性に問題はないと思われる。</p>
--	---

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお願いします。
また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお願いします。

<授業評価の指標>

「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など

授業の進め方に関しては、（学生による意見討論や情報収集に重きを置くのではなく）講義中に如何に学生らが講義の内容に興味・関心を抱き、限られた時間の中でどれだけ多くの事柄を集中して学べるかということを重要視して講義に取り組んだ。そのために、穴埋め式の配布テキストを毎回学生に提供しているが、学生からの意見でも「講義が楽しかった」等の意見が見られたこと、並びに授業の質評価における項目「説明は分かりやすいものであった」や「学習の範囲や課題は明らかであった」の中央値が4であったことを鑑み、授業の進め方としては次年度もこの方式を採用していきたいと考えている。

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお願いします。

基礎的知識の習得、意欲や関心・思考判断力の醸成という面で、概ね目的を達成することができた。
（しかし、昨年度と比べて今年度の思考判断を問う問題の平均正答率が8割を下回っていたため、次年度は8割に近づくよう講義中によりしっかりと解説を行っていききたい）

リフレクションカード 2016年度後期

学科	栄養学科
氏名	甲斐 達男

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
加工食品機能論	2	後期	必修	いいえ	112

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	○	○	×	×

3. 授業準備について

<p>授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。</p> <p><授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など</p>	<p>①例年どおり受講動機は「必修科目である」に集中しており、「関心のある内容である」は数%にとどまり、大学教育上、寂しい限りである。授業を通じて、できるだけ興味と関心を引きつけるように務めた。</p> <p>②昨年度までと同様、教科書を要領よくまとめたプリントを中心に授業を進めることによって理解を深め、記憶する要点を示して学習の便宜を図った。</p> <p>③管理栄養士国家試験にとってかなりウエイトの重い重要科目であるので、国家試験で重要視されている箇所については、特に時間をかけて解説を行っている。また、授業評価を甘くしてしまうと、そのまま国家試験の合格率に悪影響が出てしまうので、決して安易に単位を出してはならず、緩急の匙加減が難しい科目である。</p>
---	--

4. 学生の目標達成状況について

<p>(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。</p>	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	達成された	達成された	達成された	達成された		
<p>(2)上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。</p> <p>* 根拠として、成績(トータル成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示し下さい。</p> <p><授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など</p>	<p>①今年度の結果(前年度との比較考察を含めて) 本試験合格者は53名(50%)で前年の63名(46%)を上回った。再試験受験者は40名で前年の54名を下回った。これは再試験未受験者が15名と前年2名に比較して多かったからである。再試験の合格者は27名(68%)で、前年の54名中45名で(82%)よりもかなり合格率が落ちた。最終的に、再試不合格者13名と併せて、再履修者が28名であった。再履修者(3・4年生)の17名は全員合格であった。本試と再試を総合すると、受験者107名中79名(74%)が合格であり、これは前年の131名中108名(82%)と比べ減少した。これまで、本試験の出来不出来は、試験日程に大きく左右されてきたことから、達成度については本試験と再試験の合格率で判断すべき科目である。その判断に年度差が生じないように、今回を含めてこれまで7年間の試験問題を同一のもので実施してきている。本科目は、難易度の高い科目であるが、今年度の最終合格率はやや低いものの、理想的レベルに達していた。</p> <p>②クラスの違いについて 平均点はAクラス58.6点、Bクラス56.8点で大差なかった。標準偏差は、Aクラス15.9、Bクラス15.6であり、これも大差なかった。分散は、Aクラス248.4、Bクラス239.5であり、大差なかった。この科目については両クラスの学力に差が認められなかった。</p> <p>③学生による授業評価においては、「到達度自己評価」および「授業の質」において、例年どおり、高評価であったが、特記すべき点はない。</p>					

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

<p>DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。</p> <p><授業評価の指標> 「受講動機」、「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など</p>	<p>①CP、カリキュラムマップ上の位置づけからみても内容的妥当性 本科目は「卒業必須」かつ「国家試験受験資格取得に必須」であり、受講生は仕方なく受講することになり、受講生の意欲をどう醸し出すかの動機付けに苦慮する面がある。この課題に応えるように工夫し(就職後にどう結び付くかの解説を必要に応じて加える)、学生も一定の成績を収めていることから、内容的には妥当であると考えられる。</p> <p>②DP、行動目標からみても内容的妥当性 成績評価から見て「知識理解」「思考判断」「意欲関心」について十分満足いける結果が得られた。また、例年に比較して、成績が良いことから、内容的には妥当であったと考える。</p> <p>③まとめ 以上から、内容的妥当性には問題はないと思われる。</p>
--	--

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお示しください。
また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。

<授業評価の指標>

「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など

配布物が多いため、配布された順番がわからなくなる学生が観られたので、この点を改良した。具体的には、配布物に配布した順番を示す番号をつけて、配布物一覧表を、授業開始時にシラバスと併せて配布して対応した。

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示しください。

- ①基礎科目のなかでも「食品学」や「調理学」をベースにした応用に近い本科目の位置づけから、基礎的知識の形成については概ね達成できた。
- ②授業で取り上げる「加工食品」の種類についてももう少し幅を広げる時間が必要である。講義内容が膨大であるので、四年次の国試対策の授業で対応したい。
- ③食品加工に関する視聴覚教材をもう少し積極的に取り入れる必要性を感じるので、次年度、何らかの対策を実施したい。

リフレクションカード 2016年度後期

学科	栄養学科
氏名	山田 志麻

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
調理学	1	後期	必修	はい	102

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	×	○	×	○

3. 授業準備について

<p>授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。</p> <p><授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など</p>	<p>①授業の始まりに、今日の講義内容についてまず「今日のポイント」を説明し、それから話を始めた。 ②1枚のスライドの文字を大きく見やすくし、説明がわかりやすいようにした（印刷物も同様） ③受講動機は必修科目であり、資格取得に必要な科目であるため、具体例をあげ、関心を持つように心がけた。 ④章ごとに、国試に出た実際の問題を提示し、出題内容や出題傾向を説明し覚えるポイントとした。</p>
---	--

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
		やや達成された	やや達成された		やや達成された	

<p>(2)上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。</p> <p>*根拠として、成績(トータル成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示し下さい。</p> <p><授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など</p>	<p>成績の評価点は83.3±14.2点、再試3名であった。80点以上が73%であり、79点以下が27%であった。到達度自己評価の平均値と中央値は(1)目標の達成：3.5、3.0、(2)知識の確認修正：3.8、4.0、(5)的確な判断：3.6、4.0、(6)学習意欲：3.7、4.0であった。</p> <p>この結果より、学習意欲の向上や知識の習得、的確な判断などが習得できたと考えられる。授業の質の評価の(3)説明は理解しやすいものであったでは平均点3.6、中央値3.0で平均並みと考えられる。</p>
--	--

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

<p>DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。</p> <p><授業評価の指標> 「受講動機」、「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など</p>	<p>①CP、カリキュラムマップ上の位置づけからみても内容的妥当性 「専門基礎科目」の「専門基礎分野」である本科目は、下学年にとって基本的専門分野として重要であり、必修である。授業評価の結果より、目標の達成や知識の習得などが行われているため、学生自身の達成感が見込められる。上学年への専門知識の習得に向け、専門の基礎固めとして、内容的には妥当であると考えられる。</p> <p>②DP、行動目標からみても内容的妥当性 学生の自己評価から専門的知識や技術の習得は比較的、達成度が高いが、自己啓発や研鑽しようとする態度は受け身であると思われた。もっと自発的に行動させるため、「自分の意見をまとめる」、「話し合う」などの時間を取り、発表させるなどの参加型授業を組み込んでいきたい。</p> <p>③まとめ 以上から、内容的妥当性には問題はないと思われる。</p>
--	--

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお示しください。
また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。

<授業評価の指標>

「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など

授業の質評価の(4)「授業中に自分の意見をまとめる、話し合う、発表するなど、学生が参加する機会が設けられていた」では平均点3.4、中央値3.0とやや低い。
授業の最後にその回の内容をまとめた問題を解く時間を設けているため、学生に発表させるなどの方法を取り入れ、参加型授業を組み込んでいきたい。

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示しください。

本科目は「専門基礎科目」、「専門基礎分野」に位置づけするため、基礎的知識の形成については概ね達成できた。授業の最後にしっかりと問題を解き、調理理論及び調理科学の理解を促し、学習効果を高めたい。

リフレクションカード 2016年度後期

学科	栄養学科
氏名	甲斐 達男

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
食品衛生学	2	後期	必修	いいえ	121

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	○	○	×	×

3. 授業準備について

<p>授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。</p> <p><授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など</p>	<p>①例年どおり受講動機は「必修科目である」に集中しており、「関心のある内容である」は数%にとどまり、大学教育上、寂しい限りである。授業を通じて、できるだけ興味と関心を引きつけるように務めた。</p> <p>②昨年度までと同様、教科書を要領よくまとめたプリントを中心に授業を進めることによって理解を深め、記憶する要点を示して学習の便宜を図った。</p> <p>③管理栄養士国家試験にとってかなりウエイトの重い重要科目であるので、国家試験で重要視されている箇所については、特に時間をかけて解説を行っている。また、授業評価を甘くしてしまうと、そのまま国家試験の合格率に悪影響が出てしまうので、決して安易に単位を出してはならず、緩急の匙加減が難しい科目である。</p>
---	--

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	達成された	達成された	達成された	達成された		
(2)上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。	<p>①今年度の結果（前年度との比較考察を含めて） 本試験合格者は38名（42%）で前年の51名（46%）を下回った。再試験受験者は42名で前年の64名を下回った。これは再試験未受験者が12名と前年3名に比較して多かったからである。再試験の合格者は38名（91%）で、前年の51名で（80%）よりも合格率は高かった。最終的に、再試不合格者4名と併せて、再履修者が22名であった。再履修者（3・4年生）の27名は全員合格であった。本試と再試を総合すると、受験者118名中96名（81%）が合格であり、これは前年の127名中102名（79%）と比べ、僅かに増加した。これまで、本試験の出来・不出来は、試験日程に大きく左右されてきたことから、達成度については本試験と再試験の合格率で判断すべき科目である。その判断に年度差が生じないように、今回を含めてこれまで7年間の試験問題を同一のもので実施してきている。本科目は、難易度の高い科目であるが、今年度の最終合格率はかなり高く、理想的レベルに達していた。</p> <p>②クラスの違いについて 平均点はAクラス55.4点、Bクラス53.9点で大差なかった。標準偏差は、Aクラス20.9、Bクラス21.1であり、これも大差なかった。分散は、Aクラス425.2、Bクラス434.9であり、大差なかった。この科目については両クラスの学力に差が認められなかった。</p> <p>③学生による授業評価においては、「到達度自己評価」および「授業の質」において、例年どおり、高評価であったが、特記すべき点はない。</p>					

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

<p>DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。</p> <p><授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など</p>	<p>①CP、カリキュラムマップ上の位置づけからみても内容的妥当性 本科目は「卒業必須」かつ「国家試験受験資格取得に必須」であり、受講生は仕方なく受講することになり、受講生の意欲をどう醸し出すかの動機付けに苦慮する面がある。この課題に応えるように工夫し（就職後にどう結び付くかの解説を必要に応じて加える）、学生も一定の成績を収めていることから、内容的には妥当であったと考える。</p> <p>②DP、行動目標からみても内容的妥当性 成績評価から見て「知識理解」「思考判断」「意欲関心」について十分満足いける結果が得られた。また、例年に比較して、成績が良いことから、内容的には妥当であったと考える。</p> <p>③まとめ 以上から、内容的妥当性には問題はないと思われる。</p>
---	---

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお示しください。
また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。

<授業評価の指標>

「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など

配布物が多いため、配布された順番がわからなくなる学生が観られたので、この点を改良した。具体的には、配布物に配布した順番を示す番号をつけて、配布物一覧表を、授業開始時にシラバスと併せて配布して対応した。

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示しください。

- ①基礎科目のなかでも重要なものにあたる本科目の位置づけから、基礎的知識の形成については概ね達成できた。
- ②「食中毒」についてももう少し理解を深めさせるために時間が必要である。講義内容が膨大であるので、四年次の国試対策の授業で対処したい。
- ③昨年度、122教室についてのクレームが上がっていたので、別の教室を使用することにして対処した。学生は気温変化に敏感であるので、今後も使用する教室については配慮し、場合によっては学期の途中で教室変更を行うことも考えたい。

リフレクションカード 2016年度後期

学科	栄養学科
氏名	森田 洋

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
食品の官能評価・鑑別論演習	2	通年	選択	いいえ	86

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	○	×	×	×	×

3. 授業準備について

<p>授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。</p> <p><授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など</p>	<p>本講義は食品の鑑別論というテーマで栄養学科の学生にとって必要とされる食品に関する幅広い専門的分野を取り扱っていることから、他の講義で取り扱っている分野と横断的な部分についても丁寧にその関係について解説を行うことで、わかりやすい授業運営に心がけながら授業準備を行った。また適宜、コメントカードに講義の感想や質問があれば質問内容を記入させ、次回の講義で質問内容に答えるなどして、学生の理解度と学習意欲を増すための工夫を行った。更に適宜、難易度の高い分野や試験直前には演習問題を実施し、学習状況の確認を行った。</p>
---	---

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	達成された	達成された				
<p>(2)上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。</p> <p>* 根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示し下さい。</p> <p><授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など</p>	<p>受講生のうち、ほとんどの受講生が「秀」あるいは「優」の成績であった。またDPの全ての項目について、平均値が3.3ないしは3.4となり、中央値を上回る結果となった。</p>					

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

<p>DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。</p> <p><授業評価の指標> 「受講動機」、「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など</p>	<p>本科目は栄養学科の専門科目としての位置づけとなる。全ての受講生が「自分なりの目標を達成した」という設問に対して、「まあまあそうだと思う」、「わりにそうだと思う」、「かなりそうだと思う」と答えたことから、本科目の内容的妥当性には問題ないものと思われる。また食品の鑑別に係る様々な事象を理解する視点や考え方を得ることができたと答えた受講生についても平均値が3.3であり、他の講義で取り扱っている分野と横断的な部分についても丁寧にその関係について解説してきた成果が表れているものと解釈している。</p>
--	---

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお願いします。
また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお願いします。

<授業評価の指標>

「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など

授業の質の評価については概ね良好な結果であったが、学習量の評価で事前学習、事後学習をしている学生が少なかった。アンケートの自由記入欄を見ると「時間がなかった」という意見があり、本演習にまで学習時間が確保できないことが伺えるが、次年度以降も事前学習、事後学習を効率的にどのように行うか、具体的に学生に対してアドバイスができればと考えている。

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお願いします。

教育目標、最終成績評価、学生による自己評価のいずれも専門科目としての役割を十分に達成していると思われる。課題であるが、受講者に対して効率的に事前学習・事後学習を行うためのアドバイスができればと考えている。

リフレクションカード 2016年度後期

学科	栄養学科
氏名	古田 吉史

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
食品流通・消費論	2	後期	選択	いいえ	81

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	×	×	×	×

3. 授業準備について

<p>授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。</p> <p><授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など</p>	<p>①食品流通・消費論は、フードスペシャリスト資格認定試験の必須科目であり、資格取得を目指す学生や資格に関心のある学生が多く受講している（学生の受講動機からも読み取れる）。また、単純に内容に関心があるからという学生及び単位数の確保のためという学生もそれぞれ約1割、2割程度見受けられた。さらに、本科目は食品の流通と消費の場面に深く掘り下げた内容で、栄養士養成科目の中でも非常に特異的な科目である。そのため、まず学生らに科目の内容自体への関心度を高めてもらうということ、次に馴染みのない分野の内容を如何に学生らに分かり易く伝えることができるか、というこの2点を心掛け講義に臨んだ。</p> <p>②講義中における学生の集中力や習熟度の向上、「見る・聴く・書く」のバランスを良好に保つために、毎回穴埋め式のテキストを準備し学生に配布した。</p> <p>③講義終盤に「まとめと振り返りテスト」を実施し、学生らの習熟度の把握と知識の定着を図った。</p> <p>④食を取り巻く諸問題への学生らの興味・関心を高めるためにレポート課題を課した。</p>
---	--

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
		達成された	達成された			

<p>(2)上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。</p> <p>* 根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示し下さい。</p> <p><授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など</p>	<p>最終的な成績の平均点が86点、再試験対象者が1名で、理想的レベル（90点以上として試験を作成）が全体の50%であったこと、また学生の到達度自己評価における知識を新たに得ることができた項目の中央値が4であったこと、さらに教員への意見の欄に「説明が分かりやすかった」「講義が楽しかった」等の記載が見られたことから、概ね「知識理解」の面において当初の目標を達成することができたのではないかと考えられる。</p> <p>しかしながら、（好ましいことではあるが）平均点が86点というのは、依然として少し高すぎるとするのが正直な印象である。次年度も引き続き、平均点が80点程度となるよう、問題の難易度と出題範囲を工夫したいと考えている。</p>
--	---

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

<p>DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。</p> <p><授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など</p>	<p>①CP、カリキュラムマップ上の位置づけからみでの内容的妥当性 本科目は専門の選択科目であり、i フードスペシャリスト資格の取得を目指す学生や ii 資格取得に関心を持っている学生らが受講している。受講した全ての学生が一定の成績を収めていることから、内容的には妥当であると考えられる。</p> <p>②DP、行動目標からみでの内容的妥当性 「知識・理解」の達成度について、学生の到達度自己評価および最終の成績評価から問題はないと考えられる。</p> <p>③まとめ 以上のことから、内容的妥当性に問題はないと思われる。</p>
---	---

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお示しください。
また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。

<授業評価の指標>

「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など

授業の進め方に関しては、穴埋め式の配布テキストを毎回学生に提供しているが、学生からの意見で「説明が分かりやすかった」「楽しかった」等の意見が見られたこと、並びに授業の質評価においても全ての項目の中央値が4であったことから、次年度も引き続きこの方式を採用していきたいと考えている。

但し、「配布プリントの書く欄をもう少し大きくして欲しい」という意見に対しては、次年度は書くスペースを極力広げる等の改善を図りたいと考えている。

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示しください。

知識の習得と理解という面では、概ね目的を達成することができた。
次年度は、上記6に示したように配布物への学生の意見については是非改善を図りたい。

リフレクションカード 2016年度後期

学科	栄養学科
氏名	清末 達人

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
人体の構造と機能総合実習	1	後期	選択	いいえ	95

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	×	○	×	○

3. 授業準備について

<p>授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考に記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。</p> <p><授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など</p>	<p>人体の構造と機能に関する基礎的な理解を得るため、とりわけ、栄養学の分野で重要な消化・吸収の仕組みと、ホルモンによる腎機能調節に焦点をあてて、生化学および生理学の手法を用いた一連の実習を実施する。学生諸君には、高校および1年前期までに修得した知識をもとに、実際の生体標本に触れることを通して、生命の不思議、生体機能の精妙さについての感動を実感していただきたい。</p>
---	--

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	達成された	達成された		達成された		達成された
<p>(2)上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。</p> <p>* 根拠として、成績(トータル成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示し下さい。</p> <p><授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など</p>	<p>授業評価アンケートにおいて、「自分なりの目標を達成したか」という問いに「まあまあ達成した」以上の肯定的な回答が100%を占めている。また、「知識を確認、修正したり、新たに得ることができた」、「事象を理解する視点や考え方を得ることができたか」、「自分が学ぼうとしている専門分野で、必要となる技術を身につけることができたか」との問いに対する肯定的評価もほぼ100%近い学生が下している。したがって、この科目で意図した教育目標は、ほぼ達成できたのではないかと考えられ、授業態度、レポート提出状況からも、この科目に多くの学生が主体的に関わったこと伺われる。</p>					

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

<p>DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。</p> <p><授業評価の指標> 「受講動機」、「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など</p>	<p>この科目では、①食物中の栄養素の消化に関わる主な消化酵素の性質や働き、②生化学および生理学で用いる基本的な装置、実験器具の名称と使用方法、③ラットの解剖を通して、哺乳動物の臓器の形状と働き、に関わる実習項目を準備し、それぞれに到達目標を設定した。総じて学生諸君は、進んで熱心の実習に取り組んでいたと評価している。実際に自分の眼と体で体得した知識・経験は、将来の職業人として生活の中で何らかの形で生かされるものと信じている。</p>
--	--

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお願いします。
また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお願いします。

<授業評価の指標>

「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など

実験動物を扱う実習については、実験倫理や動物愛護の考え方などから今後ますます制約が強まることが予想される。今年度から、ラットを使う実習の前に学生と教職員に対するガイダンスを実施したが、将来学生から動物実験の意義を問う声が起こることも予想され、動物を死に至らしめない代替法の導入も含めた今後の検討が必要と思われる。

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお願いします。

この科目では、①食物中の栄養素の消化に関わる主な消化酵素の性質や働き、②生化学および生理学で用いる基本的な装置、実験器具の名称と使用方法、③ラットの解剖を通して、哺乳動物の臓器の形状と働きなどについての実習を行った。到達目標は①～③の事柄について、概要を第三者に説明できるようになるという点においた。学生による授業評価とレポートの採点結果からみて、これらの到達目標は、ほぼ達成されたものと判断できる。今後の課題としては、動物実験指針に沿った形で、動物実験の代替法の学習効果についてよく検討し、十分な学習効果が期待できるのであれば積極的に取り入れるべきであると思われる。

リフレクションカード 2016年度後期

学科	栄養学科
氏名	古田 吉史

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
食品学実験	1	後期	必修	いいえ	95

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	○	○	×	×	×

3. 授業準備について

<p>授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。</p> <p><授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など</p>	<p>①食品学実験は必修科目であるため1年生の全員が受講している（受講動機からも読み取れる）。同時期開講の食品学Ⅰの内容を実験を通して具体的に学ぶ、及び食品学実験は学生らが体験する最初の化学実験であるため、実験の心得や器具・機器の取り扱いの初歩について学ぶ、ことに重点を置き授業に臨んだ。</p> <p>②食品学Ⅰの講義内容を各実験の解説時に極力リンクさせること、並びに学生らの記憶が薄れないよう各項目毎に適時レポートを提出させることで、学習内容のより効果的なすり込みを図った。</p> <p>③提出されたレポートの実験結果や考察の不備・間違い等に関しては、翌週の実験冒頭で解説を行い、学生らの理解が正しく深まるように努めた。</p> <p>④講義の終盤に「まとめと振り返りテスト」を実施し、学生らの習熟度の把握と知識の定着を図った。</p>
---	---

4. 学生の目標達成状況について

<p>(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。</p>	全体を通して	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	達成された	達成された	達成された			
<p>(2)上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。</p> <p>*根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示し下さい。</p> <p><授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など</p>	<p>再試験対象者が1名で理想的レベル(90点以上としてレポート+試験を評価)が全体の76%であったこと、また学生による到達度自己評価の全ての項目の中央値が4であったことから、概ね当初の目標を達成できたのではないかと考えられる。</p>					

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

<p>DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。</p> <p><授業評価の指標> 「受講動機」、「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など</p>	<p>①CP、カリキュラムマップ上の位置づけからみての内容的妥当性 本科目は必修の科目であり全員が受講。受講した全ての学生が一定の成績を収めていることから、内容的には妥当であると考えられる。</p> <p>②DP、行動目標からみての内容的妥当性 「知識理解」および「思考判断」のどちらの項目においても達成度に問題はないと考えられる。</p> <p>③まとめ 以上のことから、内容的妥当性に問題はないと思われる。</p>
--	---

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお願いします。
また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお願いします。

<授業評価の指標>

「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など

授業の進め方に関しては、授業の質評価において全ての項目の中央値が4であったこと、また昨年度はなかった担当教員への意見の欄に「説明が丁寧で分かりやすい」「実験が楽しい」「いつも前向きに授業に取り組める」等の記載が見られたことから、次年度も今年度とほぼ同様な形式を進めていきたいと考えている。

また、各項目毎のレポートに関しても、昨年度見られたような一部ポイントがズレたような又は誤った結果・考察等はほとんど見受けられなかった。

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお願いします。

総合的に判断して、概ね目的を達成することができた。

リフレクションカード 2016年度後期

学科	栄養学科
氏名	相良 かおる

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
健康情報処理実習	2	後期	必修	いいえ	103

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	○	×	×	○

3. 授業準備について

<p>授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。</p> <p><授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など</p>	<p>本科目は2年次後期必須の実習科目で履修生は103名である。従って受講動機は必須科目である97.7%、資格取得に必要である15.9%であった。授業の実施にあたり大切にすることは、卒業後の利活用を想定し、卒業にも役立つテキスト（化学同人の「わかる統計学 健康・栄養を学ぶために」松村康弘・浅川雅美著）を選定し、データを入力することで推測統計が可能となるExcel教材を準備し、栄養調査・分析に必要な統計処理の課題を設定したことである。</p> <p>昨年、授業の向上について以下のことを記載した。</p> <p>「2016年度からは、1年次の「現代社会と統計」から、管理栄養士向けの統計学のテキストを使用し、2年間同じ教科書を使って記述統計から推測統計までを学ぶように授業計画を立てている。なお、選択科目の「現代社会と統計」の授業で扱う記述統計は、高校数学で学ぶ「データの分析」の復習になっている。加えて、他科目のレポートなどで自学自習する時間が取れない現状を踏まえ、演習課題（授業内容）を減らそうと考えている。また、栄養学研究や栄養調査の中でどのように統計学が使われているのかを知るために、2016年度からは図書館の協力を得て、文献検索演習を実施する予定である。」</p> <p>そして予定通り、2016年度は、1年次より前述のテキストを用い、演習課題を減らし、図書館の協力を得て文献検索演習を実施した。</p>
---	--

4. 学生の目標達成状況について

<p>(1) 教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。</p>	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	やや達成されなかった	やや達成されなかった	やや達成されなかった			やや達成されなかった
<p>(2) 上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。</p> <p>* 根拠として、成績（トータル成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差、S、A、B、C、Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。</p> <p><授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など</p>	<p>評価割合は次の通りである。なお、（ ）内は昨年度の割合である。 A：1% (4%) B：8% (14%) C：31% (37%) D：42% (35%) E：16% (10%)</p> <p>授業評価の到達度自己評価は以下の通りである。</p> <p>1と2 : 3 : 4と5</p> <p>26% (9%) : 66% (62%) : 8% (29%) (2) 知識を確認、修正したり、新たに得ることができた</p> <p>31% (13%) : 66% (69%) : 5% (19%) (4) 自分が学ぼうとしている専門分野のさまざまな課題を検討する力を得ることが出来た</p> <p>36% (13%) : 60% (70%) : 5% (17%) (5) 自分が学ぼうとしている専門分野において、的確に判断する力を得ることができた</p> <p>32% (14%) : 64% (63%) : 4% (21%) (7) 自分が学ぼうとしている専門分野で必要となる技術を身につけることができた</p> <p>23% (19%) : 62% (63%) : 14% (19%) (8) コミュニケーション力や表現力を高めることができた</p> <p>自由記述では、回答者46名中「説明が早い」、「説明を聞いても分からない」、「テキストが難しい」と回答した者が34名いた。基礎学力を測る上で、定期試験問題に小学校で学ぶ濃度計算の問題を出題したところ、46名 (45%) が解答できておらず、また学習量の評価において、全く予習をしてこない学生は54名 (52%)、振り返りの復習をしない学生は56名 (54%) であり、基礎学力不足と予習・復習に掛ける時間不足が相まって意見にあるように説明を聞いても分からない状態のまま定期試験を迎えていた。2年後期から3年にかけて、月曜の1時間目から金曜の5時間目まで、必須科目や実験実習科目が詰まっており、教員の目から見ても、物理的に時間が無い様子が、他科目のレポート提出で徹夜をしたという学生、本授業中に他の授業のレポートを作成する学生もいた。本科目に関連するDPの達成度自己評価をみると、3から5の評価割合が70%以下の項目が3項目あり、教育目標は達成されたとは言えない。</p>					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。

<授業評価の指標>
「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など

本科目は専門教育分野に属し、CPは、「臨床栄養、栄養教育、給食経営管理、公衆栄養などに関する専門教育科目を習得した後、病院・福祉施設・学校給食・保健所などにおける『臨地実習』を実施し、実践的な能力とともに社会人としての基礎的な能力を養う」となっており、本授業の内容は妥当であると考えている。

本科目のシラバスに記載の行動目標4項目について学生の自己評価で「できる」、「メモやテキストを調べればできる」、「全くできない」の3段階評価で「全くできない」と回答した学生の割合は以下の通りである。

11% (1) アンケート調査の一連の流れを説明できる
22% (2) データの種類について説明できる
29% (3) 仮説検定について説明できる
23% (4) 栄養学研究で得られたデータについて、適切な統計的処理方法が選択できる

今回の受講生においては、統計学の基礎であり高校で学び、統計学のテキストの最初に書かれているデータの種類の種類について「全く説明できない」と回答した学生が22%いることに加え、昨年より演習課題を減らし、授業時間内で出来るようにして配布し、また提出期間を授業時間外で仕上げられるように余裕を持って設定したにも関わらず、未完成のまま提出した学生が14名（14%）いたことから、学生の学力の面においては妥当とは言えない。

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善策を簡単に示してください。
また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。

<授業評価の指標>
「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など

大学の教養課程で開講する「初等統計学」の授業と比較し、本授業で用いるテキストは難解なものではなく、授業の進め方も説明も速くはない。しかしながら、「説明を聞いても分からない」という意見が多くあり、また2年後期開講の授業計画上、授業外で予習・復習する時間のない状況は続く。

そこで、推測統計の割合を減らし、記述統計の割合を多くし、記述統計学の理解度の向上を目指す。

【学生からの指摘】
(1) テキストに間違いが多い・・・間違いについては出版社に報告し、2017年度採用の第2刷では訂正されている。
(2) パソコンの調子が悪い・・・教員が対処できることとして、頻繁に書き保存するように声掛けしている。
(3) (定期)試験前にパワーポイントの発表をする必要はあるか・・・食事調査の手順の最後は、報告書を作成し、公開することであり、シラバスに記載の通り14、15回目の授業は報告会になる。

7. 総合的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総合的評価と課題をお示しください。

昨年、この課題の欄に①例年管理栄養士国家試験を受験する学生が8割程度であることを考えると、管理栄養士必須科目としても良いのではないかと、②開講授業が過密する2年後期ではなく、卒業ゼミや卒業研究と同時期の4年前期または3年後期の開講を検討しても良いのではないかと記載した。

①については管理栄養士必須科目に変更されることとなった。②については、他の科目の開講時期を変更することで、予習・復習する時間的余裕が生まれるだろうとのことで開講時期の変更は叶わなかった。

学士力の保証、及び学生の数学嫌いとは高くはない基礎学力を考えると、臨地実習を終え、食事調査法の手順および統計処理の必要性に気付く3年後期または4年前期に開講するのが妥当ではないかと思う。

リフレクションカード 2016年度後期

学科	栄養学科
氏名	山田 志麻

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
基礎調理学実習	1	後期	必修	はい	95

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	×	×	○	○

3. 授業準備について

<p>授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。</p> <p><授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など</p>	<p>①シラバスや実際の実習内容について予定を説明し、各週で誰が何を担当するかなど、役割分担を事前に決定し、個々人で献立の責任を持たせるようにした。</p> <p>②すべての実習のメニューのデモンストレーションを行い、どのような料理をどのように作成し、盛付けるかまでをわかりやすく説明した。</p> <p>③実習の前週に次回の献立内容とポイントを記入するレポートを配布し予習してくるよう促した。</p> <p>④実習時間が短く、数種類の料理を作成するのは大変であるが、なぜそうするか、その理由をいつも説明し、根拠に基づき調理ができるように促した。</p> <p>⑤楽しく、おいしくをモットーに実習を行った。</p>
---	---

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	やや達成された	やや達成された			やや達成された	やや達成された
<p>(2)上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。</p> <p>* 根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示し下さい。</p> <p><授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など</p>	<p>成績の評価点は82.8±9.4点、再試1名、無資格2名であった。80点以上が64%であり、79点以下が36%とまずまずのレベルであった。</p> <p>到達度自己評価の平均値と中央値は(1)目標の達成:3.8、4.0、(2)知識の確認修正:4.1、4.0、(5)的確な判断:4.0、4.0、(6)学習意欲:4.1、4.0、(7)必要とする技術の習得:4.0、4.0であった。この結果より、学習意欲の向上や知識の習得、的確な判断、技術などが習得できたと考えられる。</p> <p>授業の質の評価では(1)課題の評価が明確は平均点4.1、中央値4.0(2)学習範囲の明確さは平均点4.2、中央値4.0(3)説明の理解しやすさは平均点3.9、中央値4.0であり、総合的に理解しやすかったと考えられる。</p> <p>学生の自己評価から専門的知識や技術の習得は比較的、達成度が高いが、学習量の評価の(1)より予習を1回でも行っているものは63名、全く行っていないものが22名であることが分かった。実習をスムーズに効率よく行うには全体の予習が必須であるが、全体の25%が予習を行っていないため、実習の効率や流れに支障をきたしていると推察される。</p>					

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

<p>DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。</p> <p><授業評価の指標> 「受講動機」、「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など</p>	<p>①CP、カリキュラムマップ上の位置づけからみでの内容的妥当性 「専門基礎科目」の「専門基礎分野」である本科目は、下学年にとって基本的専門分野として重要であり、必修である。授業評価の結果より、目標の達成や技術の習得などが行われているため、学生自身の達成感が見込められる。上学年への専門知識の習得に向け、専門の基礎固めとして、内容的には妥当であると考えられる。</p> <p>②DP、行動目標からみでの内容的妥当性 学生の自己評価から専門的知識や技術の習得は比較的、達成度が高いが、自己啓発や研鑽しようとする態度は受け身であると思われた。</p> <p>③まとめ 以上から、内容的妥当性には問題はないと思われる。</p>
--	---

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお願いします。
また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお願いします。

<授業評価の指標>

「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など

授業の質評価の(4)「授業中に自分の意見をまとめる、話し合う、発表するなど、学生が参加する機会が設けられていた」では平均点3.8、中央値4.0であった。基礎調理の習得であるため、いろいろな調理を行うことで技術や知識が身についていくが、実習内容に余裕があれば、「自分の意見をまとめる」、「話し合う」などの時間を取り、発表させるなどの参加型授業も組み込んでいきたい。2年前期の応用調理学実習では参加型実習を組み込んでいる。

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお願いします。

25%の学生が予習を行わずに調理実習に臨んでいることは、学習効率が非常に悪いと考えられる。この一部の学生の受け身的な態度を改善するよう対策が必要であると痛感した。対策として、実習前に各自が作業工程表を作成し、その工程表を持参して調理実習を行うよう変更する予定である。1年生の基礎調理であるため、混乱は免れないが、少しずつでも各自ができるようになるように実習を積み重ねていく。また、調理技術をさらに身につけるため、自宅で調理を行うなど、自発的行動を促すよう取り組む。

本科目は「専門基礎科目」、「専門基礎分野」に位置づけるため、基礎的知識の形成については概ね達成できている。しかし、「実習中に自分の意見をまとめる、話し合う、発表するなど、学生が参加する機会が設けられていた」の評価がやや低かったため、実習前に「話し合う」などの時間を取り、グループ内で打ち合わせなどを活発に行えるよう組み込んでいきたい。

リフレクションカード 2016年度後期

学科	栄養学科
氏名	甲斐 達男

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
微生物学実験	2	後期	必修	いいえ	98

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	×	○	×	×	○

3. 授業準備について

<p>授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。</p> <p><授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など</p>	<p>①今回の受講動機は例年と変わりなく「必修科目である」にほぼ集中している。「関心のある内容である」は極めて低いレベルに留まっているのは寂しい限りである。授業を通じて、できるだけ実験内容に興味と関心を引きつけるように努めた。</p> <p>②例年同様、実験班のチームワークが円滑に進むような人員配置になるよう配慮することによって各自の理解を深め、臨機応変に課題やレポートを課すことによって要点と技術を会得できるよう便宜を図っている。</p> <p>③管理栄養士国家試験にとって重要科目である「微生物学」と「食品衛生学」を体験的に学ぶための科目であり、卒業後の勤務先で必要となる知識や技術を習得するための科目であり、その点に気を配りながら授業を進めた。</p>
---	--

4. 学生の目標達成状況について

<p>(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。</p>	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	達成された		達成された			達成された
<p>(2)上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。</p> <p>* 根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示し下さい。</p> <p><授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など</p>	<p>①総合評価 一般社会に出て通用するような文書作成能力を身に付けてもらうために、実験レポートを国際基準に従って書くよう指導している。この実験レポートの提出が2回あるため、受講生にとって、大きな負担となるが、反面、その効果(文書作成能力の向上)は著しいものがある。今年度も、受講生は期待どおりの成果を残した。</p> <p>②今年度の結果(前年との比較考察も含めて) 実験最終成績の平均値は87点(前年度は78点)であり、再試対象者は0名であった。昨年度上回る良い成果であった。90点以上の秀評価52名(前年度は24名)、80点以上90点未満の優評価12名(前年度は14名)と、理想的なレベルに達している者が69%(前年は35%)という大変好ましい結果であった。</p> <p>③クラス間の違い 平均点はAクラス86.1点、Bクラス87.1点で大差なし。標準偏差は、Aクラス14.9、Bクラス41.8と、実に大きな差が生じた。これは、クラスの編成を名前順でしていることに大きなクラス間差を生じさせ得る問題を意味している。分散については、Aクラスは217.3点、Bクラスは244.8点で大差はなかった。</p> <p>④学生による授業評価 「到達度自己評価」、「授業の質」双方の評価において、例年どおり高評価であり、特記すべき点はない。「毎回の実験に興味を持たれた」という趣旨のコメントがいくつも寄せられており喜ばしい成果であった。</p>					

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

<p>DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。</p> <p><授業評価の指標> 「受講動機」、「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など</p>	<p>①CP、カリキュラムマップ上の位置づけからみでの内容的妥当性 本科目は実験科目であり、「専門基礎科目」である「微生物学」「食品衛生学」をサポートする位置にあり、管理栄養士の職場において必修となるものである。学習の動機付けは容易であり、学生も一定レベル以上の良い成績を収めていることから、内容的には妥当であると考えられる。</p> <p>②DP、行動目標からみでの内容的妥当性 成績評価から「思考判断」「技能表現」ともに達成度が高かったことと、昨年度課題としてあげた領域はすでに内容を修正しており、内容的には妥当であったと考える。</p> <p>③まとめ 以上から、内容的妥当性には問題はないと思われる。</p>
--	--

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお示しください。
また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。

<授業評価の指標>

「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など

- ①「参加する機会が作られていた」の「授業の質」評価は例年どおり高い。
- ②他の授業とのバランス上、これまでも実施してきた「授業課題の削減」を検討して、学習の質を下げずに学生の負担軽減を図りたい。

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示しください。

- ①基礎実験のなかでも重要なものにあたる本科目の位置づけから、成績評価を鑑みると、基礎的知識と技術の形成については概ね達成できた。
- ②受講生が初めて体験する微生物の取扱いを行う実験であり、実験目的・手法・原理について、今後もより判りやすくする工夫を重ねて行いたい。
- ③文書作成能力が明らかに向上したことが明確に判り、今後も、実験レポート作成手法は変えずに実施して行く。

リフレクションカード 2016年度後期

学科	栄養学科
氏名	南里 宏樹

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
基礎栄養学Ⅱ	2	後期	選択	いいえ	97

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	○	○	×	×	×

3. 授業準備について

<p>授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。</p> <p><授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など</p>	<p>①基礎栄養学Ⅱは、カリキュラムの中では選択科目となっているが、前期の基礎栄養学Ⅰ(必修科目)に続く基礎栄養学の後半を講義する連続した科目なので、全員に履修するように指導し、実際に全員履修している。ただ、管理栄養士国家試験の受験には必修であることを最初の授業で伝えているにもかかわらず、「資格取得に必要である」と答えたものが15.9%とかなり低いので、更に、強調するようになりたい。また、「関心のある内容である」と答えたものがわずかに4.9%に留まっていたが、栄養学の基礎的知識が、管理栄養士の実践の場でも重要であることを、できるだけ具体的な事例を挙げて説明していきたい。</p> <p>②授業の最初に学習準備のため、オリエンテーションを行ない、授業計画表を配布した。</p> <p>③講義の中ほどに確認テストを行い、学生の復習への意識を高め、学習状況を確認するようにした。その際、質問・要望を書く欄を設けて、学生の疑問や要望に応えるようにした。</p> <p>④授業で使用するパワーポイントの資料は、毎年、一部を改訂し、よりわかりやすい内容になるように努めている。</p> <p>⑤授業内容を復習するための練習問題、管理栄養士国家試験の過去問とその解説を配布している。</p>
---	---

4. 学生の目標達成状況について

<p>(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。</p>	全体を通して	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	やや達成された	やや達成された	やや達成された			
<p>(2)上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。</p> <p>*根拠として、成績(トータル成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示し下さい。</p> <p><授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など</p>	<p>試験成績の平均値(100点満点)は、79.4点(±8.7)であり、本試験不合格者(60点未満)はいなかった。成績の内訳は、A(90点以上)が10名、B(80～89点)が39名、C(70点～79点)が30名、D(60～69点)は12名、D(60点未満)は、0であった。出席数不足による受験資格なし(休・退学、転学科による)が8名であった。</p> <p>授業評価アンケートの「到達度自己評価」では、すべての項目で平均点が3.3点以上で昨年度の平均値よりも高く、また、栄養学科の平均値よりも高いので、概ね教育目標を達成できていると考えている。特に、項目(2)～(4)、(6)および(10)については3.6点と本科目の中では比較的高い評価であった。</p> <p>「学習量の評価」では、30分以上の復習を1回以上実施している学生が約30%で、これは、前期の基礎栄養学Ⅰの結果より約10%低下している。本科目に対する意欲・関心の啓発を更にしていきたい。また、練習問題および管理栄養士国家試験の過去問題および基礎栄養のまとめなどの復習課題をなるべく早期に配付し、自学自習のたすけとなるようにしたい。</p>					

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

<p>DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。</p> <p><授業評価の指標> 「受講動機」、「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など</p>	<p>①CP、カリキュラムマップ上の位置づけからみた内容的妥当性 本科目は「専門教育科目・専門基礎分野」の選択科目であるが、授業準備の項でも述べた通り、前期の基礎栄養学Ⅰ(必修科目)に続く連続した科目なので、全員に履修するように指導している。基礎栄養学は、ⅠおよびⅡ共に、国家試験に多く出題される内容であり、その重要性は学生にしっかりと伝えている。期末試験の成績も良好であることから、内容的には妥当であると考え。</p> <p>②DP、行動目標からみた内容的妥当性 知識理解を中心に、一部思考判断について問うた期末試験の成績は、おおむね良好に維持されていることから、内容的には妥当であったと考える。</p> <p>③まとめ 以上から、内容的妥当性には問題はないと思われる。</p>
--	--

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお願いします。
また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお願いします。

<授業評価の指標>

「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など

「授業の質評価」において、項目(3)の「説明の理解しやすさ」が3.7点と比較的高かった。期末試験の成績と併せて判断すると、授業の目標はおおむね達成できたのではないかと考えられる。
学生の自由記述で「スライドがわかりやすい」という感想があった反面、「早口で分かりにくい」という感想もあったので、今後、改善していきたい。

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお願いします。

専門教育科目・専門基礎分野にあたる本科目の位置づけから、基礎的知識の形成については概ね達成できたが、思考判断の面は、十分ではない。この点については、授業時間中に課題を与えて考察させるなどの方法を取りたいが、時間的な制約もあり、これからの検討課題である。

リフレクションカード 2016年度後期

学科	栄養学科
氏名	天本 理恵

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
応用栄養学Ⅰ	2	後期	必修	はい	107

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	○	○	○	○

3. 授業準備について

<p>授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。</p> <p><授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など</p>	<p>①応用栄養学Ⅰは、栄養学科の学生にとっては、卒業および管理栄養士受験資格必修の教科である。よって受講動機は「必修科目である」が96.9%であることは当然の回答である。「関心のある内容である」が5.2%とかなり低いことに関しては、学生の関心をひきつけるような講義の実施が出来なかったことも推察されるため、講義内容の見直しも図りつつ、続く応用栄養学Ⅱの講義に関心をもって臨んでもらうことが出来るようにしていく必要がある。</p> <p>②昨年までと同様、スライド資料を配布し、その資料には、板書を書き写すためのスペースを設けるなど、資料作成に努力はしている。また、毎回の授業終了前に、その日の講義の復習小テストを行い、解説して、提出させている。その小テストには、授業理解度を%で自己評価させ、意見や質問をうける欄も作成している。毎回、質問欄には、学生たちから色々な意見や質問が記入されており、それに必ず返答して返却するよう努力している。その結果、学生たちが意欲的に講義に臨む姿勢がうかがえた上、「興味もてる内容であった」というコメントも多かった。テスト、授業理解度の自己評価に関しては今後も続けていく予定である。</p>
---	---

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	やや達成された	やや達成された	やや達成された	やや達成された	やや達成された	やや達成された
(2)上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。	<p>DP1(知識理解)、DP2(思考判断)、DP3(意欲関心)に関しては、定期試験結果から評価した。試験結果はA,Bクラスおよび再履修104名の受講生中、A(秀)が4.8%と低めではあるが、B(優)が26.0%であり、C(良)が31.7%と一番多かった、D(可)が23.1%で良の次に多く、不可の学生は12.5%と多かった。クラス別比較すると、Bクラスに不可の学生が多く、クラスのレベルによる授業進行の配慮も必要になることも考えた。また、DP4(態度)やDP5(技能・表現)に関しては、小テストへの取り組みや、レポート以外の提出物にて評価をおこなった。受講生全員が標準的レベルに達しており、4.8%の学生が理想的レベル(今回は秀90点以上として試験を作成し評価した)に達していた。理想的レベルの学生は、まだまだ限られてはいるが、受講生の多くに、受講に対する意欲の高さはうかがえた。また学生による授業評価においては、知識理解や思考判断および意欲関心に関する自己評価が高い。講義への関心の高さは、試験結果や、自己評価で判断することが出来たが、学習量の評価では、75.5%の学生が予習および復習を一度もしていなかった。シラバスを活用し、予習・復習を促すことは実施したが、他の教科の課題との関連もあり、学習時間を設けることが難しいことが考えられるため、学修時間の確保に関しては学科全体で検討していく必要がある。なかには、アンケートの自由記載の欄に「復習をしました。5名」と書いている学生もいたので、小テスト返却による復習の促しを続けていきたいと考えている。また、学習のために図書館を利用したり、インターネットを利用して検索学習を行う学生が少なかった。特に図書館の利用に関しては、自主的学修のためにも学生に勧めていく必要がある。</p>					

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

<p>DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。</p> <p><授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など</p>	<p>本科目は、専門科目であり、管理栄養士国家試験受験資格の必修科目である。卒業必修でもある。また基礎栄養学とともに、管理栄養士カリキュラムの専門分野6科目の1つに位置している。また、専門基礎科目から専門科目へのつなぎの科目(基礎から専門への入り口科目)でもあると考える。このことから、受講動機「必修科目である」が96.9%なのは、当然の回答である。また、本科目に対する学習到達度や試験結果から、必修教科ではあるものの関心の高さや達成度の高さは伺えたため、DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性に関しては、妥当であったと考える。</p>
---	--

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお願いします。
また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお願いします。

<授業評価の指標>

「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など

学習量の評価では、約75.5%の学生が予習・復習を一度もしていないと回答した。さらにこの授業を履修する際にシラバス記載を参考にしなかった学生は83.7%と高かった。必修科目であるため、シラバスを参考にしなくとも、本科目の履修は卒業条件だという思いが学生たちにあると考えられる。また、講義の初回にシラバスを配布し、一緒に目を通してしているため、その後にシラバスを参考にする必要がなくなったことも考えられる。今後は講義初回のオリエンテーション時における、シラバスの説明、今後の授業の進め方、自己学習の仕方等を丁寧に実施していき、常にシラバスを参考にするように促していく。予習復習等自己学習に関しては、まずは、少時間でもいいので、予習・復習をする習慣をつけてもらえるよう、シラバス記載の予習・復習項目を常に意識するよう学生に促す。さらに、予習・復習課題の作成を検討していく。また、学生の意見の中に「板書がはやい」「話すスピードが速い」という意見があった、これに関しては、一昨年度にも同じ要望があり、板書スピードを遅くした経緯がある。また早口に関しては、応用栄養学Ⅰ、Ⅱ全30回で、応用栄養学の全部を教える必要があるため、このスピードについてきてほしいということを初回の講義で伝えるようにしている。授業の進行上、個々人のノート記入スピードに合わせた対応は難しいため、ノート記入が間に合わなかった学生に関しては、復習時に友人からノートを見せてもらう、担当教員に聞くなどの自己学習を行うよう促している、今後もそのように促していく。

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお願いします。

本科目の位置づけは、管理栄養士受験資格必修の専門科目で、かつ、専門基礎科目から専門科目へのつなぎや入り口にあたる科目と考える。必修科目としての履修ではあるが、学習到達度の学生の自己評価および試験結果から、概ね全てのDPを達成できたものとする。本科目の予習・復習に関しても、毎回の講義で、実施を促していく。小テストだけでなく、予習・復習課題の作成も検討していく。これからも講義時の学生の反応をみつつ、常に意見を取り入れ、授業改善を行っていく。

リフレクションカード 2016年度後期

学科	栄養学科
氏名	清末 達人

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
運動・環境と栄養	3	後期	選択	いいえ	108

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	○	○	×	×

3. 授業準備について

<p>授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。</p> <p><授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など</p>	<p>運動（身体活動）に必要な栄養摂取のあり方や、運動時に体内で起きている栄養代謝の内容とそのメカニズムを学び、身体活動を活発にすることが、結果として我々の疾病の予防や健康の維持・増進にいかに関与するかを理解する。また、学んだことを実行にうつす力を身につけることにも重点を置いた内容とした。多くの学生が、この科目を履修するのは、国家試験受験資格取得に関わるからとしていることもあり、国家試験において頻繁に出題される心身をとりにくく、ストレス、生活リズム、高温・低温、高圧・低圧および無重力環境と栄養とのかわりにつもとりあげることとする。</p>
---	--

4. 学生の目標達成状況について

(1) 教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
		やや達成された	達成された	達成された	やや達成された	
<p>(2) 上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。</p> <p>* 根拠として、成績（トータル成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差、S、A、B、C、Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示し下さい。</p> <p><授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など</p>	<p>教育目標の達成度は、小テストあるいはレポートにより判定した。実施した小テストの出題レベルは、管理栄養士国家試験の応用栄養学分野の既出問題のレベルとした。その結果、多くの学生が6割のラインを越えており、知識理解や思考判断および技能表現に関する目標は達成されていると考えられる。講義した内容に関連した課題についてのレポートについても、内容をルーブリック評価に準じて客観的に判定したところ、多くの学生が、押さえておくべきポイントをしっかり記述しており、この科目についての意欲関心と態度に関する教育目標はほぼ達成されているものと判断した。</p>					

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

<p>DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。</p> <p><授業評価の指標> 「受講動機」、「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など</p>	<p>この科目は、応用栄養学分野の中の、運動と栄養に関するトピックを抽出し、より実践的な知識と技術を身につけることを目指している。受講動機をみても多くの学生が管理栄養士の受験資格取得に必要な科目と認識して受講している。</p>
--	---

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお示しください。
また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。

<授業評価の指標>

「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など

受講生からの希望があるかどうかは、学生の意見を見るかぎりはっきりしないが、もしもっと実践的なスポーツ栄養学の内容を取り入れてほしいという意見が強ければ、何コマかは、スポーツ栄養の現場で活躍している卒業生なり、一流のスポーツ選手なりを講師として招いて、運動と栄養に関する現場の話題を聞く機会を設けてはと考えている。

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示しください。

座学としての「運動・環境と栄養」については、受講生の受講動機と本科目の本来の位置づけについての教育目標はほぼ現状で達成されていると考えられる。

ただし、さらに将来にわたる展望を行ってみると、講義形式の本科目では、なかなか個人の身体状況に応じた運動処方を実施するための力は身につかないとも考えられる。できれば、本学のスポーツ部とタイアップした形での選手向けの食事指導・運動処方を実践し、その評価法も含めた演習科目を新設することも考慮する必要があると考えられる。

リフレクションカード 2016年度後期

学科	栄養学科
氏名	久保 由紀子

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
栄養教育論 I	2	後期	必修	いいえ	106

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	○	○	○	○

3. 授業準備について

<p>授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。</p> <p><授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など</p>	<p>栄養教育は、対象となる個人や集団が健康の維持・増進や疾病の治療のために、自らの意思で栄養・食生活の改善に取り組み、問題解決を図ることができるように支援する行為である。本科目では、対象者に適切な支援をするために備えておかなければならない人の行動特性や行動と心の動きとの関係等行動科学に関する知識や栄養教育マネジメントの進め方を理解することを目的としている。理論の説明だけでなく、できるだけ具体的な事例を挙げて理解が進むよう工夫した。</p>
---	--

4. 学生の目標達成状況について

(1) 教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	やや達成された	やや達成された	やや達成された	やや達成された	やや達成された	やや達成された
<p>(2) 上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。</p> <p>* 根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示し下さい。</p> <p><授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など</p>	<p>本科目の本試験成績の平均値は67.5 (±12.7) 点であり、再試験対象者は20名であった。S評価2.0%、A評価14.3%、B評価25.5%、C評価30.6%、D評価20.4%となっており、到達度自己評価は「達成した」93.7%であった。一方到達度自己評価において6.1%が「目標を達成できていない」としている。本科目は管理栄養士受験資格の必須科目として位置づけられており、受講動機は「必須科目である」96.8%であった。学修準備性については「予習した」、「復習した」、「自発的に取り組んだ」と回答した者は少数であったが「自分なりのノートを作成した」、「課題以外の学習に取り組んだ」と回答した者もあり意欲が窺えた。</p>					

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

<p>DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。</p> <p><授業評価の指標> 「受講動機」、「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など</p>	<p>本科目は「専門教育科目」の専門分野であり、栄養教育は栄養士・管理栄養士として活動するすべての分野に必要なとされる人を対象とした業務である。知識、技術、態度の醸成を目的としている。「学習到達度の自己評価」において各項目「やや達成された」90%前後の評価をしており内容的妥当性は問題ないと思われる。</p>
--	--

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお願いします。
また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお願いします。

<授業評価の指標>

「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など

授業の質評価において「授業中に自分の意見をまとめる、話し合う、発表するなど学生が参加する機会が作られていた」平均点3.0となっている。質問し、回答を得ることを1授業時間中数回取り入れるよう心がけているが、更に多く取り入れていきたい。また「口頭、文書など何らかの形で学生の質問を受け、それにこたえる機会が作られていた」平均点3.0となっているが、毎回授業終了前に振り返りテストを行い、本日の授業内容についての理解度や、解らなかったところ、再度説明してほしいところ等質問の項目を設け、記入された事項に対しては朱書きして応え意識の高揚を図っている。全体に必要な事項に対しては次回の開始時に復習として応答しているが、更に質問事項を明確にして説明をしていきたい。

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお願いします。

到達度自己評価において、「到達されなかった」と回答した者が昨年11.3%、今年度6.1%と減少し、「全くそうでないと思う」と回答した者はいなかった。昨年の評価を参考にし、発問や自己記入を多く用いるよう心掛けた効果がみられたものと推測する。また、中間において確認テストを行い正文を課題として課したことが、期末試験への準備性を醸成したものと考え。さらに臨地実習に向けての自己学習の方向性等も示唆した内容を検討したい。

リフレクションカード 2016年度後期

学科	栄養学科
氏名	田川 辰也

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
臨床栄養管理学	2	後期	必修	いいえ	101

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	○	○	○	×

3. 授業準備について

<p>授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。</p> <p><授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など</p>	<p>①2年後期になって、実践が問われる専門科目の履修が増加し、特に医学的知識が問われるようになってくる。チーム医療の一員として栄養士、管理栄養士に必要な臨床的な医学知識および考え方を修得できるよう心がけた。</p> <p>③田川担当回に関しては、授業の最初と最後に小テストを行い、学生の復習への意識を高め、学習の進捗状況を確認するようにした。</p> <p>④授業で使用するスライドのレジュメを昨年より修正し、よりわかりやすい内容とした。</p>
---	--

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
		達成された	達成された	達成された	達成された	達成された
<p>(2)上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。</p> <p>*根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示し下さい。</p> <p><授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など</p>	<p>①実習の成績の平均値は75(±14)であり、本試験の不合格者は10名、再試の不合格者は5名であった。理想的レベル(概ね70点以上として試験を作成)に達したものは50%を超えた。</p> <p>②昨年度と比べると、本試験の平均点、本試不合格者数は昨年と同等であった。</p> <p>③学生による授業評価においては、「よかった」、など、ポジティブな意見をいただいた。今後とも、わかりやすいスライド、資料、授業に心がけるとともに、授業前後の小テストを続けていきたいと考える。</p> <p>以上から、教育目標は達成されていると考えられる。</p>					

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

<p>DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。</p> <p><授業評価の指標> 「受講動機」、「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など</p>	<p>①CP、カリキュラムマップ上の位置づけからみても内容的妥当性 本科目は「専門分野科目」であり、専門応用科目に相当する必修科目である。国家試験の臨床栄養学分野で多く出題される内容であり、重要性は学生にしっかり伝えている。学生も復習に力を入れており、定期試験にて一定の成績を収めていることから、内容的には妥当であると考えられる。</p> <p>②DP、行動目標からみても内容的妥当性 成績評価から、知識判断、思考判断、技術表現、態度に関する達成度がすべて高かった。課題された領域はすでに内容を修正しており、すべての領域において成績は上昇したことから、内容的には妥当であったと考える。</p> <p>③まとめ 以上から、内容的妥当性には問題はないと思われる。</p>
--	---

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお願いします。
また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお願いします。

<授業評価の指標>

「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など

①授業の質評価において、「自分なりの目標を達成した」の平均が3.3、「知識を確認、修正したり、新たに得ることができた」の平均が3.4と高かった。学生性の成績とを踏まえて判断すると、授業の目標は達成できたのではないかと考えられる。次年度に向けては、さらに知識を深める努力をするとともに、質問がもっと増え、学生がより積極的に授業に参加できるよう改善していきたいと考える。

②昨年「オムニバスで内容が混同した」という意見があった。今年は学生にわかりやすい授業になるように授業の順番を含めて改善した。

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお願いします。

①専門分野科目にあたる本科目の位置づけから、臨床栄養学的知識の形成については達成でき、思考判断の面でも課題は達成できた。今後、実践科目である3年生の「臨床栄養学実習Ⅱ」や「栄養治療学」に引き継いでいく予定である。

②授業過程を振り返ってみたとき、授業の最初と最後に復習・確認の小テストを行ったことで、学生が検討を加える時間できた。予習課題の提示などで改善を図りつつ、さらなる改善に努めたい。

③以上から、毎回の授業のねらいを具体的に示すこと、小テスト等で考える時間をとり、復習課題を意識的に提示するようにすることを続けていきたい。

④配布物（授業のスライドのレジュメなど）に関しては、学生の意見を積極的に取り入れ、授業の順番を含めて来年度に改善を行いたい。

リフレクションカード 2016年度後期

学科	栄養学科
氏名	近江 雅代

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
栄養治療学Ⅱ	3	後期	必修	いいえ	110

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	○	○	○	○

3. 授業準備について

<p>授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。</p> <p><授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など</p>	<p>本科目では、傷病者の病態や栄養状態に応じた適切な栄養管理を行うために、各疾患の成因・病態、治療法ならびに具体的な栄養管理方法について修得することを目的としている。また、疾病別栄養管理の知識に加え、臨床における管理栄養士の役割について理解し、健康維持・疾病からの回復に大きな役割を期待されていることを認識した上で、管理栄養士としての資質を身につけることも目標に掲げている。</p> <p>本科目は卒業必修科目であり、かつ、管理栄養士受験資格の必須科目としての位置づけであるため、殆どの学生の受講動機は『必須科目である』との理由である。にもかかわらず、授業準備性について、十分とは言えず、受講後の復習も不足していた。今年度より、事前事後学習を促す取り組みとして、『栄養治療学Ⅰ』『栄養治療学Ⅱ』において、確認テストの導入を試みた。その結果、学生の自由記述では、課題以外学習に取り組んだ学習として『確認テスト』が挙げられており、確認テストの導入は授業の復習および自発的学習として効果的であったと考えられる。栄養学科3年後学期は学外実習が始まる時期であることから、学生は多忙を極め、事前事後学習の時間が十分に確保できないのが現状である。しかしながら、このような状況の中でも、本科目の目標達成のためには、事前事後学習を進めることは必要であり、次年度以降、確認テストの導入に加え、何らかの課題を提示することにより、事前事後学習に対し、より強化したいと考える。</p>
---	--

4. 学生の目標達成状況について

<p>(1) 教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。</p>	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	やや達成された	やや達成された	やや達成された	やや達成された	やや達成された	やや達成された
<p>(2) 上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。</p> <p>* 根拠として、成績(トータル成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示し下さい。</p> <p><授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など</p>	<p>本科目の本試験成績の平均値は66.0 (±12.2)点であり、本試験合格者は全体の73%であった。また、標準偏差が大きかったことから、学生の修得状況は個人差が大きかったことが考えられる。実際には、50名(46%)が標準的レベル(70点以上)を達成しており、理想的レベル(80点以上)は16名(15%)であった。また、2015年度の成績(65.6 (±9.5)点)に比し、点数は殆ど変わらなかった。一方、標準的レベルを達成した学生は46%であり、2015年度の27%よりも増加、さらに、理想的レベルの学生は15%であり、2015年度の6%に比し、著しく増加した。いずれの年度の試験問題の難易度については、ほぼ同程度であり、本年度からの確認テストの導入が学生の目標達成の成果の一端と考えられる。また、ほぼ半数の学生が標準的および理想的レベルを達成できたことは、引き続き、確認テストを実施し、さらに、何らかの課題を提示することにより、知識確認のための強化に努めたいと考える。</p>					

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

<p>DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。</p> <p><授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など</p>	<p>本科目は卒業必修であり、かつ、管理栄養士国家試験(200問)のうち、28問を占める分野である。学生の多くは管理栄養士の資格取得を目指しており、また、特に、臨床分野での就職を考えている学生にとっては、必ず身につけておかなければならない知識の一つである。このことは、学生の達成度自己評価の『職業選択』の項目において、大多数の学生が参考になったと回答していたことから、管理栄養士が専門職業人であることに対する理解は深まったことと推察される。学生の達成度自己評価においても、90%以上の学生が専門的知識・技術の修得ならびに判断する力等において、達成できたと回答したが、試験成績が伴っておらず、学生の達成度に対する認識と成績との間に乖離がみられた。原因の一つとして、シラバスの説明不足、特に、具体的な達成の目安に対する学生と教員との認識の差によるものと考えられ、次年度はより詳細なシラバスの説明を行うこととする。また、学生の達成自己評価の高さから、内容的妥当性については問題ないものと考えられる。</p>
---	--

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお願いします。
また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお願いします。

<授業評価の指標>

「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など

本科目では板書での記録としているため、80%以上の学生が『自分なりのノートを作成した』との回答であった。ノートを作成することにより、講義内容の整理ができ、かつ、理解も深まるものと考えられ、板書での記録は今後も続けていきたいと思う。

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお願いします。

本科目は卒業必修であり、かつ、管理栄養士国家試験(200問)のうち、28問を占める分野である。学生の多くは管理栄養士の資格取得を目指しており、また、特に、臨床分野での就職を考えている学生にとっては、必ず身につけておくべき内容である。学生の達成度自己評価においては、大多数の学生が専門的知識・技術の修得ならびに判断する力等において、達成できたとの回答であり、講義内容等についての問題はないものとする。しかしながら、試験成績における達成度が十分であったとは言い難く、学生の達成度と成績評価との乖離を縮小するために、シラバスの活用はもちろんのこと、講義内容ならびに1回の講義内容量について、再検討が必要であると思われる。また、今年度に引き続き、次年度以降も確認テストの実施し、学生の的確な知識の定着に加え、その理解度を量ることにより、学生の気づきを促し、さらには、自発的学習へと繋げたいと考える。

リフレクションカード 2016年度後期

学科	栄養学科
氏名	近江 雅代

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
臨床栄養活動論	3	後期	選択	いいえ	108

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	○	○	○	○

3. 授業準備について

<p>授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考に記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。</p> <p><授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など</p>	<p>本科目では、臨床における管理栄養士の役割について理解し、健康維持・疾病からの回復に大きな役割を期待されていることを認識した上で、管理栄養士としての資質を身につけることを目的としている。そのため、現在、医療の現場で活躍されている管理栄養士、医療に関する法律の専門家、ならびに、臨床現場における経験の豊富な医師を特別講師として招聘し、医療施設におけるチーム医療と管理栄養士の活動の実際を学び、医療人としての心構えを培う。</p> <p>本科目は管理栄養士受験資格の必須科目としての位置づけであるため、約90%の学生の受講動機は『必須科目である』であり、約30%は『資格取得に必要である』との理由であった。また、学修準備性については、実習の事前事後課題等もあったことから、半数以上の学生が予復習時間を確保していた。しかしながら、自発的学習に取り組んだ学生は約15%程度と少なかったが、2015年度の9%に比べて、若干ではあるものの増加した。このことは、栄養学科3年後学期は学外実習が始まる時期であることから、学生は多忙を極めていることに加え、授業の課題に取り組むことに精一杯であったためと考えられる。実際、課題以外に学修に取り組めなかった理由として、本理由が挙げられている。</p>
---	---

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
		達成された	達成された	達成された	達成された	達成された

<p>(2)上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。</p> <p>*根拠として、成績(トータル成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。</p> <p><授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など</p>	<p>本科目の本試験成績の平均値は97.1(±6.6)点であり、本試験合格者は全体の100%であった。実際には、3名(3%)が標準的レベル(70点以上)を達成しており、理想的レベル(80点以上)は104名(97%)にも上った。毎回、事前学習・事後学習のための2種類のレポートを課し、これらのレポート内容にて、評価を行うことを示しており、学生の学修の成果は十分に反映されていたと考えられる。本科目を受講するに当たり、半数以上の学生が予復習時間を確保しており、授業の参加ならびに振り返りに対し、積極的に取り組んでいた。また、図書館およびインターネットの利用も認められ、本科目に対する学修準備性の高さが窺え、これらのことが学生の成績へと表れたものと推察される。自由記述においては『役に立った』『将来や臨床実習等に対し、大変勉強になった』等、学生の具体的評価が記載されており、関心の高さが窺えた。これらのことは、学生の到達度自己評価においても同様の結果を示しており、90%以上の学生が専門的知識および技術の修得を得ることができたと回答していた。以上のことから、本科目における教育目標はおおよそ達成できたものと予想される。</p>
---	--

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

<p>DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。</p> <p><授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など</p>	<p>本科目は管理栄養士受験資格の必須科目としての位置づけであり、また、特に、臨床分野での就職を考えている学生にとっては、必ず身につけておかなければならない知識の一つである。現在、医療の現場で活躍されている管理栄養士、医療に関する法律の専門家、ならびに、臨床現場における経験の豊富な医師を特別講師として招聘し、医療施設におけるチーム医療と管理栄養士の活動の実際を学ぶことにより、管理栄養士に必要な栄養ケアの知識やスキルを深めることを目標に掲げている。このことは、学生の達成度自己評価の『職業選択』の項目において、大多数の学生が参考になったと回答していたことから、管理栄養士が専門職業人であることに対する理解は深まったことと推察される。また、後学期終了後、本科目履修学生は臨床実習Ⅱ(臨床栄養：病院)での学外実習を控えており、本科目が臨床実習Ⅱに対する動機づけならびに専門的知識・技術修得の重要性の気づきにもなったものと思われる。実際、自由記述においては『役に立った』『将来や臨床実習等に対し、大変勉強になった』等、学生の具体的評価が記載されており、関心の高さが窺えた。学生の達成度自己評価においても、90%以上の学生が専門的知識・技術の修得ならびに判断する力等において、達成できたと回答しており、内容的妥当性については問題ないものと考えられる。</p>
---	--

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお願いします。
また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお願いします。

<授業評価の指標>

「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など

学生の目標達成状況ならびに内容的妥当性に問題がなかったことから、本科目の内容等についての課題はないものと推察され、今後も引き続き、高い達成度を目標にしたいと考える。また、自由記述として『意思疎通ができなかった』との意見があったことに対しては、次年度以降、質疑応答の時間を十分に確保し、学生の発言する機会を増やしたいと考える。

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお願いします。

本科目は管理栄養士受験資格の必須科目としての位置づけであり、学生の多くは管理栄養士の資格取得を目指しており、特に、臨床分野での就職を考えている学生にとっては、必ず身につけておくべき内容である。本科目の特徴は、現在、医療の現場で活躍されている管理栄養士、医療に関する法律の専門家、ならびに、臨床現場における経験の豊富な医師を特別講師として招聘し、医療施設におけるチーム医療と管理栄養士の活動の実際を学ぶことであり、3年次後学期終了後の臨地実習Ⅱ(病院)とも直結していることにある。学生は本科目の学修準備性として、予復習時間の確保ならびに積極的な学習の取組を実現したことにより、90%以上の学生が標準的レベル以上を達成した。同様に、達成度自己評価においては、大多数の学生が専門的知識・技術の修得ならびに判断する力等において、達成できたと回答した。以上のことから、本科目の内容等についての課題はないものとする。

リフレクションカード 2016年度後期

学科	栄養学科
氏名	中村 貴志

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
介護概論	3	後期	選択	いいえ	103

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	○	○	×	×

3. 授業準備について

<p>授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。</p> <p><授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など</p>	<p>今回の受講動機をみると、「必修科目である(86.1%)」と「資格取得に必要である28.7%」が高く、「関心のある内容である(4.0%)」は低い値であった。傾向は昨年度と同様であるため、できるだけ具体的な事例、新聞記事、ビデオ教材を用いることで、授業に対する関心を持てるように改善してきている。</p>
---	---

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	どちらもいえない	やや達成された	やや達成された	やや達成されなかった		
<p>(2)上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。</p> <p>* 根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示し下さい。</p> <p><授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など</p>	<p>最終的な成績では、9割以上の受講学生が80点以上であり、介護の基本的な考え方や介護現場の課題は理解できたものと判断した。学生による授業評価においては、各項目の平均点はほぼ3.2であった。最も低かったのが「コミュニケーションや表現力を高めることができた(3.1)」であった。得点の傾向も昨年度と同様であり、主体的に授業へ参加する機会が少なく、コミュニケーションや表現力を十分に高めることができなかったことが、「意欲関心」の達成状況の低さと関連があるものと考えている。</p>					

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

<p>DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。</p> <p><授業評価の指標> 「受講動機」、「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など</p>	<p>授業への「意欲関心」の低さに苦慮する面があったが、学生は一定の成績を収めていること、自由記述に「わかりやすかった」との意見もあったことから、内容的には妥当であったと考える。</p>
--	---

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお願いします。
また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお願いします。

<授業評価の指標>

「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など

授業の質評価において、昨年度より多少の得点の改善があったが、「学生が参加する機会が作られていた(3.2)」「学生の質問に答える機会が作られていた(3.2)」の平均点が最も低かった。講義系科目で、授業回数は1単位分の8回と限界があるが、引き続き可能な範囲で、学生の発言の機会や学生同士の意見交換ができる場面を設定するなどの改善を行いたい。また、「予復習時間」や「図書館利用」が想定より少なかった。この理由として、まず「授業への動機づけが低い」ことがあげられる。また学生側からは、質量ともに比重の大きい他の必須科目や資格取得のための科目に関して「課題が多いこと」「(実習・実験系の科目の課題やレポートへの対応で)時間がない」との意見も出されている。引き続き、学生にとっても可能なことから、図書館の利用など自発的な学習を促したい。

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお願いします。

「知識理解」と「思考判断」については、概ね達成できたものと判断している。今後も、「意欲関心」を高めるために、可能な範囲で学生の発言の機会や学生同士の意見交換ができる場面、あるいはプレゼンの機会を設定するなどの改善を行いたい。また、調べ学習やプレゼンと関連づけて図書館の利用など自発的な学習を促したい。

リフレクションカード 2016年度後期

学科	栄養学科
氏名	境田 靖子

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
公衆栄養学 I	2	後期	必修	いいえ	103

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	×	○	○	×

3. 授業準備について

<p>授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。</p> <p><授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など</p>	<p>本科目は、公衆栄養学領域で入学後初めて受講する科目であるため、第1回目の講義の際に授業目標と臨地実習の要件科目であることを説明しているが、履修動機としては①必修科目であること94.7%以外に、②資格取得科目であることへの理解が低い(15.8%)が、栄養学科の場合は栄養士免許資格科目は、ほぼ卒業必修科目であるため、2項目の違いはないものと考えられる。</p>
---	--

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	達成された	達成された		達成された	達成された	
<p>(2)上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。</p> <p>* 根拠として、成績(トータル成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。</p> <p><授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など</p>	<p>本科目の最終的な成績の平均値は67.4(±17.9)、再試験対象者は全体の14.7%であったので、学生が標準的なレベルを達成した学生は8割強であった。</p> <p>目標別のDP到達度においても、DP1(事象を理解する視点)が98.0%、DP2(課題を検討する力)が100%、DP3(学びを深めたい意欲)が98.0%と、ほぼ全員が到達したと言える。</p> <p>しかし、学習量としては、1回30分以上の準備・復習が0回の者が64%もいた。本科目が開講される2年後期から、専門科目の履修がそれまでと異なり飛躍的に増え、実験・実習科目が多く、学生の自由記述からも「時間が作れない」「時間がない」との意見があったところから、これ以上の学習時間の増加は難しいものと考えており、復習テストを○×などの簡単な問題にしていたが、調べ学習を増やすなどの改善を行うことも今後検討する。</p>					

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

<p>DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。</p> <p><授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など</p>	<p>本科目は、公衆栄養学領域で入学後初めて受講する科目であり、行政業務の理解をするための基礎的な法的根拠や実態把握の種類等について学び、3年時の実習へと繋ぐ科目であるため、CP上の位置づけは妥当であり、99.0%の学生が「知識を確認、修正したり、新たに得ることができた」と回答していることから、内容的妥当性は確保できている。</p> <p>しかし、2年前期にすでに終了している公衆衛生学と重複している学習内容について復習しながら進めるが、ほとんどの学生が公衆衛生領域の内容を忘れていて、そのため、学習の準備時間の不足も含めて、履修済科目との関連を授業内に効率よく含めていくことを検討する必要がある。</p>
---	--

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお願いします。
また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお願いします。

<授業評価の指標>

「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など

行政、法律、社会保障などの理解には中学高校レベルの社会科の理解が必要であるが、理解に乏しい学生が見られ、基本的な部分からの説明が必要な状態で、臨地実習および国家試験合格のための内容を網羅しようとするとう授業時間数が圧倒的に不足しており、講義内容を検討し、「最低でも臨地実習Ⅲに必要な内容レベル」まで、そぎ落とし、国家試験合格に必要な内容については4年時開講の管理栄養士演習に持ち越すなどの工夫はしている。

パワーポイントを投影し説明のみに留まると、口頭での説明内容をメモ書きすらない学生が多いため、パワーポイントをホワイトボードに投影し、パワーポイントの内容とホワイトボードへの書き込みを併用している。そのため、投影された画面が小さく（ホワイトボードの縦の長さしか投影できない）、後ろの席の者が見えにくいようだが、前方に空席を作り、席の移動を可能にしている（しかし、実際に前に移動する学生はいない）。

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお願いします。

2年後期から履修科目が増え、さらに基礎科目から栄養士・管理栄養士資格の専門科目が増えることから、学生の学習スタンスに戸惑いを感じられるが、学習到達度自己評価は高かったことから、基礎知識の形成は概ねできたと評価される。

また小テストの回数を増加し、さらに授業内容のスリム化を行ったことより、再試験対象者が昨年（23%）より、減少した（15.8%）。次年度は、授業中に演習を取り入れるなどし、アセスメントの手法についての学びが深められる方法について検討したい。

リフレクションカード 2016年度後期

学科	栄養学科
氏名	境田 靖子

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
地域栄養活動論	3	後期	選択	いいえ	96

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	×	×	○	○	○

3. 授業準備について

<p>授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。</p> <p><授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など</p>	<p>本科目は、選択科目であるが、臨地実習Ⅲ（保健所・保健センター）の事前指導を兼ねた授業内容となっているため学生に履修をするように指導している。このことから（資格に）必修科目である40.7%、資格取得に必要46.9%、教員に勧められた6.2%が受講動機となっているが、今年度は、関心のある科目であるが14.8%と昨年と比べ高く、これまでの学習成果が表れていると推察される。</p> <p>臨地実習の事前指導を兼ねているため、実習ノートの事前学習の仕上げを課題に取り入れながら進めたことから、学習量として、準備・復習時間の確保がなされている。このことが、「単位数確保」目的の学生や、公衆栄養領域の臨地実習に行かない学生にとっては負担（不満）に感じた部分であると解釈される。</p>
---	--

4. 学生の目標達成状況について

(1) 教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	達成された			達成された	達成された	達成された
<p>(2) 上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。</p> <p>* 根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差、S、A、B、C、Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示し下さい。</p> <p><授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など</p>	<p>本科目の成績の平均点は81.5点であり、レポートを提出せずに再試験対象となった1名を除く全員が標準的なレベルに達した。学生による自己評価においても、自分なりの目標を達した者は95.5%と高く、またDP1知識を確認修正することができた（100%）、DP3学びを深めた意欲（97.8%）と、DP4職業倫理や行動規範（86.0%）、概ね学習目標は達成されたと考えられる。</p>					

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

<p>DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。</p> <p><授業評価の指標> 「受講動機」、「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など</p>	<p>これまで臨地実習の事前指導は、授業時間外に設け行っていたが、学生の履修スケジュールや利便性、および選択科目である本科目の理解度を高めるために、臨地実習Ⅲ（保健所・保健センター）の事前指導を兼ねた授業内容とした。このことは、学生の自己評価の高さや自由記述からも妥当性が高いと考えられる。今年度は、公衆栄養領域での実習ではなく臨床領域での実習生も数多く履修（履修生の8.6%）し、学生の専門科目を学ぶ意欲に対し、本科目の位置づけは妥当であると考えられる。</p>
--	--

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお願いします。
また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお願いします。

<授業評価の指標>

「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など

臨地実習ノートの事前学習内容をレポート課題としたために、インターネット利用が約半数の者に見られた。しかし、臨地実習先によって（都道府県、市町村など）習得できる情報の量・質が異なることから、（特に市町村はインターネット上での情報開示量が少ない）、課題の進め方がわからない学生がいたと推察される。臨地実習先ごとに仕上げる内容が異なる（保健所と保健センター）ことから、今年度は参考になる情報源について、保健所・市町村別に指示を明確に明記したため、自由記述で「何を書いていいのかわからない」と記載する学生は減少した。

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお願いします。

卒業必修や資格必修の科目の中では時間が取れない「災害時の食支援」について、非常食の観察なども取り入れたり、実際にみることはできない配食サービスをしている企業での管理栄養士の活躍や在宅訪問管理栄養士の指導風景などのテレビ番組をビデオで視聴することで、外部講師として呼ぶことができない管理栄養士の活動にまで踏み込んで学習することで、将来への意欲や展望が増したと推察される、

リフレクションカード 2016年度後期

学科	栄養学科
氏名	青木 るみ子

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
給食経営管理論	2	後期	選択	はい	104

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	○	○	×	×

3. 授業準備について

<p>授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。</p> <p><授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など</p>	<p>給食提供現場の経営管理分野に関する科目であるため、栄養管理以外の部分の理解を促す必要がある。経営学の科目内容の約50%を占めるため、授業初回に本講義の趣旨と授業計画の説明を行っている。学習の準備性の点では、専門分野の科目としてはなじみにくい内容であるため、復習に重点を置かせた。また、実務に直結する内容というより、国家試験に必要な知識が多く含まれる科目のため、その点を重点的に説明するようにしている。さらに、本科目の中で、卒業後の就職先となり得る「特定給食施設各種の給食経営の特性」を説明しており、学生自身の進路選択の参考となる情報提供も意識した講義内容としている。</p>
---	--

4. 学生の目標達成状況について

(1) 教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	どちらももいえない	どちらももいえない	やや達成されなかった	やや達成された		
<p>(2) 上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。</p> <p>* 根拠として、成績(トータル成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示し下さい。</p> <p><授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など</p>	<p>本試験の成績平均値は65.7点であり、再試対象者は32/96名(33.3%)であった。試験の難易度は例年と同レベル(概ね70点以上の得点を理想レベルとした)であり、全体の約3割が再試対象であったことから、標準レベルの到達度は低いと考えられる。この結果に影響した要因として、本科目は例年試験形式に論述式を多く取り入れており、暗記だけでは対応できない試験形式への準備不足が考えられる。試験はDP1(知識理解)の評価方法である。全体の28%の学生が理想レベルに到達しており、論述式を取り入れたことで、知識への理解度の差が明確に表れたと考える。知識の理解から定着に至るような授業の工夫を2016年度の課題としていたが、十分な対応ができていなかった点については反省すべきであると考え。学生の到達度自己評価を見ると、知識の刷新に関する自己評価が学科平均値よりも高かった。また、判断力、意欲、専門的な技術等に関する自己評価は同等であり、『知識は得られた』と感じているが『理解』し『定着』するまで及ばなかった可能性が見受けられた。「学習量の評価」からは、予習・復習にかける時間数が圧倒的に不足していることが確認できることから、前述の結果にも影響していると考えられた。</p>					

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

<p>DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。</p> <p><授業評価の指標> 「受講動機」、「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など</p>	<p>臨地実習Ⅰ(給食の運営)の実習先となる各種特定給食施設の給食経営管理の内容について解説する科目でもあるため、履修学生は「資格取得に必須」の科目という認識を持っている。また、「職業選択の参考になった」と評価する学生が多いことから、「専門応用科目」としての責務を果たしていると考え。前述した「経営学」の部分も給食施設の経営管理として解説しているため、「新たな知識の確認」という点では一定の評価が得られていると思われる。よって、内容的には妥当であると思われる。</p>
--	--

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお願いします。
また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお願いします。

<授業評価の指標>

「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など

「意見をまとめる」「話しあう」「発表する」等の学生参加型の講義方式にすることは難しく、授業の質評価の他項目より評価がわずかに低かった。科目内容の性格上、網羅すべき内容が多く、それらが国家試験に直結する内容であるため、現在の講義方法を変更することは難しい。学習量の評価を見ると、予習・復習に取り組む者がきわめて少ないが、自由記述欄から「他科目・実習の課題で時間が取れない」との意見があり（2016年と同様）、これが原因であることが想定される。特に3年後期は多くの実習が配当されているため、予習・復習の時間確保に関しては苦慮するところである。これは、学科全体の問題であると思う。

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお願いします。

給食経営管理分野の講義科目として、学内実習・臨地実習に向けての知識を教授する位置づけの科目である。DP知識理解の最終評価としては、2016年同様に「知っていて」も「説明できない」ことが浮き彫りとなった。一方で、到達度自己評価の結果からは、給食施設における管理栄養士の業務内容への一定の理解は得られており、職業選択の参考となる講義内容であった点は評価に値すると思う。

リフレクションカード 2016年度後期

学科	栄養学科
氏名	天本 理恵

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
応用栄養学実習	3	後期	必修	はい	108

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	○	○	○	○

3. 授業準備について

<p>授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。</p> <p><授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など</p>	<p>①応用栄養学実習は、講義の応用栄養学Ⅰ、Ⅱの実習科目であり、栄養学科の学生にとっては、卒業および管理栄養士受験資格必修の教科である。よって受講動機は「必修科目である」が99.0%であることは当然の回答であり、「関心のある内容である」が8.2%と低いことに関しては、昨年度同様、応用栄養学Ⅰ、Ⅱ（2年後期、3年前期）の講義が、学生にとっては関心を引き付けるような内容でなかったことや、本実習科目を応用栄養学の実習科目であることの理解につなげることが出来なかったことが考えられるため、講義における応用栄養学の内容に関して、次に続く実習に結び付けながら学生のモチベーションを保ちつつ、本実習に臨んでもらうことが出来るようにしていく必要がある。</p> <p>②昨年までと同様、この実習では、学生に献立を調理させる前に示範をし、調理の際の留意点や栄養補給法のポイントを説明した。また各ライフステージにおける栄養学上のポイントを中心にスライドで講義を行い、講義と調理実習をセットで行うことで各ライフステージにおける食生活の違いを視覚的にも聴覚的にも捉えることが出来る講義内容となるように考えている。その結果、学生たちが意欲的に講義に臨む姿勢がうかがえる上、授業評価の自由記述にも、楽しかったなどの興味を抱くことが出来たと考えられる意見が挙げられており、今後も試行錯誤しながら実習内容の検討を続けていく。</p>
---	---

4. 学生の目標達成状況について

<p>(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。</p>	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	やや達成された	やや達成された	やや達成された	やや達成された	やや達成された	やや達成された
<p>(2)上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。</p> <p>* 根拠として、成績(トータル成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。</p> <p><授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など</p>	<p>DP1(知識理解)、DP2(思考判断)の一部に関しては、定期試験結果から評価した。試験結果は107名の受講生中、A(秀)が7.5%であった、B(優)が35.5%と多く、C(良)29.9%と優の次に多かった、D(可)が22.4%で、不可の学生は4名だけであった。また、DP3(意欲関心)、DP4(態度)やDP5(技能・表現)に関しては、課題への取り組みや提出物、調理技術等で行った。受講生全員が標準的レベルに達しており、7.5%の学生が理想的レベル(今回は秀90点以上として試験および課題点を作成し評価した)に達していた、しかし昨年度と評価して理想的レベルの学生の割合が低下していた。理想的レベルの学生は、まだまだ限られてはいるが、受講生の多くに、実習受講に対する意欲の高さはうかがえた。また学生による授業評価においては、知識理解や思考判断、意欲関心そして技能・表現、態度全てにおいて自己評価が高い。この実習への関心の高さは、試験結果や、課題内容、自己評価で判断することが出来た。また学習量の評価では、多くの学生が予習および復習を行っていた。このことは課題の提出が義務であったからという理由も考えられるが、シラバスにおいて予習・復習をする具体的な時間を記載していたことも学生たちの自学につながったと考える。また、学習のために図書館を利用したり、インターネットを利用して検索学習を行う学生も多かった、今後も図書館の利用をすすめていく。</p>					

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

<p>DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。</p> <p><授業評価の指標> 「受講動機」、「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など</p>	<p>本科目は、専門科目であり、管理栄養士国家試験受験資格の必修科目である、卒業必修でもある。また管理栄養士カリキュラムの専門分野6科目の1つに位置している講義の応用栄養学の実習科目として必修となる科目である。このことから、受講動機の「必修科目である」が99%なのは、当然の回答である。また、本科目に対する学習到達度や試験結果から、必修教科ではあるものの関心の高さや達成度の高さは伺えたため、DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性に関しては、妥当であったと考える。</p>
--	--

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお願いします。
また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお願いします。

<授業評価の指標>

「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など

学習量の評価では、多くの学生が予習、復習をしてきていた。さらにこの授業を履修する際にシラバス記載を参考にした学生は31%であった。シラバスを参考にした学生の31%が、「シラバスに沿って講義をうけることが出来た」、「教員のオリエンテーションに沿って授業を受ける計画を立てた」と回答しており、この割合は昨年度よりも低かった。今後も実習初回のオリエンテーション時における、シラバスの説明、今後の実習の進め方、課題提出や自己学習の仕方等を丁寧に実施していく予定であるが、学生の傾向を捉えながらシラバスをもっと活用していくように促す必要がある。予習復習等自己学習に関しても、課題以外の学習をも取り組むことが出来るように、シラバス記載の予習・復習項目を常に意識するよう学生に促す。

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお願いします。

本科目の位置づけは、管理栄養士受験資格必修の専門科目で、座学の応用栄養学の実習科目と考える。必修科目としての履修ではあるが、学習到達度の学生の自己評価および試験結果から、概ね全てのDPを達成できたものとする。これからも実習時の学生の反応をみつつ、常に意見を取り入れ、授業改善を行っていく。

リフレクションカード 2016年度後期

学科	栄養学科
氏名	手嶋 英津子

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
栄養教育論実習Ⅱ	3	後期	選択	いいえ	108

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	○	○	○	○

3. 授業準備について

<p>授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。</p> <p><授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など</p>	<p>本科目では、病態、食事療法について理解し、生活習慣の改善や傷病者に対する食事療法を支援するための栄養カウンセリング技法の獲得、個人および集団に対して適切な栄養教育ができるようになることを目的としている。また、グループ学習を通して多職種協働を理解し、コミュニケーションスキルを身に付けることを目標に掲げている。</p> <p>本科目は、栄養士取得および管理栄養士受験資格の必須科目であるという位置づけであるため、多くの学生の受講動機は、「必修科目である」「資格取得に必要である」との理由である。開講時の「学修準備性」については、授業の最初にアンケートを行っていないため学生の準備性の事実を把握できていないことから、次年度より準備性を把握し授業計画に活かしたいと考える。</p>
---	--

4. 学生の目標達成状況について

(1) 教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	やや達成された	やや達成された	やや達成された	やや達成された	どちらともいえない	どちらともいえない
<p>(2) 上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。</p> <p>* 根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示し下さい。</p> <p><授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など</p>	<p>最終的な成績の平均値は、73.5(±8.1)点であり、不合格者は0名であった。標準的レベルに達した者(70点以上)は75名(69.4%)であり、その中でも理想的レベル(80点以上)に達した者は32名(29.6%)であった。成績評価は、課題提出、ロールプレイ、発表および発表に関する取り組みにより行った。ロールプレイおよび発表は、評価基準を示し学生同士による評価ならびにフィードバックを実施した。標準的レベルに達していないものは、特に発表に対する取り組み方に課題がみられたため、授業オリエンテーションや毎授業で学習への意識が高められるように促していきたい。</p> <p>学習到達度の自己評価においては、どの項目においても90%以上が「そうだと思う」と回答しているため、教育目標は概ね達成されたと考えられる。本科目では、栄養教育のための教材作成で情報の収集が必要である。そこで、図書館利用の項目から情報収集の方法について確認すると、インターネットを利用が53%、図書館での図書・雑誌の利用が22%、学術データベースの利用は21%であった。インターネットによる情報収集に頼っている学生が多いため、根拠のある情報を収集するためにも、図書や雑誌の利用、また学術データベースを利用する学生を増やすことも今後の課題であると考える。</p>					

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

<p>DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。</p> <p><授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など</p>	<p>①CP カリキュラムマップ上の位置づけから見ての内容的妥当性 本科目は「専門教育科目」の中の「専門分野」に位置し、「臨地実習」へとつながる科目である。栄養士資格取得、管理栄養士国家試験受験資格に必須となっている。栄養教育プログラムの作成・実施・評価を総合的にマネジメントする能力および個人栄養教育、集団栄養教育で適切な栄養教育を実施する力を養う科目であるため、栄養士、管理栄養士を目指す学生にとって必ずしも身に付けておくべき分野である。また、学生の成績より一定の成績を収めているという結果から、内容的には妥当であると考える。</p> <p>②DP 行動目標から見ての内容的妥当性 成績評価は、DP5の「技能・表現」を重視し、課題や発表など授業内での取組により行った。学生の授業評価では、到達度自己評価においてDP5に該当する「コミュニケーション力や表現力を高めることができた」の項目は98%の学生が「そうだと思う」と答えており、内容的には妥当であったと考える。</p> <p>③まとめ 以上から、内容的妥当性には問題はないと思われる。</p>
---	--

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお示しください。
また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。

<授業評価の指標>

「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など

授業の質評価において、「評価基準や課題が明らかであったか」の項目で、「全くそうでない」「少しそうでないと思う」と約10%の学生が回答していたこと。学生にとって基準が明確でなかった点があったのではないかと考えられる。本科目は、筆記試験による評価がないことから、課題や発表での評価基準をより明確に学生に示すことが来年度への課題である。

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示しください。

本科目の教育目標および学生の到達目標は概ね達成されたと考えられる。しかし、授業の質評価において、「テスト、レポート、提出物などの評価基準は明らかであった」の項目で、6名の学生より「少しそうでないと思う」と回答が得られた。本科目は、筆記試験による評価がないことから、課題や発表での評価基準をより明確に学生に示すことが来年度への課題である。

リフレクションカード 2016年度後期

学科	栄養学科
氏名	近江 雅代

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
臨床栄養学実習Ⅱ	3	後期	必修	いいえ	108

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	○	○	○	○

3. 授業準備について

<p>授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。</p> <p><授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など</p>	<p>本科目では、傷病者の病態や栄養状態の特徴に応じた適切な栄養管理を行うため、各疾患の病態および栄養状態を把握し、調理実習を通して、栄養・食事療法に対応できる知識および技術を修得することを目的としている。また、食事療法を必要とする疾患・病態の症例を提示し、栄養アセスメント、栄養ケア計画の実際、食事療法の調整までの一連の流れについて、実習することにより、臨床栄養分野における管理栄養士としての資質を身につけることも目標に掲げている。</p> <p>本科目は卒業必修科目であり、かつ、管理栄養士受験資格の必須科目としての位置づけであるため、ほぼすべての学生の受講動機は『必須科目である』であり、約30%は『資格取得に必要である』との理由であった。また、学修準備性については、実習の事前事後課題等もあったことから、半数以上の学生が予復習時間を確保していた。しかしながら、自発的学習に取り組んだ学生は15%程度と少なかったが、昨年度の9%に比較すると、若干増加した。このことは、栄養学科3年後学期は学外実習が始まる時期であることから、学生は多忙を極めていることに加え、授業の課題に取り組むことに精一杯であったためと考えられる。実際、課題以外に学修に取り組めなかった理由として、本理由が挙げられている。</p>
---	--

4. 学生の目標達成状況について

<p>(1) 教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。</p>	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	やや達成された	達成された	達成された	達成された	達成された	やや達成された
<p>(2) 上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。</p> <p>* 根拠として、成績(トータル成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示し下さい。</p> <p><授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など</p>	<p>本科目の本試験成績の平均値は73.8 (±8.2)点であり、本試験合格者は全体の94%であった。実際には、50名(48%)が標準的レベル(70点以上)を達成しており、理想的レベル(80点以上)は26名(25%)であった。試験内容としては、筆記試験、実習試験および課題等であり、学生の学修の成果は十分に反映されていたと考えられる。本科目を受講するに当たり、半数以上の学生が予復習時間を確保しており、授業の参加ならびに振り返りに対し、積極的に取り組んでいた。また、図書館およびインターネットの利用も認められ、本科目に対する学修準備性の高さが窺え、これらのことが学生の成績へと表れたものと推察される。そして、このことは、学生の到達度自己評価においても同様の結果を示しており、90%以上の学生が専門的知識および技術の修得を得ることができたと回答していた。以上のことから、本科目における教育目標はおおよそ達成できたものと予想される。</p>					

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

<p>DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。</p> <p><授業評価の指標> 「受講動機」、「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など</p>	<p>本科目は卒業必修であり、かつ、管理栄養士国家試験(200問)のうち、28問を占める分野である。学生の多くは管理栄養士の資格取得を目指しており、また、臨床分野での就職を考えている学生にとっては、必ず身につけておかなければならない知識の一つである。このことは、学生の達成度自己評価の『職業選択』の項目において、大多数の学生が参考になったと回答していたことから、管理栄養士が専門職業人であることに対する理解は深まったことと推察される。また、後学期終了後、本科目履修学生は臨床実習Ⅱ(臨床栄養：病院)での学外実習を控えており、本科目が臨床実習Ⅱに対する動機づけならびに専門的知識・技術修得の重要性の気づきにもなったものと思われる。学生の達成度自己評価においても、90%以上の学生が専門的知識・技術の修得ならびに判断する力等において、達成できたと回答しており、内容的妥当性については問題ないものとする。</p>
--	---

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお願いします。
また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお願いします。

<授業評価の指標>

「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など

学生の目標達成状況ならびに内容的妥当性に問題がなかったことに加え、自由記述として肯定的な意見が得られたことから、本科目の内容等についての課題はないものと推察され、次年度以降、より一層の達成度を目標として、実習に臨みたいと考える。

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお願いします。

本科目は卒業必修であり、かつ、管理栄養士国家試験(200問)のうち、28問を占める分野である。学生の多くは管理栄養士の資格取得を目指しており、また、特に、臨床分野での就職を考えている学生にとっては、必ず身につけておくべき内容である。さらに、本科目の内容は3年次後学期終了後の臨床実習Ⅱ(病院)とも直結しており、学生は本科目の学修準備性として、予復習時間の確保ならびに積極的な学習の取組を実現したことにより、70%以上の学生が標準的レベル以上を達成した。同様に、達成度自己評価においては、大多数の学生が専門的知識・技術の修得ならびに判断する力等において、達成できたと回答した。以上のことから、本科目の内容等についての課題はないものとする。

リフレクションカード 2016年度後期

学科	栄養学科
氏名	境田 靖子

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
公衆栄養学実習	3	後期	必修	いいえ	108

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	○	○	×	○

3. 授業準備について

<p>授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。</p> <p><授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など</p>	<p>3年後期で、臨地実習Ⅲ（保健所・保健センター）を履修する者と履修しない者に分かれるため、資格取得についての動機付けが弱く（29.3%）、必修科目であるから（99.0%）仕方なく履修しているという受講動機に差が見られた。例年、課題内容について「わかりにくい。難しい」という感想が多いことから、内容をそぎ落とした。</p> <p>個人課題をかなり減らしたにも関わらず「時間がない」との自由記述が多いことから、すでに学習済である疫学、統計情報、栄養教育に関する科目の習熟度が低いことが推察される。しかし、臨地実習を踏まえ、公衆栄養マネジメントのPDCAサイクルを一通り運営し、理解と技術の習得を行うことを教育目標としていることから、実習内容をこれ以上下げることができないため、次年度より課題の提示について、より具体的にできるよう検討したい。</p> <p>また、PCでの作業が多いが、本学のPCルームが土日は使用できないことが、課題の進捗に影響を及ぼしていることが自由記述からわかる。</p>
---	--

4. 学生の目標達成状況について

(1) 教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	やや達成された	やや達成された	やや達成された	やや達成された		やや達成された
<p>(2) 上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。</p> <p>* 根拠として、成績（トータル成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差、S、A、B、C、Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。</p> <p><授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など</p>	<p>本科目の成績の平均値は69.3（±6.4）点で、概ね標準的レベルに達したが、理想的レベル（80点以上）の者は9名（9.3%）しかいなかった。グループ活動が多く、複数の課題を班員で分担して行うことが多いため、どうしても成果物を担当した学生のレベルに委ねられてしまうことが原因と考えられる。</p> <p>学生の自己評価によると、各目標の達成度はDP1事象を理解する視点や考え方を得ることができた（98.1%）、DP2専門分野の課題を検討する力（98.1%）、DP2的確に判断する力（99.0%）、DP3専門分野について学び深めたい意欲（97.1%）、DP5必要となる技術（95.2%）、DP5コミュニケーション力（100%）と、どれも高かった。</p> <p>実際に採集したアンケート結果から課題を発見し、解決策を検討することを目標としているため、どうしても情報処理能力が問われる。実習中には統計処理ソフト（エクセル統計）の使用方法的説明しかできないため、実際の統計処理は各自の実習時間外作業となるが、情報処理室の開放時間が限られているため、課題が思うように進まないようである。この点については、授業内容レベルの低下はこれ以上できないため、大学の学習環境の改善を強く望む。</p>					

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

<p>DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。</p> <p><授業評価の指標> 「受講動機」、「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など</p>	<p>臨地実習を目前に控えた3年後期の開講科目であり、主に課題を発見し、解決策を考える力、行動変容が期待できる集団健康教育企画の立案と運営などの実践的な能力の習得を目指す内容であり、学生の学習到達度の自己評価も98.1%と高いことから内容的妥当性は高いものと考えられる。</p>
--	---

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお願いします。
また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお願いします。

<授業評価の指標>

「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など

PDCAサイクルの運営を一通り実践することから、実習スケジュールが非常にタイトであることは認める。しかし、昨年度から、課題をスムーズに仕上げるためにループリック評価を用い、事前に説明する時間を設けたところ、今年はこちらを参考に課題を勧めた学生がおり、課題のやり直しが例年より少なかったように思う。また、実習スケジュールから、毎年「課題が多い」と不満が多いので、授業内容については毎年改善（実習内容のスリム化）している。それでも、時間が延長（135分以降になることを延長と表現）することに対する不満が自由記述からうかがえるが、臨地実習先施設（保健所・保健センター）からは高い評価を得ているので、指導内容は妥当と考える。
図書館（36.2%）よりインターネットの利用（61.0%）を行う者が多いことから、次年度より図書館の活用をさらに進めていきたい。

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお願いします。

ニーズアセスメントのためのアンケート作成から、PDCAサイクルの運営を一通り行うタイトなスケジュールであるが、3年後期の専門科目の最終段階で、臨地実習直前の科目であるため、課題が多い点は認める。しかし、実際には臨地実習先から高い評価を得ているため、効果があると評価できる。
次年度は学生の課題に取り組む時間や負担を減らすために、参考図書や資料の提示、評価方法の事前の提示などを取り込んでいきたい。

リフレクションカード 2016年度後期

学科	栄養学科
氏名	青木 るみ子

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
給食経営管理実習Ⅰ	2	後期	必修	はい	97

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	×	○	×	○

3. 授業準備について

<p>授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。</p> <p><授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など</p>	<p>①管理栄養士・栄養士の要件科目であり、3年前期・給食経営管理実習Ⅱ（以降、実習Ⅱとする）の基礎となる科目である。履修動機としては「必修科目である」が98.9%、「資格取得に必要」が18.0%であった。卒業必修、管理栄養士・栄養士資格必修選択科目、また臨地実習Ⅰの要件科目であるため、前述のような結果となった。</p> <p>②特定給食施設を想定した生産管理、衛生管理、品質管理、原価管理の計画・実施を、各管理内容に必要な帳票整理を通して評価・改善を行わせる内容である。学生の自主学習が実習進行度および給食管理に関しての習熟度に影響を及ぼすため、2年前期・給食計画論で必要な知識の習得に努め、本実習で実践する流れを作っている。学生には計画段階から考えさせ、実習を通して『人・物・時間』をマネジメントする訓練を行わせている。</p> <p>③実習の性格上、時間外の作業が多いことについて、あらかじめ時間外の活動が必要となる点に関してオリエンテーションで十分に説明を行った。実習内容と趣旨の説明を『実習担当2週間前』、『実習担当1週間前』、『実習担当前日』、『実習担当当日』と時系列で詳細に行い、理解を促した。授業時間外の活動を省くことは、実習を運営する上で、困難である。本実習で修得した経営管理の知識を、実習Ⅱで実践・運用していく。</p>
---	---

4. 学生の目標達成状況について

<p>(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。</p>	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	やや達成された	やや達成された		やや達成された		どちらもいえない
<p>(2)上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。</p> <p>*根拠として、成績(トータル成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示し下さい。</p> <p><授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など</p>	<p>総合成績の平均点は80点で、再試対象者は10/94名(10.6%：昨年度18%)であった。再試対象者となった者は、DP1(知識理解)に関しての到達度が低い者である。DP2～5に関しては、実習を通しての実務や課題内容で判断し、標準レベルへ到達したと思われる。到達度自己評価は全ての項目において高い評価となっており、特に「知識の刷新」「専門性に関する項目」「職業選択」に対しての到達度自己評価が高い結果となった。この結果より、特に専門性への理解も進んだと考えられる。学習量の評価では約64%の者が30分以上の予習をした上で実習に参加しているが、これは昨年度より低下しており、授業に対しての積極性の低下が懸念された。</p>					

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

<p>DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。</p> <p><授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など</p>	<p>本実習は専門科目、臨地実習への準備科目としての位置づけである。専門的知識、技能ともに実習の中で網羅されており、DP、CP、カリキュラムマップからみて、内容的に妥当であると考えます。</p>
---	---

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお願いします。
また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお願いします。

<授業評価の指標>

「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など

授業の質の評価より、全ての項目で同等の評価を得ており、学科平均以上（本科目全項目3.6）であった。本実習は、課題も多く、時間外に予習し、準備する内容も多い。そのため、実習一連の流れを十分に理解し、学生自身が自主的に取り組むことが必須である。このような背景から、今年度は特にオリエンテーションの内容を充実させ、さらに「教員が指示する」のではなく、「学生同士で考えて、検討し実施する」ことに重きを置いた。昨年度の改善課題で、「時間外に、いかに自主的に課題や実習準備に取り組むか」という点を掲げていた。2016年度は、時間外の準備等に関して不満は出なかったが、自主性という点では予習・復習の取り組みの状況を見る限り、改善が行われたとは考えにくい結果となった。必ずしも専門職を目指すわけではない学生が増加する中で、専門に特化した実習を運営する難しさを感じる。

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお願いします。

学生よっての取り組みの程度に差が見られ、消極的な取り組み姿勢の学生が増加している現状から、実習初回のオリエンテーションで詳細に実習の趣旨とスケジュールの説明を行っていきたい。

リフレクションカード 2016年度後期

学科	栄養学科
氏名	天本 理恵

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
卒業ゼミ	4	通年	選択	いいえ	8

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	○	○	○	○

3. 授業準備について

<p>授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。</p> <p><授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など</p>	<p>①卒業ゼミは、4年次の選択科目であり、学生が興味のあるテーマを選択する。受講動機は「関心のある内容である」4/6名（66.7%）、「必修科目である」が2名（33.3%）であった。単位数確保だけを動機にゼミを履修してしまうと、活動していく中でゼミ活動への意欲が失せる可能性もあり、結果としてゼミ全体のモチベーションの維持が難しくなるので、ゼミを履修前の説明時（面談時）に、より詳しい説明を行い、意志の確認をしていく。またゼミでは、ゼミ活動以外に相談や国家試験対策等のサポートを行ってきた。今後も学生たちの大学生活でのサポートを継続していく。</p> <p>②ゼミでは、福祉学科が実施しているほほえみの会（低出生体重児とその保護者の会）で、福祉や看護の学生たちと協力して、栄養や食事のサポートだけでなく遊びのサポートも行ってきた。学生たちは、このほほえみの会の活動を行っていくなかで、自然とチームで活動することの大切さを（3学科協働の精神）身につけることができたと考えられる。</p>
---	---

4. 学生の目標達成状況について

<p>(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。</p>	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	やや達成された	やや達成された	やや達成された	やや達成された	やや達成された	やや達成された
<p>(2)上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。</p> <p>* 根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差、S、A、B、C、Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示し下さい。</p> <p><授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など</p>	<p>①DP1（知識理解）、DP2（思考判断）、DP3（関心意欲）、DP4（態度）、DP5（技能表現）すべてにおいて、準備から実施にいたるまでのゼミの活動や提出物によって評価した。特にDP2および5についての学生たちの自己評価が高く、履修する時の関心は低かったものの、学生個々人がゼミ活動を実施していく中で、課題を検討する意欲や学びをふかめる意欲が芽生え、必要となる技術も身につけ、さらにはコミュニケーション能力・表現力を高めることができたものとする。ゼミ活動が就職選択の参考になった「わりにそうだと思う」「かなりそうだと思う」とすべての学生が回答しており、この回答からも学生が意欲をもってゼミ活動を行ってきたことが推察される。</p> <p>②ゼミ活動においてはシラバスの計画通りにはいかないため、前期スタート時に年間のゼミ計画の概要を説明する。よってシラバスを参考にはしていないという回答は、やむを得ない。今年度は、課題学習や自己学習のために図書館やインターネットの利用が少なかった。今後は学術的視点からもっとデータベースの検索利用回数を増やせるよう、学生たちに教え使用を促していく。</p>					

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

<p>DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。</p> <p><授業評価の指標> 「受講動機」、「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など</p>	<p>本科目は、4年次の選択科目である。本科目履修者の学習到達度から、選択教科ではあるものの関心の高さや達成度の高さは伺えたため、DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性に関しては、妥当であったと考える。</p>
--	---

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお願いします。
また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお願いします。

<授業評価の指標>

「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など

上記4にも記載したが、ゼミ活動においてはシラバス計画通りにはいかないため、前期スタート時に年間のゼミ計画の概要を説明する。課題学習や自己学習のための図書館やインターネットの利用が低かったことに関して、今後は学術的視点からもっとデータベースの検索利用回数を増やせるよう、学生たちに教え使用を促していく。ゼミの活動時間は、3学科の協働の時間であり、栄養学科の学生個々人との時間をなかなか持つことが出来なかった。今後は、ゼミ活動以外にもゼミ生と接する機会を増やし、ゼミ活動、国家試験勉強、就職活動など様々な面で学生のサポートをしていきたいと考える。

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお願いします。

本科目の位置づけは、4年次の選択科目であり、学生が自ら希望するテーマ（教員）を選択していく。選択科目としての履修ではあるが、学習到達度の学生の自己評価および試験結果から、概ね全てのDPを達成できたものとする。これからも学生の反応をみつつ、常に意見を取り入れ、ゼミ（授業）改善を行っていく。

リフレクションカード 2016年度後期

学科	栄養学科
氏名	青木 るみ子

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
卒業ゼミ	4	通年	選択	いいえ	8

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	○	○	○	○

3. 授業準備について

<p>授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。</p> <p><授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など</p>	<p>ライフステージ別の食教育を含めた料理教室の運営活動を行っているが、企画～準備～実施～評価～改善を通して、学生の自主性を重視して指導を行っている。履修学生の大半の受講動機は「関心のある科目である」であり、取り組み意欲の高さが窺われ、担当教員の指導方針との整合性が得られていたと考えられる。一方で、「単位数確保」や「その他」を選択している学生もおり、このことから学生間に取り組みへの温度差があったことが確認できる。2016年度は、学生の活動への取り組み姿勢から、各学生の特性に合わせた役割分担を検討させた。</p>
---	--

4. 学生の目標達成状況について

(1) 教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
		達成された	達成された	達成された	達成された	やや達成された
<p>(2) 上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。</p> <p>* 根拠として、成績(トータル成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示し下さい。</p> <p><授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など</p>	<p>到達度自己評価から、「知識の確認・修正」(評価4.8)ができ、「事象を理解する視点・考え方」「専門分野への学びの意欲」「こにゆにけーション能力」が身に付いたと評価する者が多くいた。また、「行動規範」等を学ぶことができたとし、「職業選択の参考になった」と評価された。これらは、DPの目標に到達したとする十分な判断材料であると考えられる。いずれも、評価の平均は4.0を超える高い結果であった。</p>					

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

<p>DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。</p> <p><授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など</p>	<p>4年間の学習内容を総合して取り組むのが卒業ゼミであると考えらる。本ゼミ活動は大学生活で得た知識・技術を実践する活動内容であることを重視しているため、到達度の自己評価の結果から、内容的に十分に妥当であると考えられる。</p>
---	--

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお示しください。
また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。

<授業評価の指標>

「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など

授業の質の評価から、特に「話し合う」「質疑応答」の機会が十分に確保できていたと評価された。多職種と協働で仕事を行っていく必要があるため、その訓練ができたのではないかと考える。これは、担当教員への意見の内容からも支持される。

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示しください。

本ゼミは、活動内容が多い上に、学生の自主性に重きを置いているため、時間外での話し合いや作業が多く求められる。2015年度の総括に「履修学生が毎年入れ替わることを考えると、学生の資質によっては負担に感じる内容である可能性がある」と検討課題を示したが、2016年度でも引き続き検討課題となった。2017年度の活動では、ゼミ活動に関するオリエンテーションを行い、活動内容と時期、役割分担を詳細に確認する時間を設ける予定である。

リフレクションカード 2016年度後期

学科	栄養学科
氏名	境田 靖子

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
卒業ゼミ	4	通年	選択	いいえ	14

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	○	○	○	○

3. 授業準備について

<p>授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。</p> <p><授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など</p>	<p>今年度の履修生は、国家試験を受験する者と受験しない者が混在したため、受講動機について「関心のある内容である」（69.2%）、単位数確保（46.2%）と分散し、学修準備性については高いとはいえない状況であった。しかし、卒業ゼミのテーマ公開時に地域栄養活動の実践であることは説明しており、過去のゼミ活動を参考にしながら個々の目的をもって履修登録をしていると考えられ、専門分野における課題解決能力、健康増進に寄与する意欲、必要な技術の習得などCP上の位置づけも適切であったと推察される。</p>
---	---

4. 学生の目標達成状況について

(1) 教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	達成された	達成された	達成された	達成された	達成された	達成された
<p>(2) 上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。</p> <p>* 根拠として、成績（トータル成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差、S、A、B、C、Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示し下さい。</p> <p><授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など</p>	<p>本科目の学習目標達成状況は、全般的評価（自分なりの目標を達成した）は4.0点と高く、DP1（知識の確認・習得）が4.3点、DP2（課題を検討する力）が4.2点、DP3（学びを深めたい意欲）が4.5点、DP4（職業倫理・規範）が3.8点、DP5が（専門分野で必要な技術）3.9点、と（コミュニケーション能力）4.3点と、どれも高い達成度であったが、昨年より低下の傾向があった。これは、国家試験を受験しない学生の自己効力感が低いこと、また、実践的な地域栄養活動であったことから、地域栄養活動の目標（若い世代が食育に関心を持つ、若い世代の野菜摂取量の増加など）の達成は容易ではないことを身をもって知ったため、活動内容のハードさに比べ、自己に対して厳しい評価を下した点を感じ取れる。</p> <p>しかし、各自の担当部分を進めるにあたり、図書館等の調べ学習に基づいた意見交換の場を設けたり、北九州市保健福祉局管理栄養士との話し合いの場もあったことから、参加型学習としての質の確保は十分達成されたと考えられる。</p>					

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

<p>DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。</p> <p><授業評価の指標> 「受講動機」、「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など</p>	<p>これまでの公衆栄養学ⅠおよびⅡ、公衆栄養学実習および地域栄養活動論の実践編として位置づけられ、卒業ゼミのテーマ公開時において「若い世代の食育実践」「ESDステーションでの食時診断会の実施」等、地域栄養活動の実践を行うことを説明しており、学外での活動であることを十分に理解した上での履修であることから、受講動機の準備性は適切である（関心のある内容69.2%）。さらに、地域活動の実践では不可欠である科目を横断した知識や技術を会得した上での実践により、さらに栄養士・管理栄養士として不足している点への気づきを促すことができている点、DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけに対する内容的妥当性は高いと考えられる。</p>
--	--

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお願いします。
また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお願いします。

<授業評価の指標>

「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など

授業の質の評価、学習量の評価は、どれも高い評価であり、学生自身による学習の進行、および技術の習得を進め、授業運営は適切であったと考えられる。また、図書館の図書・雑誌の利用6人/13人中、CiNiiなどデータベース利用1人/13人中、インターネット検索12人/13人中は、他のゼミに対し比較的高いと言え、次年度も継続的に参考図書やサイト、文献検索の方法等についての情報提供を適宜行うようにしていきたい。

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお願いします。

専門科目の集大成である本科目（卒業ゼミ）は、自発的な学びと活動の実践を進めながら、専門知識と技術の習得を実践的に行うものであり、各学生の高い目標達成度からも授業の質は十分適切であると考えられる。次年度は、DP1(事象を理解する力) およびDP2 (的確に判断する力) をのばすために、食事診断会の実施後に振り返りの場を設けるようにしていきたい。

リフレクションカード 2016年度後期

学科	栄養学科
氏名	銀光

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
卒業ゼミ	4	通年	選択	いいえ	7

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	○	○	○	○

3. 授業準備について

<p>授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。</p> <p><授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など</p>	<p>①卒業ゼミでは、栄養疫学の知識を生かして、大腸癌の疫学と2型糖尿病の疫学について研究した。</p> <p>②週一回の抄読会を行い、先行研究について発表をおこなった。</p> <p>③学生たちの勉強意欲を高めるため、ゼミ中の質問や討論を増やした。</p> <p>④調査資料の整理、エラーチェック、統計ソフトの使用などについて、できるだけ自分がすることに徹底した。</p> <p>⑤アルコール代謝酵素遺伝子多型の実験をし、自ら実験操作をして、応用力の向上を目指した。</p>
---	--

4. 学生の目標達成状況について

(1) 教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	達成された	達成された	達成された	やや達成された	やや達成された	達成された
<p>(2) 上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。</p> <p>* 根拠として、成績(トータル成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示し下さい。</p> <p><授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など</p>	<p>①発表成績の平均値は95点であった。論文の読み、説明は非常に良かった。</p> <p>②昨年度と比べると、成績平均点は上昇した。</p> <p>③「自分が学ぼうとしている専門分野のさまざまな課題を検討する力を得ることができた」と答えた者は100%であり、「自分が学ぼうとしている専門分野において、的確に判断する力を得ることができた」と答えた者も100%で、知識理解、思考判断、技能表現、関心意欲については目標が達成されたと考えられる。</p>					

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

<p>DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。</p> <p><授業評価の指標> 「受講動機」、「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など</p>	<p>①CP、カリキュラムマップ上の位置づけからみても内容的妥当性 本科目は「演習」であり、実践能力、判断能力及び論理的思考能力を訓練する科目である。</p> <p>②DP、行動目標からみても内容的妥当性 成績評価から知識・理解、思考判断、技能表現に関し、目標は達成した。</p> <p>③まとめ 以上から、内容的妥当性には問題はないと思われる。</p>
--	---

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお願いします。
また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお願いします。

<授業評価の指標>

「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など

授業の質評価において、「テスト、レポート、提出物などの評価基準は明らかであった」の平均が5.0で、「授業中に自分の意見をまとめる、話し合う、発表するなど、学生が参加する機会が設けられていた」の平均が4.8であった。「口頭、文書など、何らかの形で学生の質問を受け付け、それに答える機会が作られた」の平均は5.0で、授業の内容はよかったが、「説明は理解しやすいものであった」の平均が5.0であった。次年度に向けては、もっとゼミ生が自分で考え、自分で計画をして、研究をすることを推進したい。

学生の意見として、もうちょっと自分から手を動かして行くことが大事という意見があり、次年度からは改善して行きたい。

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお願いします。

ゼミである本科目の位置づけから、知識理解、思考判断、態度の面、技能表現の面では課題をおおむね達成したが、態度については、課題が残した。今後、学生の態度の向上を目指していきたい。
授業過程を振り返ってみたとき、授業中、勉強内容が少し狭い範囲で、今後、幅広い知識を吸収するよう努力を行っていきたい。
講義スライド、配布物（授業の参考資料）に関しては、学生の意見を積極的に取り入れ、来年度にむけて授業進捗と内容説明について改善して行きたい。

リフレクションカード 2016年度後期

学科	栄養学科
氏名	手嶋 英津子

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
卒業ゼミ	4	通年	選択	いいえ	13

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	○	○	○	○

3. 授業準備について

<p>授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。</p> <p><授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など</p>	<p>本科目は、4年間の集大成の科目である。ゼミのテーマについて調査・研究計画を立案し、計画に従って調査あるいは研究を実施することであり、将来、管理栄養士として直面する課題に対する解決方法を身につけることを目的としている。受講動機は、「関心のある内容である」と回答した学生が50%、「資格取得に必要である」が33%であり、他は「単位数を確保する」と回答した学生もおり、受講動機の違いが確認された。</p> <p>開講時の学生の学習準備性に関しては、受講動機の「関心のある内容である」が50%であり、個人のばらつきがあると考えられる。次年度より、ゼミ選択時の説明でテーマについて詳細に説明することが課題である。</p>
---	--

4. 学生の目標達成状況について

(1) 教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	やや達成された	やや達成された	やや達成された	やや達成された	やや達成された	やや達成された
<p>(2) 上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。</p> <p>* 根拠として、成績(トータル成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示し下さい。</p> <p><授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など</p>	<p>本科目の最終成績は、「理想的レベル(80点以上)」に達し、到達度自己評価においてはすべての項目において全員が「そうだと思う」と回答している。学習量の評価では、92%以上の学生が予習復習や自発的学習に取り組み、主体的に学習していることが示された。また、各テーマに関する課題の取り組み状況や、ゼミ活動への積極的な態度が見られたため上記評価とした。</p>					

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

<p>DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。</p> <p><授業評価の指標> 「受講動機」、「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など</p>	<p>本科目は、4年間の集大成として位置づけられており、ゼミのテーマに取り組むことで専門的知識ならびに理解を深め、管理栄養士に必要な問題解決能力を身につけることを目的としている。</p> <p>本ゼミのテーマは、ライフステージに応じた食育に関連した内容であり、また公開講座において体験的に学習することで、管理栄養士に必要な実践的スキルや知識の修得に繋がったと考える。到達度自己評価においても、専門分野においての各項目に対して平均4.0以上と評価が高いことから、専門的知識、理解が深まったと推察される。このことから、内容的妥当性については問題ないと考えられる。</p>
--	---

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお示しください。
また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。

<授業評価の指標>

「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など

学生の目標達成状況ならびに内容的妥当性に問題がなかったと考えられるが、受講動機にばらつきがあったため次年度より説明の時に明確に内容を示すことが課題である。

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示しください。

本科目は、4年間の集大成として位置づけられており、ゼミのテーマに取り組むことで専門的知識ならびに理解を深め、管理栄養士に必要な問題解決能力を身につけることを目的としている。本ゼミでは、受講動機や学修の準備性にばらつきがみられたものの、実際には積極的に課題に取り組む姿勢が見られ、到達度自己評価も全体的に高かったことから、内容的妥当性はないものと思われる。
しかし、4年間の集大成という位置づけであることから、学習成果をより高めるためには受講前の明確な説明をすることが課題である。

リフレクションカード 2016年度後期

学科	栄養学科
氏名	古田 吉史

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
卒業ゼミ	4	通年	選択	いいえ	12

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	○	○	○	○

3. 授業準備について

<p>授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。</p> <p><授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など</p>	<p>①卒業ゼミについては、学生らがこれまでの講義や実習では学べなかった事柄を新たに体験し、その体験を通じて現象・事象について深く学ぶということに重点をおいてゼミ活動を行った。</p> <p>②テーマについては、北九州という地域性・地域への貢献性・且つ私の専門分野が発酵であること等を鑑み、北九州に古くから伝わる伝統食の一つである『糠漬け(糠床)に関する研究とモノ造り』をテーマとして採用した。</p> <p>③但し、ゼミ生の募集を行った際に学生らの興味・関心を調査したところ、研究への関心度はそれほど高くなかったため、「米糠からのオリジナル糠床の作製」と「その糠床を用いた糠炊きの試作(サバ、イワシ)」=モノ造り については全員共通のテーマとし、今年度の研究課題である「熟成糠床中並びに浸漬野菜に付着する微生物叢の調査」については分担して取り組むこととした。</p> <p>④ゼミ生が12名と多く全員が同時期に取り組むことが困難だったため、コミュニケーションが取りやすい3~5名ずつの3グループに分け、グループ毎でゼミ活動を実施した。</p>
---	--

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	達成された	達成された	やや達成された	達成された	達成された	やや達成された
<p>(2)上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。</p> <p>*根拠として、成績(トータル成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示し下さい。</p> <p><授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など</p>	<p>最終的な成績がゼミ生12名中、Aが10名、Sが2名であったこと、また学生らの到達度自己評価においてほぼ全ての項目の中央値が4であったこと、且つ何れのグループにおいてもオリジナル糠床の作製とそれを用いた糠炊きの試作について十分満足のいく結果が得られたことから、概ね当初の教育目標を達成できたのではないかと考えられる。</p> <p>(さらに、一部の学生については”だいすきっぽん”に参加し、地域の子ども達に自身の造った糠床や糠炊きについて説明・紹介するという機会にも恵まれた)</p> <p>一方、研究的側面から判断した場合は、全グループで分担して取り組んだために各自が体験する時間数が足りなかったこと、並びにそれぞれ得られた結果が断片的であり全体を通しての結果を考察し判断する機会がなかったこと等から、研究的な技能と思考力の養成については完全に達成されたとは言えない状況であったと考えられる。</p>					

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

<p>DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。</p> <p><授業評価の指標> 「受講動機」、「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など</p>	<p>①CP、カリキュラムマップ上の位置づけからみでの内容的妥当性 本科目は4年次の選択科目であり、受講した全ての学生が一定の成績を収めていることから、内容的には妥当であると考えられる。</p> <p>②DP、行動目標からみでの内容的妥当性 「知識理解」「思考判断」「意欲関心」「態度」「技能表現」の全ての項目において、達成度にほぼ問題はないと考えられる。</p> <p>③まとめ 以上のことから、内容的妥当性に問題はないと思われる。</p>
--	---

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお願いします。
また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお願いします。

<授業評価の指標>

「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など

今年度のゼミ活動の進め方については、上記3に示したように、ゼミ生が12名と多かったためにグループ制とし、学生からの意見聴取の結果から関心度の高かった”モノ造り”のテーマに関しては全員共通のテーマとし、関心度の低かった”研究課題”についてはグループ毎の分担制とした。モノ造りに関しては全員が成功し、且つ学生の習熟度・満足度も高かったことから、次年度も引き続きこの方法を採用したいと考えている。一方、研究課題への取り組みに関しては、グループ毎の分担制としたため研究に携われる時間数が少なかったことにより、技能習熟度は十分でなかったと思われる。しかしながら、全員が国家試験希望者で（且つ就活もあり）研究活動に割ける時間が限られているという状況を鑑みると、目標とする研究課題を達成するためにはやはり分担制にして取り組むのが妥当であると考えられる。但し今年度は、得られた断片的な研究結果の全てをまとめて、学生らとディスカッションする機会がほとんどなかったことが悔やまれる（反省点として挙げられる）。次年度の卒ゼミでは是非、研究成果の全般を振り返りディスカッションする機会を作ることで、研究に対する学生の理解度と思考力の向上に努めたいと考えている。

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお願いします。

総合的に判断して、概ね当初の目標を達成することができた。
次年度は、上記6に示したように、断片的な研究結果をまとめて学生らとディスカッションする機会を作り、研究に関する学生の理解度・思考力の向上を図りたいと考えている。

リフレクションカード 2016年度後期

学科	栄養学科
氏名	山田 志麻

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
卒業ゼミ	4	通年	選択	はい	10

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	○	○	○	○	○

3. 授業準備について

<p>授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。</p> <p><授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など</p>	<p>①本科目は、自由選択科目であり、できるだけ本人の希望するテーマに沿ってゼミを進めていった。 ②10名の希望者のテーマはアレルギー対応レシピ開発、郷土料理の調査、菓膳について、和菓子開発、地元野菜を使った子供のお弁当作り、障害児を対象とした食育活動、高齢者施設を利用する高齢者の栄養調査などであった。 ③最終的にレシピ開発はレシピ集を作成、調査を行ったものは集計およびそのまとめを作成した。 ④本人の自由意思でゼミ活動が行われたため、進捗状況に差が見られた。</p>
---	---

4. 学生の目標達成状況について

<p>(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。</p>	全体を通して	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	やや達成された	どちらともいえない	やや達成された	どちらともいえない	やや達成された	やや達成された
<p>(2)上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。</p> <p>* 根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。</p> <p><授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など</p>	<p>それぞれのテーマに沿ったゼミ内容であったため、活動を中断したものが2名いた。テーマに沿って、意欲的に学習し、最終的にまとめた者はS1名であった。活動及びレポートの提出があったものはA5名であった。その他B1名、C1名であった。</p> <p>ゼミ開始時に図書館文献検索の講座を行い、利用方法を復習したためか、全員が図書館の利用や検索等を行っていた。</p>					

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

<p>DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。</p> <p><授業評価の指標> 「受講動機」、「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など</p>	<p>①CP、カリキュラムマップ上の位置づけからみても内容的妥当性 本科目は「専門教育科目・専門分野」の選択科目であるが、自分で選んだテーマについて、自分の力で文献を調査・検討し、最終的にまとめることが目標であるので、内容的には妥当であると考え。 ②DP、行動目標からみても内容的妥当性 成績はおおむね良好に維持されていることから、内容的には妥当であったと考える。 ③まとめ 以上から、内容的妥当性には問題はないと思われる。</p>
--	--

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお示しください。
また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。

<授業評価の指標>

「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など

「授業の質評価」において、項目(3)の「説明の理解しやすさ」が3.5点と比較的高かった。その他に項目(4)の「授業への参加」3.3、項目(5)の「学生との質疑応答」も3.7点と比較的高得点であることから、授業の目標はおおむね達成できたのではないかと考えられる。

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示しください。

専門教育科目・専門分野にあたる本科目は、自分で調べ、自分で企画し、実行し、結果を出せることが、目標である。これまでの学習に加え、企画力や実行力、責任感や社会性なども問われ、自身の実力が試される科目である。テーマの選択を個人の自由にしたため、活動内容が分散され、指導も徹底できなかったため、テーマをいくつかに絞る必要性があった。ゼミとしてのまとまりがなく、各テーマごとの討論会なども実行できなかったことが、今後の課題と言える。

リフレクションカード 2016年度後期

学科	栄養学科
氏名	田川 辰也

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
管理栄養士演習VI	4	後期	選択	いいえ	76

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	○	○	×	×	×

3. 授業準備について

<p>授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。</p> <p><授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など</p>	<p>①4年生になって、国家試験の受験を目標に、公衆衛生学および病態医学の知識が問われるようになってくる。チーム医療の一員として栄養士、管理栄養士に必要な公衆衛生学および病態医学知識および考え方を修得し、国家試験問題に対応できるように心がけた。</p> <p>②初回の授業の最初に学習準備ため、シラバスを用いてオリエンテーションを行った。</p> <p>③授業の最初にテストを行い、その後テストの解説を行い、学生の意識を高め、学習状況を確認するようにした。</p> <p>④授業で使用する配付資料を昨年より修正し、よりわかりやすい内容とした。</p>
---	---

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
		達成された	達成された	達成された		
<p>(2)上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。</p> <p>*根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示し下さい。</p> <p><授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など</p>	<p>①本試験の成績の平均値は68(±12)点であった。理想的レベル(概ね70点以上として試験を作成)に達したものは約50%であった。</p> <p>②昨年度と比べると、本試験の平均点は同等であった。</p> <p>③学生による授業評価においては、「過去問を解いて復習をした」という意見を多くいただいた。今後とも、わかりやすく、復習しやすい資料作りと授業内容に心がける。</p> <p>以上から、教育目標は達成されていると考えられる。</p>					

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

<p>DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。</p> <p><授業評価の指標> 「受講動機」、「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など</p>	<p>①CP、カリキュラムマップ上の位置づけからみでの内容的妥当性 本科目は「専門応用科目」である。選択科目であるが、管理栄養士国家試験を受験するために非常に重要である。学生の受講動機は国家試験受験資格を取得するためである。授業内容は国家試験に出題される内容であり、その重要性は学生にしっかり伝えている。定期試験にて学生も一定の成績を収めていることから、内容的には妥当であると考えられる。</p> <p>②DP、行動目標からみでの内容的妥当性 成績評価から、知識判断、思考判断、態度に関する達成度が高かった。毎年国家試験の動向を見ながら、内容を修正しており、内容的には妥当であったと考える。</p> <p>③まとめ 以上から、内容的妥当性には問題はないと思われる。</p>
--	--

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお願いします。
また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお願いします。

<授業評価の指標>

「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など

授業の質評価において、「知識を確認、修正したり、新たに得ることができた」の平均が3.7、「自分が学ぼうとしている専門分野について、学びを深めたと意欲をもつことができた」の平均が3.5と高かった。学生の成績を踏まえて判断すると、授業の目標は達成できたのではないかと考えられる。次年度に向けては、さらに知識を深める努力をするともに、学生がより学習意欲を持ち、国家試験に臨めるモチベーションを持てるように改善していきたいと考える。

学生の意見としては、「過去問を解いた」が多く、学生が授業の内容を踏まえて、国家試験に向け、しっかり取り組んだことがうかがえる。

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお願いします。

専門科目にあたる本科目の位置づけから、基礎的知識の形成については達成でき、思考判断の面でも課題は達成できた。今後、結びつきの強い科目である後期の「管理栄養士演習Ⅵ」に引き継いでいく予定である。

授業過程を振り返ってみたとき、毎回授業の最初にテストを行ったことで、学生が検討を加える時間できた。今後は予習課題の提示などで改善を図りつつ、復習をやりやすくするなど、さらなる改善に努めたい。

以上から、毎回の授業のねらいを具体的に示すこと、テストで考える時間をとり、復習課題を意識的に提示するようにすることを今後とも続けていきたい。

配布物（授業の参考資料）に関しては、学生の意見を積極的に取り入れ、来年度にむけて改善を行いたい。

リフレクションカード 2016年度後期

学科	栄養学科
氏名	南里 宏樹

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
管理栄養士演習Ⅶ	4	後期	選択	いいえ	77

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	○	×	×	×

3. 授業準備について

<p>授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。</p> <p><授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など</p>	<p>①今回の受講動機の内訳は、「必修科目である」が45.2%、「資格取得に必要である」と答えたものが71.0%である。この科目は、管理栄養士必修ではないが管理栄養士国家試験の受験には重要である。管理栄養士を目指して自覚的にこの講義を受講するように促すことが必要と思われる。また、「関心のある内容である」と答えたものがわずかに4.8%に留まっていたことより、解剖生理学、生化学、基礎栄養学の基礎的知識が、管理栄養士の実践の場でもいかに重要であるかを、できるだけ具体的な事例を挙げて説明していくことが重要だと思われる。</p> <p>②解剖生理、生化学、基礎栄養学などの基礎科目は、栄養学学生の手苦とする科目であるが、これまでに学んだ内容を復習するためのオリジナル練習問題、管理栄養士国家試験の過去問などを題材に、ただ単に丸暗記するのではなく、からだのしくみを理解した上で、それを基に実際の栄養治療、栄養指導に応用できるようになることを目標に講義している。</p>
---	---

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
		やや達成された	やや達成された	やや達成された		

<p>(2)上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。</p> <p>*根拠として、成績(トータル成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示し下さい。</p> <p><授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など</p>	<p>試験成績の平均点は、75.5点(±8.5)であった。90点以上(A)が3名、80～89点(B)が22名、70点～79点(C)が29名で、60点～69点(D)が14名で、60点未満の不可は6名であった。70点以上が全体の73%を占めた。学生の授業評価アンケートにおいて、「到達度自己評価」の関連のある項目は(項目(8)～項目(10)以外)平均値が3.3点以上であるので、概ね教育目標を達成できていると考えている。特に、項目(2)の「知識の確認・修正および新知識の獲得」については3.7点と比較的高い評価であった。</p> <p>また、「学習量の評価」では、70%以上の学生が予習を、また、90%以上の学生が復習を複数回実施していることから、本科目に対して意欲的に取り組んでいると考えている。</p>
--	---

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

<p>DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。</p> <p><授業評価の指標> 「受講動機」、「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など</p>	<p>①CP、カリキュラムマップ上の位置づけからみた内容的妥当性 本科目は「専門教育科目・専門分野」の科目で、管理栄養士国家試験受験資格の取得に必修ではないが、国家試験の科目として重要である。国家試験に多く出題される内容であり、重要性は学生にしっかり伝えている。期末試験の成績において学生も一定の成績を収めていることから、内容的には妥当であるとする。</p> <p>②DP、行動目標からみた内容的妥当性 成績はおおむね良好に維持されていることから、内容的には妥当であったと考える。</p> <p>③まとめ 以上から、内容的妥当性には問題はないと思われる。</p>
--	---

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単に
お示しください。
また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示し
ください。

<授業評価の指標>

「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、
インターネット利用」学生の意見など

「授業の質評価」において、項目（1）の「評価基準」および項目（2）の「学習の範囲・課題」は3.4点、項目（3）の「説明の理解しやすさ」の平均
値は3.5で、ともに昨年より高評価であった。解剖生理、生化学、基礎栄養学などの基礎科目は、栄養学科学生の苦手とする科目であるので、よりわ
かりやすい説明を心掛けていきたい。

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示しください。

専門教育科目・専門分野にあたる本科目の位置づけから、基礎的知識を生きた知識として実践現場に活かせるように、できるだけ実際の事例に関連付
けながら演習を進めていく必要がある。

リフレクションカード 2016年度後期

学科	栄養学科
氏名	甲斐 達男

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
管理栄養士演習Ⅷ	4	後期	選択	いいえ	76

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	○	×	×	×

3. 授業準備について

<p>授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。</p> <p><授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など</p>	<p>①本科目は、管理栄養士国家試験を受験する者を対象としたものであり、授業の内容は、国家試験合格を目指して、類縁科目を総合的に理解・把握できるよう設計されている。従って、受講動機が「資格取得に必要である」に大きく偏っていることは必然として理解できる。</p> <p>②4名の教員によるオムニバス形式の授業であり、全体の様子を統一して受講生が戸惑わないよう配慮して学習の便宜を図っている。</p> <p>③管理栄養士国家試験にとって極めて重要な科目であり、前期においては国家試験の過去問の理解に重点をおいて授業を実施している。</p>
---	---

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
		達成された	達成された	達成された		

<p>(2)上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。</p> <p>*根拠として、成績(トータル成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示し下さい。</p> <p><授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など</p>	<p>①今年度の結果(前年度との比較考察も含めて) 本科目は選択科目であり、万が一単位取得が出来なくても国家試験受験資格を失うことはない。国家試験直前であり受験生の気を緩めさせてはならない時期であることから、担当教員4名の申し合わせにより、・質の高い設問を設けること、・難易度の高い設問を設けること、の2方針のもと定期試験問題を作成した。その結果、最終成績の平均点は素点36点(前年度は38点)、平常点加味後54点(前年度は55点)、標準偏差36.1、分散178.1であり、合格者3名、不合格者67名であった。これは例年と変わらない状況であり、今年度の国家試験合格率が97%であったことを考えれば、今回の到達度も前年同様、十分満足できる結果であると判断できた。</p> <p>②学生による授業評価においては、「到達度自己評価」および「授業の質」については、例年と大きく変わることがなく、特記すべき点はなかった。評価項目(8)「コミュニケーション力や表現力を高めることができた」については、昨年度も記載したが、本授業が到達目的としているものとは異なっており、学生がアンケート用紙に記載する時点で省いておいた方がよいと考える。</p>
--	---

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

<p>DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。</p> <p><授業評価の指標> 「受講動機」、「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など</p>	<p>①CP、カリキュラムマップ上の位置づけからみた内容的妥当性 本科目は国家試験受験対策の科目であり、全員が国家試験に合格するためには、全員が標準以上の成績評価を得なければならない。学習の動機付けは容易であり、学生も、結果的に国家試験で良い成績を収めていることから、内容的には妥当であると考えられる。</p> <p>②DP、行動目標からみた内容的妥当性 成績評価から「知識理解」の達成度が高かったことと、これまで課題としてあげた領域はすでに内容を修正しており、内容的には妥当であったと考える。</p> <p>③まとめ 以上から、内容的妥当性には問題はないと思われる。</p>
--	--

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお願いします。
また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお願いします。

<授業評価の指標>

「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など

国家試験の結果が本科目のすべてであるが、全国模試や校内模試の結果をみて、本授業の質的判断と対策を練りながら授業を進めている。今後もその方針は変えない。

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお願いします。

①これまで試行錯誤しながら、さまざまな問題に対してそれぞれ工夫を施して対処してきた結果、国家試験の結果に反映するようになった。本年度も昨年度と同様に実施し、良い結果が得られたことは喜ばしい。
②授業の出席率が近年まれに見るほどに非常に悪い学年であった。自己本位主義が広く深くはびこっており、人間教育という観点から見れば、まったく手の施しようのない状態であった。卒業や国家試験受験に必要な科目では、一部の熱心な学生を除いて多くが出席しないという有様であった。補講にいたっては、そのような状況が顕著に表れた。欠席の際も、再三の注意喚起にもかかわらず、欠課届けを提出する学生はほぼ皆無に等しかった。学生評価にも、そのような学生気質が反映され、教員個人を誹謗中傷するような記述が多く観られた。ありもしないことも記載されて教員を批判しており、法律上も問題があると思われる。学生が記載する際、「法的に問題がある記載については訴えられることがある」旨の指導も必要と考える。教務課でのご検討をお願いしたい。このような、学生の人格面での質の大幅な低下は、過去の経験から見て、その学年の偶発的なものであるようだ。実際、次の新4年生などは対極的に質の良い集団であり、今後、質の悪い学年のときにどう対応するかは大きな課題である。

リフレクションカード 2016年度後期

学科	栄養学科
氏名	近江 雅代

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
管理栄養士演習Ⅹ	4	後期	選択	いいえ	77

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	○	×	×	×

3. 授業準備について

<p>授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。</p> <p><授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など</p>	<p>本科目は、専門職業人である管理栄養士を目指す学生が受講しており、管理栄養士国家試験教科の『栄養教育論』および『臨床栄養学』分野の出題傾向とポイントを理解することを目的としている。</p> <p>本科目は管理栄養士受験資格の必修科目としての位置づけであるため、多くの学生の受講動機は『必修科目である』『資格取得に必要である』との理由が半数以上を占めている。また、後学期開講のため、国家試験が近づいていることもあり、本科目と同様の位置づけにある前学期開講の『管理栄養士演習Ⅳ』に比し、予復習時間ならびに自発的学習は確保されていた。</p>
---	--

4. 学生の目標達成状況について

(1) 教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	達成された	達成された	達成された			
<p>(2) 上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。</p> <p>* 根拠として、成績(トータル成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示し下さい。</p> <p><授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など</p>	<p>本科目の本試験成績の平均値は82.8 (±9.9)点であり、大多数の学生が理想的レベル(80点以上)に達することができたものと推察される。学生の到達度自己評価では、90%以上の学生が専門的知識および技術の修得ができており、また、本科目の内容は管理栄養士国家試験のための学習と直結しているため、自発的学習として、半数以上の学生が『授業の課題以外に学習に取り組んだ(自由記述：国家試験の過去問等)』と回答した。このことから、本科目における教育目標は達成できたものと予想される。</p>					

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

<p>DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。</p> <p><授業評価の指標> 「受講動機」、「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など</p>	<p>本科目は、4年次後学期に開講しており、管理栄養士国家試験の受験資格の必修科目である。専門職業人である管理栄養士を目指す学生が受講しており、学生の到達目標もほぼ同じであるため、本科目に対する達成度が高いことは明らかである。学生の達成度自己評価においても、90%以上の学生が専門的知識・技術の修得ならびに判断する力等において、達成できたと回答し、試験成績においても標準的レベルを超えていたことから、内容的妥当性については問題ないものと考えられる。</p>
--	--

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお願いします。
また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお願いします。

<授業評価の指標>

「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など

本科目の内容は管理栄養士国家試験のための学習と直結していることから、自発的学習として、半数以上の学生が『授業の課題以外に学習に取り組んだ(自由記述：国家試験の過去問等)』と回答していたことから、予復習の時間は確保されていたと考えられる。また、図書館の図書・雑誌や図書館から利用できる学術データベースの利用については、80%以上の学生が利用しなかったと回答しており、自己学習の動機付けとしても予復習時の図書館の積極的な利用を促していきたい。配布資料の印刷については、片面のみの要望があったが、本科目の配布資料は膨大であるため、経費削減を考慮し、個人対応として検討する。

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお願いします。

本科目は、管理栄養士国家試験の受験資格の必修科目であり、専門職業人である管理栄養士を目指す学生が受講している。また、本科目の内容は管理栄養士国家試験のための学習と直結しており、学生自身の資格取得のための科目として位置づけられていることから、学生の成績も良好である。また、達成度自己評価においても、大多数の学生が専門的知識・技術の修得ならびに判断する力等において、達成できたと回答しており、講義内容等についての問題は無いものとする。

リフレクションカード 2016年度後期

学科	栄養学科
氏名	境田 靖子

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
管理栄養士演習Ⅹ	4	後期	選択	いいえ	77

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	○	×	×	×

3. 授業準備について

<p>授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。</p> <p><授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など</p>	<p>管理栄養士受験資格必修科目であり、卒業必修ではないが、受講動機において必修科目であるが71.9%、資格取得に必要が64.1%となっている。本科目を履修している学生は、管理栄養士国家試験受験希望者のみであるため、必修科目＝資格必修と考えてると推察される。</p>
---	---

4. 学生の目標達成状況について

(1) 教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
		やや達成された	達成された	達成された		
<p>(2) 上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。</p> <p>* 根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示し下さい。</p> <p><授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など</p>	<p>学習到達度の自己評価においても、「知識の確認、修正、習得」は100%と高かった。しかし、本科目の平均点は66.4(±10.0)点であり、昨年の平均点78点から下がった。これは、学習量においても準備をできなかった者が昨年は6%であったのに対し今年度は20.3%、復習をしなかった者は昨年は1.5%であったのに対し17.4%と高いためと推察される。次年度は、授業時間外の課題を出すなど自己学習の機会を作るように努めたい。</p>					

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

<p>DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。</p> <p><授業評価の指標> 「受講動機」、「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など</p>	<p>本科目は4年後期開講であり、大学全期間を通しての最終的な仕上げ科目である。管理栄養士国家試験の受験資格の必須科目で、専門職業人である管理栄養士としての就職が内定している学生も多いことから、受講動機および学習到達度も高く(98.6%)、また実際の国家試験の合格率(98.6%)とリンクしていることから、科目の内容的妥当性は高いと思われる。</p>
--	---

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお示しください。
また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。

<授業評価の指標>

「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など

教員は学生は購入した指定テキストを活用し、授業を進めたことが自由記述からも推察される。
しかし、昨年度に比べ、学習量の低下がみられることから、次年度は過去問演習プリントの提供など工夫をしたい。

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示しください。

本科目における授業方法は、国家試験の合格率が高かったことから、効果を上げていると考えられる。次年度以降も、現在の方法を基盤とし、各項目の分析をさらに詳細に行い、国家試験対策へ反映していきたい。

リフレクションカード 2016年度後期

学科	栄養学科
氏名	久保田 理

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
キリスト教学Ⅱ	1	後期	必修	はい	94

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	×	×	×	×

3. 授業準備について

<p>授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。</p> <p><授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など</p>	<p>① 1年生の必修科目であるため、受講動機はその点に集中している。 ② チャペルアワーと関連付けられた科目であるため、聖書を読むこと、讃美歌を歌うこと、祈禱をすることの実践を毎回の授業で行うことで、チャペルアワーへの出席意識を高める。 ③ キリスト教に対する理解を持つことを目的に、キリスト教の礼拝で行われていることについて段階的に講義を行う。</p>
---	--

4. 学生の目標達成状況について

(1) 教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	達成された	達成された				
<p>(2) 上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。</p> <p>* 根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示し下さい。</p> <p><授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など</p>	<p>最終的な成績の平均点は82点であり、再試対象は0名であった。 全員が標準的レベルに達していた。 知識理解という点では十分な理解が得られたと考えられる。 実践の点では授業期間中に提出する「教会訪問レポート」を実施することで、キリスト教礼拝を体験することが授業内容の確認につながったと考えられる。</p>					

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

<p>DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。</p> <p><授業評価の指標> 「受講動機」、「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など</p>	<p>① CP、カリキュラムマップ上の位置づけからみても内容的妥当性 本科目は「総合人間科学」の「文化と宗教」であるが、本学の建学の精神である「感恩奉仕」を学ぶ科目であり、必修である。多くの学生がキリスト教に馴染みがないため、社会との接点を示しながら理解の助けとしたことから、内容的には妥当であると考えられる。 ② DP、行動目標からみても内容的妥当性 成績評価から達成度は十分と判断出来ることから、内容的には妥当であると考えられる。 ③ まとめ 以上から、内容的妥当性には問題はないと思われる。</p>
--	--

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお願いします。
また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお願いします。

<授業評価の指標>

「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など

授業の質評価における平均値は問題がないと考えられる。

学習量の評価では、予復習時間時間の解答に「0回」が多かったこと、また自発的学習の解答に「していない」が多かったことから、授業の内容をチャペルアワーに明確に関連付けることが必要であるとする。また、学生の意見でも「何をすれば良いかわからない」があったことから、この点は課題とすべきであるとする。

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお願いします。

キリスト教主義学校としてキリスト教理解の入り口となるのが本科目の位置付けである。その意味では知識理解の形成では達成出来た。また、チャペルアワーの出席と合わせて、キリスト教礼拝の実際にもふれる機会があり、理論と実践の実施も出来ている。キリスト教の価値観を学ぶことは、新しい視点を得ることにもつながり、判断の多様化を促すことにもなっている。
ただし、そのことを得たと実感することとは別になっている面もあり、本科目の課題として考えて行きたい。

リフレクションカード 2016年度後期

学科	栄養学科
氏名	柳澤 伸一

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
ジェンダー論	1	後期	選択	いいえ	34

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	○	×	×	×	×

3. 授業準備について

<p>授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。</p> <p><授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など</p>	<p>受講動機では、「単位数を確保する」を挙げた者が85%と圧倒的で、「関心のある内容である」を挙げた者は11%に留まった。すべての受講者に初めから積極的な受講姿勢を期待することは望めない状況の中で、新聞記事を始めとして、できる限り最新の情報を教材に使いながら、ジェンダーが現在の女性の生き方に深くかかわる大切な問題であることをつかめるように心がけた。</p>
---	--

4. 学生の目標達成状況について

(1) 教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	やや達成されなかった	やや達成されなかった				
<p>(2) 上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。</p> <p>* 根拠として、成績(トータル成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示し下さい。</p> <p><授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など</p>	<p>成績では、秀はなく、優が13%、良が47%、可が40%で、可に留まる者の多さが目立った。到達度自己評価では、「知識を確認、修正したり、新たに得ることができた」が3.2、「事象を理解する視点や考え方を得ることができた」が3.4であったが、他の項目は3.0以下であった。</p>					

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

<p>DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。</p> <p><授業評価の指標> 「受講動機」、「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など</p>	<p>本科目は、総合人間科目の一つで、DP1に係わる位置付けがなされている。受講動機状況から、動機付けに苦慮する面があったが、到達度自己評価で知的理解に係わる項目は中間値以上だったので、内容的には一応妥当であったと考える。</p>
--	---

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単に
お示しください。
また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示し
ください。

<授業評価の指標>

「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、
インターネット利用」学生の意見など

授業は、毎回、テーマに沿って、レジュメ1枚と関連資料数枚を配布し、基本的に講義形式で進めた。資料の作成に関しては、最新の新聞記事も使
て、ジェンダーをめぐる今日的諸問題が捉えられるように心がけた。授業中に使用したキーワードについて説明させるレポートを複数回課したこ
は、理解を整理する上で有意義であった。しかし、予習・復習について、学生任せにしたきらいがあり、レポートの課題以外に学習に取り組んだ者は
ごく少数にとどまった。教員には、予習・復習に関しても課題を具体的に与える姿勢が求められた。

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示しください。

講義を通してジェンダー問題に関して基本的な知見を与えることは、ある程度達成できた。しかし、予習・復習を含めたアクティブラーニングを促す
工夫については、改善の余地が大きい。

リフレクションカード 2016年度後期

学科	栄養学科
氏名	陳 青鳳

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
アジアの歴史と文化	1	後期	選択	はい	29

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	×	×	×	×

3. 授業準備について

<p>授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。</p> <p><授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など</p>	<p>1. アジアの歴史と文化の概要及び達成すべき目標とは、「アジアの自然や地理、民族、言語の導入を再確認し、この地域における国々の制度や歴史、文化などの多方面から、真のアジアを正確に認識すること」である。学生の「受講動機」において、④「単位数を確保する」の84.6%を除いて、③「関心のある内容である」は23.1%であった。この数値はあまり高くはないが、アジアに対する関心があることは大切なことである。2. 授業に関する課題やレポートなどの内容を正確に指導できるよう、また、口頭・文書などの形で学生の質問を受け付け、それに答える機会を作られるよう、今後工夫していきたい。</p>
---	--

4. 学生の目標達成状況について

<p>(1) 教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。</p>	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	やや達成された	やや達成された				
<p>(2) 上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。</p> <p>* 根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示し下さい。</p> <p><授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など</p>	<p>1. 最終的な成績の平均値は81.1点であった。そのうち、80点以上は17名、70点以上は12名ということから、標準レベルに達していた。2. DP-1の【知識理解】をみると、将来の保健・福祉を支えるための基本的知識を習得していた。3. 学生による授業評価においては、「授業に参加するために1回30分程度以上の復習を「週6回」は7人で、「授業の記録作成で自分なりのノートを作成した」が15人であった。以上から、全体を通してやや目標を達成し、知識理解もやや達成されたといえる。</p>					

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

<p>DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。</p> <p><授業評価の指標> 「受講動機」、「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など</p>	<p>学生の到達度自己評価をみると、「自分なりの目標を達成した」は3.3点、「知識を確認、修正したり、新たに得ることができた」は3.7点、「事象を理解する視点や考え方を得ることができた」は3.3点であった。一方、「職業選択の参考になった」は2.6点であった。以上のことから、内容的妥当性には問題はないと考えられる。</p>
--	---

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単に
お示しください。
また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示し
ください。

<授業評価の指標>

「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など

1. 授業の質評価について、「テスト、レポート、提出物などの評価基準は明らかであった」は4.4点であったが、「授業中に、自分の意見をまとめる、話し合うなどの機会がとられていた」は3.0点であった。次年度は、授業内で授業に関するテーマを学生に発表してもらう時間を確保していきたい。 2. 「授業の課題以外に学習に取り組みましたか」で「していない」は18人であった。授業に関連のあるテーマを指示し、授業外の学習に取り組めるよう促していく。 2. 情報・図書館利用は15人が積極的に利用していた。引き続き、授業と関連している他の知識やデータも重視すべきであることを学生に喚起していきたい。

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示しください。

アジアの歴史と文化の標準的レベルは、「アジアに属する地域や国々を、正しく地図上で説明できる。また、多様な分野におけるアジアの歴史と文化の特徴を述べるができること」であり、これは達成できていたと考えられる。また、次年度は教師の一方的な授業形式ではなく、学生の意見や質問を取り入れられるような場面を設けていきたい。

リフレクションカード 2016年度後期

学科	栄養学科
氏名	八木 康夫

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
健康科学実習Ⅱ	1	後期	選択	はい	72

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	○	○	×	×	×

3. 授業準備について

<p>授業の実施に当たり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考に記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。</p> <p><授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など</p>	<p>①受講者には、夏休み明けと後期末における体力測定および体組成（体脂肪量等）の測定を行ない、実体験した運動量と、自己の身体組成や健康度との関係が把握できるようにした。</p> <p>②各受講者は、自己の体格に合わせた最適運動量を算定し、各自にカロリーカウンターを貸し出し装着させ、毎時間の自己の運動量を記録し把握させ、運動意欲を喚起した。</p> <p>③1および2について毎時間記録と評価を行い、期末でそれらをまとめて実習期間全体の自己評価を行わせ、健康度と運動量、体組成の変容と運動量、身体運動能力の開発の程度と運動量との関係が理解できるように努めた。</p> <p>④健康科学実習Ⅱでは、職場や地域で行われている個人またはペア種目であるラケットスポーツを導入した。自己の技能到達度の把握とそれに基づく技能獲得目標の設定、ルールや競技器具の正しい使い方と物理的性質の把握による種目の理解、ペア同士の個人的理解に基づく勝利を目指した積極的チームワークの形成を促した。その結果、参加態度は積極的行動に変わったと思われる。</p>
---	--

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
		達成された	達成された	達成された		
<p>(2)上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。</p> <p>*根拠として、成績(トータル成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示し下さい。</p> <p><授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など</p>	<p>①75名が受講し、最終的な成績の平均値は83点であり、再試対象は0名で履修放棄2名あった。全員が標準的レベルに達したと考える。理想的レベル(概ね80点以上として試験を作成)に達したものは58名と、欠席する者少なく全員が積極的に受講していたと考える。72%の学生が単位修得を目的としていた。</p> <p>②目標に関して以下のように思った人数は、69名中、達成した23名、知識の取得24名、理解思考力アップ58名、課題解決できた60名、判断力獲得59名、意欲向上64名、技術獲得61名、コミュニケーション力獲得65名、職業倫理行動規範学習65名、職業選択の参考56名と非常に様々な学習効果があったと考える。</p> <p>③授業の質を以下のように思った学生数は、回答者69名中、評価基準明確63名、学習課題明確62名、分かりやすい説明66名、学生の意見交換発表の場あり58名、質疑応答の場あり46名と答えており、ほぼ質的によい状況と考える。</p> <p>④学習量では69名中、全く予習しなかった者62名、復習しなかった者61名、記録をしなかった者15名、授業以外の学習なし61名と、普段の生活での身体活動遂行には至っていないと思われる。</p> <p>⑤授業の情報利用に関して回答者69名中、シラバスを参考にした者は36名、授業計画を立てた者30名、シラバスで受講28名中8名、教員の説明で受講は28名中8名で、半数がシラバスを参考にし、加えて教員の説明も重要と考える。</p> <p>⑥授業に関連した図書館を利用者(69名中)は3名、データベース利用3名、インターネット検索3名であった。</p>					

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

<p>DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。</p> <p><授業評価の指標> 「受講動機」、「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など</p>	<p>①C P、カリキュラムマップ上の位置づけからみでの内容的妥当性 本科目は「総合人間科目」であるが、必須科目に位置付けられ、初年度教育における友達つくりやストレス解放、健康づくりに最適である。また、管理栄養士として運動の原理原則を実体験し確認する場として有用である。学生は積極的であり一定の成績を収めていることから、内容的には妥当であると考える。</p> <p>②D P、行動目標からみでの内容的妥当性 成績評価から思考判断に関する達成度が比較的高く、カロリーカウンター装着による目標運動量の達成意欲、試合数と勝利数の記載、体力体型の縦断測定比較考察は方法的に成功しており、妥当性は高い。</p> <p>③まとめ 以上から、内容的妥当性には問題はないと思われる。</p>
--	---

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお願いします。
また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお願いします。

<授業評価の指標>

「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など

授業における試合毎に、試合の内容の反省、チーム員の役割の適切さ、勝つための役割などについて短時間で話し合い、チームとして記録用紙にまとめた。
その繰り返しは積極的な参加態度、リーダーシップを産み出し、集団の中の自分の役割を意識するように促した。
今後は状況による言葉かけの内容とタイミングを検討したい。

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお願いします。

目標をはっきりと意識できるように授業の始めに話す様に務めている。それが功を奏してか、授業目標の到達を感じると評価していると考え。今後更なる学生の積極性を産みだし、健康作りのための授業以外の運動習慣、生涯スポーツを持てるような動機が発現するよう改善していきたいと考える。

リフレクションカード 2016年度後期

学科	栄養学科
氏名	相良 かおる

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
情報科学演習Ⅱ	1	後期	選択	いいえ	30

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	○	○	×	○	○

3. 授業準備について

<p>授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。</p> <p><授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など</p>	<p>本授業は、1年次後期開講の選択科目であり、今回の履修生は30名、受講動機は「単位数を確保する」が86.7%、次いで「関心のある内容である」が23.3%であった。</p> <p>授業の実施で大切にしていること、重点を置いたことは、社会（職場、家庭、地域）と自分との関係について、気づきや思考する機会があるように教材を工夫した。</p> <p>具体的には、タイピング教材には「男女共同参画基本法」を、Excel（統計処理）の教材には、①国立女性教育会館で作成・公開されている「ミニ統計集 日本の女性と男性」および、②実際のクレジット会社と銀行の金利を使った利息計算、そして自分の住む町について調べ分析し課題を見つけ、その課題解決について企画書およびスライドを作成する演習を行った。</p>
---	---

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
		達成された	達成された	達成された		達成された
<p>(2)上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。</p> <p>* 根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示し下さい。</p> <p><授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など</p>	<p>シラバス記載の行動目標について授業アンケートの際に各自で3段階評価した結果、出来る&何とかできると回答した割合は以下の通りである。</p> <ol style="list-style-type: none"> 98%：インターネットを利用する上での危険とマナーについて説明できる 100%：分かり易いリーフレットおよびスライドの作成ができる 100%：適切に情報検索することができる 91%：公開されている統計資料を適切に読み解くことができる <p>成績の平均値は78点、A評価は6.7%、B評価23.3%、C評価33.0%であった。</p>					

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

<p>DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。</p> <p><授業評価の指標> 「受講動機」、「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など</p>	<p>本科目は1年次後期開講の総合人間科学に属する科目である。</p> <p>1年次前期の情報科学演習1では、学生生活に必要な内容（学生としての自分と学び）を重点にし、後期の本情報科学演習2では社会と自分との関係に重点を置いた内容にしている。</p> <p>前述の学生の目標達成状況から、DP、CP、カリキュラムマップ上、内容的に妥当だと考えている。</p>
--	---

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお示しください。
また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。

<授業評価の指標>

「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など

情報科学演習2は比較的パソコンの得意な学生が履修しており、教育目標はほぼ達成できている。
一方、2年後期の必須科目「健康情報処理実習」では、行動目標を達成できていない学生が3割いる。
そこで、2017年度の授業では、Excelを使った記述統計の演習を増やし、2年後期開講の「健康情報処理実習」においてSA (Student Assistants) の役割を果たせる学生の育成を目指す。

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示しください。

達成状況はおおむね良好だと考えている。

リフレクションカード 2016年度後期

学科	栄養学科
氏名	木村 茂喜

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
日本国憲法	1	後期	選択	はい	33

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	×	×	×	×

3. 授業準備について

<p>授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。</p> <p><授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など</p>	<p>受講動機を見ると、「資格取得に必要なである」62.1%、「単位数を確保する」34.5%であった。教職必修科目であり、栄養教諭志望の学生が履修者の一定割合を占めていると思われる。加えて、「関心のある内容である」と答えた学生が13.8%と他の2学科と比べて多かったことは注目される。2016年度から選挙権の年齢が18歳に引き下げられたことを念頭に置き、憲法は学生自身の今後の生活や人生に関係が深いことを伝えることに腐心した。</p>
---	---

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
		やや達成された	やや達成された			

<p>(2)上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。</p> <p>*根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示し下さい。</p> <p><授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など</p>	<p>後期試験の平均点は65.56点、再試対象者は2名であった。また、設問がやや難解だったが、理想的レベル(80点以上)に達した者は0名であった。知識理解を文章で論述してもらった問題形式であったが、基本的な知識の理解がやや不十分な答案が散見された。学生による到達度自己評価については、「知識を確認、修正したり、新たに得ることができた」の平均値は3.6、「事象を理解する視点や考え方を得ることができた」の平均値が3.5であった。他の項目の平均値は2.9-3.3の間であった。</p>
---	--

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

<p>DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。</p> <p><授業評価の指標> 「受講動機」、「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など</p>	<p>①CP、カリキュラムマップ上の位置づけから見ると、本学は「総合人間科学」科目であり、教職指定科目でもある。しかし、履修の際にシラバスを参考にした学生が約3分の1であることから、学部学科全体で履修登録の際にシラバスを学生に読ませ、理由の際の参考にするよう、働きかける必要がある。将来社会の中で、対人社会サービスの担い手となる学生にとって、援助の対象者を人権の主体たる個人として理解するための基礎を得るためには重要であり、学生も一定の成績を収めていることから、内容的には妥当であると考えられる。②DP、行動目標から見ると、自己評価と成績に相関関係がみられることから、内容的には妥当であると考えられる。よって、内容的妥当性には問題ないとする。</p>
--	---

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお願いします。
また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお願いします。

<授業評価の指標>

「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など

授業の質評価のうち、「期間内に行うべき学習の範囲や課題は明らかであった」「説明は理解しやすいものであった」の平均値がともに3.4、「評価基準は明らかであった」の平均値は3.3であった。他方、「学生が参加する機会が作られていた」の平均が2.9とやや低い。これについては、看護学科・栄養学科同時開講のため、履修者が多数になることから、講義の性質上、学生の参加の機会を設けるのは困難であると考えている。また、「学生の質問を受け付け、それに答える機会が作られていた」の平均が3.1であった。今後は教員の業務の負担にならない程度で、学生の質問を促す方を考えたい。授業以外に学習していない理由として「レポートが多かったため」「することがなかった」「何をすればいいのかわからなかった」「やる気がなかった」という意見が散見された。これについては、予習・復習の具体的な仕方について、今後の講義で説明していきたいと考えている。学生の意見として、「分かり易くて丁寧でよい」「とてもわかりやすかった。憲法を学ぶ、知っていることは人生において大切なことだと思った」との意見が見られた。教科の内容について、興味を持って受講した学生が多かったからであると思われる。

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお願いします。

総合人間科学科目とする本科目の位置づけから、社会人としての基礎的な教養の形成についてはおおむね達成できたと考える。今後は予習・復習の習慣の定着と、学生からの質問を促す方を検討したいと考えている。

リフレクションカード 2016年度後期

学科	栄養学科
氏名	十時 康

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
英語Ⅱ	1	後期	必修	いいえ	96

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	○	×	×	×	×

3. 授業準備について

<p>授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。</p> <p><授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など</p>	<p>栄養学科の学生にとって英語の授業を受講することに積極的な意味を見出せていないようである。受講動機の数値は「必修科目である」が98%で、二番目に多いのが6%強であるが「単位数を確保する」というものであった。いずれにしても受講動機としては消極的なものである。</p> <p>以上のことは想定できていたので、初回の授業でテキストがESP教材であるので自分の専門分野である栄養関係の話を英語で読んでいくのだということ 강조했다。</p> <p>初回の授業で、「英語に対して、あるいは英語学習に対してどう思っているか」という趣旨のアンケートをしたが、ほとんどの学生が英語に対して苦手意識を持っているようであった。</p> <p>苦手意識のある学生が多いようなので、なるべく負担を下げるために和訳つきのワークシートなどを使って英文を読んでいくようにした。英語学習の仕方を紹介、習慣化するための方法を紹介した。</p>
---	---

4. 学生の目標達成状況について

(1) 教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	やや達成された	やや達成された				
(2) 上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。	最終の成績の平均はAクラス82点、Bクラス71点であった。両クラス合わせて再試験対象者が10名であった。					
* 根拠として、成績(トータル成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示し下さい。	<p>期末試験は60～70%が取れるように作成し、平均点は68点と62点であった。期末試験で6割を超えて得点した受講生はB以上を獲得しておりCあるいはDの学生は期末試験で半分以下の得点であった。期末試験の問題の半分は、テキストに出てきた単語の問題と普段の授業で繰り返し解いてきた形式の問題であった。</p> <p>授業内容の復習が十分にできていれば半分は超えて得点ができたはずだったが、そうでない学生が一定数いたということから「やや達成された」を選択した。</p>					
<授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など						

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

<p>DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。</p> <p><授業評価の指標> 「受講動機」、「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など</p>	<p>ESP教材を用いての授業であったが、栄養学科の学生の専門分野との直接的な結びつきを感じられなかったようである。到達度自己評価の数値では③の「まあまあそうおだと思う」が一番多かったことからわかる。</p> <p>受講動機についても、前述したように消極的なものがほとんどであったことから栄養学科の学生の知的好奇心を満たすための工夫が必要だ。</p> <p>最終成績の平均は82点と71点であったことからDP上からは内容的妥当性の問題はないと思われる。</p>
--	--

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単に示してください。
また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示ください。

<授業評価の指標>

「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など

授業の質の評価を見ると「説明は理解しやすいものであった」は平均が3.4であった。授業者のスキルアップが必要で、より明確でわかりやすい説明を心がける必要がある。

「授業中に自分の意見をまとめる、話し合う、発表するなど、学生が参加する機会が作られていた」の平均は3.6であった。現状でもグループワークやペアワークは随時入れているのであるが、学生の評価を見るとそのような活動をもっと増やした方がいいのかもしれない。

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示ください。

専門分野との関連をより強調すること、グループ、ペアワークの活動を増やすことが課題として抽出された。

専門分野との関連ではテキスト以外のいわゆる「投げ込み教材」を活用すべきかもしれない。

ペアワークの活動を増やすという点においてはペアで行う音読活動などがあるので、積極的に入れ込みたい。そのための時間を確保するためには無駄な時間を作らないように授業計画を練り直したい。

リフレクションカード 2016年度後期

学科	栄養学科
氏名	James Hicks

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
英会話 B	1	後期	必修	はい	24

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	×	×	×	×

3. 授業準備について

<p>授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。</p> <p><授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など</p>	<p>We used the textbook "Four Corners 1" (Cambridge), which guides students through a series of practical exercises aimed at improving spoken English skills. Students engaged in listening practice, dialogue drills, information gap exercises, role plays, reading comprehension, and vocabulary building for the second half of the textbook.</p>
---	---

4. 学生の目標達成状況について

(1) 教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	やや達成された	やや達成された				
<p>(2) 上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。</p> <p>* 根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示し下さい。</p> <p><授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など</p>	<p>Students were assessed on 5 criteria (passive participation 15%, active participation 45%, homework 20%, and a final test 20%). The majority of students received a grade in the 82-86 range.</p>					

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

<p>DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。</p> <p><授業評価の指標> 「受講動機」、「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など</p>	<p>Students were quite enthusiastic, positive, and willing to learn. This positive outlook contributed to a high level of participation and increased understanding of the material. Opportunities to build knowledge (DP1) were provided throughout the course with most students taking advantage of the opportunity to learn.</p>
--	--

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単に示してください。
また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。

<授業評価の指標>

「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など

Goals for the next academic year include improving integration of supplementary materials into the current curriculum and increasing opportunities for kinesthetic learning (space permitting).

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示しください。

Streamlining and improving note taking and completion of homework will improve the accuracy of individual assessment and keep students focused on class objectives.

リフレクションカード 2016年度後期

学科	栄養学科
氏名	L. Dennis Woolbright

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
英会話 B	1	後期	必修	いいえ	47

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	×	×	×	×

3. 授業準備について

<p>授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。</p> <p><授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など</p>	<p>Again in the second semester of this Oral English course, used the textbook "Four Corners: Book 1", and the focus was on building students skills in English. Each unit of the textbook covered a different topic, and it took 2-3 weeks to complete the units We spent more time on speaking activities to improve fluency. We worked on vocabulary building, and how to use that vocabulary effectively. We also worked on the four skills of reading, listening, writing, and speaking.</p>
---	---

4. 学生の目標達成状況について

(1) 教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	やや達成された	達成された				
<p>(2) 上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。</p> <p>* 根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示し下さい。</p> <p><授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など</p>	Students were assessed through chapter tests, oral practice and a final examination					

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

<p>DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。</p> <p><授業評価の指標> 「受講動機」、「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など</p>	<p>There were very few problems with absences, participation in class was always strong, and homework was mostly done. For DP1 this semester we focused a lot on building their basic skills, particularly in vocabulary, many students did make significant gains.</p>
--	---

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単に
お示しください。
また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示し
ください。

<授業評価の指標>

「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、
インターネット利用」学生の意見など

Some new goals are: 1. More oral practice through games and activities. 2. The use of music as a warm up activity.

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示しください。

There needs to be more focus on performance based task so we can actually assess the students fluency levels.

リフレクションカード 2016年度後期

学科	栄養学科
氏名	Malcolm Ross Swanson

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
英会話B	1	後期	必修	いいえ	24

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	○	×	×	×	×

3. 授業準備について

<p>授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。</p> <p><授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など</p>	<p>This was a class of non-English majors in their first year. Levels of the students varied widely from barely functional to reasonably competent (around TOEIC 400 probably). They were a hard working class of students, but because of the level, the textbook "Four Corners - Level 1" was chosen. This textbook is useful as recovery resource, helping students relearn much of what they have forgotten since leaving high school. Class times were spent mainly in the textbook, doing the grammar activities, vocabulary learning, listening exercises, and dialogue practice. We also spent some time doing presentation and skit writing activities to get them familiar with more authentic styles of English.</p>
---	---

4. 学生の目標達成状況について

(1) 教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	やや達成された	やや達成された				
<p>(2) 上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。</p> <p>* 根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示し下さい。</p> <p><授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など</p>	<p>This class has one very clear DP outcome goal - increasing knowledge and understanding. To a degree we achieved this goal. Assessment was completed using the following criteria: Classwork and participation (25%), Performance (40%), Attendance (15%), and Final Test (20%). The performance assessment was from two oral presentations, plus regular unit tests. Out of the 24 students, 9 achieved an "S" grade, 8 an "A" grade, 5 a "B" grade, and 2 a "D" grade. All students achieved passing grades in this class.</p>					

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

<p>DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。</p> <p><授業評価の指標> 「受講動機」、「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など</p>	<p>The goal of DP1 was partially achieved. Some students did very well, while others couldn't keep up with the material. There are two hurdles to overcome - one being that none of the students are English majors, so this is a required course that they often have little interest in. The second - related to the first - is that their English level is extremely low in many cases.</p>
--	--

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお示しください。
また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。

<授業評価の指標>

「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など

Use of the 531 Active Learning Place has given us more freedom to teach in different ways. We are doing a lot of supplementary activities to help them with the target concepts. We are also doing a lot more vocabulary building with the hope that this will give them more tools to work with. These students are overloaded with homework and assignments from their other courses, so we need to be careful about what is given as self-study.

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示しください。

No major changes planned.

リフレクションカード 2016年度後期

学科	栄養学科
氏名	田川 辰也

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
疾病診断治療学Ⅱ	2	後期	選択	いいえ	108

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	○	×	×	×

3. 授業準備について

<p>授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。</p> <p><授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など</p>	<p>①2年生になって、専門科目の履修が増加し、特に医学的知識が問われるようになってくる。チーム医療の一員として栄養士、管理栄養士に必要な基礎的な医学知識および考え方を修得できるよう心がけた。</p> <p>②初回の授業の最初に学習準備ため、シラバスを用いてオリエンテーションを行った。</p> <p>③授業の最初と最後に小テストを行い、学生の復習への意識を高め、学習の進捗状況を確認するようにした。</p> <p>④授業で使用するスライドのレジュメを昨年より修正し、よりわかりやすい内容とした。</p> <p>⑤学生の意見としては、わかりやすいという積極的な意見があった。</p>
---	---

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
		達成された	達成された	達成された		
<p>(2)上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。</p> <p>* 根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示し下さい。</p> <p><授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など</p>	<p>①本試験の成績の平均値は81(±10)点であり、本試験不合格者は4名、再試の不合格者は0名であった。理想的レベル(概ね80点以上として試験を作成)に達したものは50%を超えた。</p> <p>②昨年度と比べると、本試験の平均点は3点上昇し、本試験の不合格者は11名から4名に減少し、再試験受験者の不合格者も4名から0名に減少したことから、教育目標の達成は大幅に改善した。</p> <p>③学生による授業評価においては、「授業がわかりやすかった。」、など、ポジティブな意見をいただいた。今後とも、わかりやすいスライド、資料、授業に心がけるとともに、授業前後の小テストを続けていきたいと考える。</p> <p>以上から、教育目標は達成されていると考えられる。</p>					

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

<p>DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。</p> <p><授業評価の指標> 「受講動機」、「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など</p>	<p>①CP、カリキュラムマップ上の位置づけからみでの内容的妥当性 本科目は「専門基礎科目」であり、必修である。国家試験に多く出題される内容であり、重要性は学生にしっかり伝えている。学生も復習に力を入れており、定期試験にて一定の成績を収めていることから、内容的には妥当であると考えられる。</p> <p>②DP、行動目標からみでの内容的妥当性 成績評価から、知識判断、思考判断、技術表現、態度に関する達成度がすべて高かった。課題された領域はすでに内容を修正しており、すべての領域において成績は上昇したことから、内容的には妥当であったと考える。</p> <p>③まとめ 以上から、内容的妥当性には問題はないと思われる。</p>
--	--

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお願いします。
また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお願いします。

<授業評価の指標>

「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など

①授業の質評価において、「自分なりの目標を達成した」の平均が3.3、「知識を確認、修正したり、新たに得ることができた」の平均が3.5と高かった。学生性の成績とを踏まえて判断すると、授業の目標は達成できたのではないかと考えられる。次年度に向けては、さらに知識を深める努力をするとともに、質問がもっと増え、学生がより積極的に授業に参加できるよう改善していきたいと考える。
②学生の意見としては、「わかりやすかった」など、好意的な意見があった。昨年、レジュメの穴埋めには否定的な意見があったので、今年はレジュメの穴埋めをなくした。今後ともさらにわかりやすい授業になるよう改善していきたい。

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお願いします。

①専門基礎科目にあたる本科目の位置づけから、基礎的知識の形成については達成でき、思考判断の面でも課題は達成できた。今後、実践科目である3年前期の「臨床栄養学実習Ⅰ」に引き継いでいく予定である。
②授業過程を振り返ってみたとき、授業の最初と最後に復習・確認の小テストを行ったことで、学生が検討を加える時間できた。予習課題の提示などで改善を図りつつ、さらなる改善に努めたい。
③以上から、毎回の授業のねらいを具体的に示すこと、小テスト等で考える時間をとり、復習課題を意識的に提示するようにすることを続けていきたい。
④配布物（授業のスライドのレジュメなど）に関しては、学生の意見を積極的に取り入れ、来年度に改善を行いたい。

リフレクションカード 2016年度後期

学科	栄養学科
氏名	新谷 恭明

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
教育原理	1	後期	選択	はい	22

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	○	○	○	○

3. 授業準備について

<p>授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。</p> <p><授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など</p>	<p>①教職をとる学生が初めて学ぶ科目であるため、教育に対する関心及び基礎的な思考力を育てることを目標とした</p> <p>②受講動機は基本的に教職課程の必修科目であるため、基本的に学生は真面目に受講していたが、講義は全学科共通のため120人という規模なので部からは私語が気になるという声も聞かれた。将来的に教職に就く人間を育てるのであるから自主的に私語を控える姿勢を身につけさせることを意図し、そのことについて叱責はせずに静寂に至る状況づくりに腐心し、自律性の涵養につとめた。</p> <p>③ディスカッションなども採り入れて、参加度を高める工夫もした。</p>
---	--

4. 学生の目標達成状況について

(1) 教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	どちらももいえない	やや達成されなかった	どちらももいえない	どちらももいえない	やや達成された	どちらももいえない
(2) 上記の評価の根拠を簡単に示して下さい。	<p>試験成績の平均は71.8であり、全体の平均点75.5を3.7ポイント下まわる。理想的と言える80点以上の学生は21名中4名(19.0%)しかいない。けっしていい成績ではなかったと言える。記述式の試験をおこなったので、この数値は期待した知識理解、思考判断力に関して教員としては納得ではない。私語は減ったものの居眠りなどもみられ、もうひとつ意欲に欠ける学生の存在が見受けられた。</p> <p>学生の自己評価でも、各項目に於いて半数以上の学生が「まあまあそうだと思う」というところに記入しており、その平均値は3.1～3.4であって、学生の達成感はあまり高くない。全体に「どちらももいえない」としか書けない。</p>					
<p>* 根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。</p> <p><授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など</p>						

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

<p>DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。</p> <p><授業評価の指標> 「受講動機」、「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など</p>	<p>教職課程の科目であるから受講動機は資格取得・必修というところをあげている。カリキュラム上の位置づけは妥当である。</p>
--	---

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお示しください。
また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。

<授業評価の指標>

「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など

到達度に対する自己評価は「まあまあ」というところに集中しており、「かなり」というところに書き込んだ学生はほとんどいない。平均値も3.1～3.4と高くなく、説明が難しかったとする学生も数名いる。わかりやすい授業の改善と教材の精選を工夫したい。

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示しください。

学生の関心が薄いのか、教職に対する執着が弱いのか、授業をよりわかりやすく興味を引く形に改善したい。

リフレクションカード 2016年度後期

学科	栄養学科
氏名	杉谷 修一

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
教育社会学	2	後期	選択	はい	19

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	○	○	×	○	×

3. 授業準備について

<p>授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。</p> <p><授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など</p>	<p>教職課程科目であるため、全体的に学生の受講動機のレベルは高いと考えられる。ただし、履修人数制限のある学科に比較すると学修への動機付けが高まっているとはいえない。</p> <p>本講義の内容を学校組織という視点からとらえなおすことができるように工夫を行った。特に地域や仲間集団のような教員から見えにくい領域に目を向けてもらえるよう心がけた。</p>
---	--

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	どちらもいえない	どちらもいえない	やや達成されなかった		やや達成された	
<p>(2)上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。</p> <p>* 根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示し下さい。</p> <p><授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など</p>	<p>学科平均63.6(全体平均69.3)という結果であり、例年通りあまりよい結果ではない。不合格者数も27%いる。ただし、優位上が2名であった昨年度に比べると4名と増加しており、優秀層が多少厚くなっている。</p>					

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

<p>DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。</p> <p><授業評価の指標> 「受講動機」、「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など</p>	<p>教職科目であるため、学科DPと直接連動する部分は少ないが、栄養に関する技能を生かした専門的職業に求められる資質能力の一部を構成する科目である。</p>
--	--

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお願いします。
また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお願いします。

<授業評価の指標>

「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など

人数の少ない英語学科は別として、同じ授業を受けている栄養学科が看護学科・福祉学科とは大きく異なる結果に終わったことを分析する必要があるだろう。栄養教諭の具体的な職務場面と結びつけて考えることができる機会を持つなど、こちらからの積極的介入をしていきたい。学生にとって自己の体験と比較しやすい分野（児童期の仲間集団経験など）と比較し、そうではない分野（社会的発達概念と社会化論の関連など）は理解度が低かった。本授業ではこの部分が導入に相当するため、教育心理学など隣接学問を援用する等工夫を行ったが、興味関心の点で工夫の余地があると考え。教師の立場から一旦離れて教育現象を理解するアプローチに慣れてもらうため、これまで以上に事例検討や統計データとの照合など、先入観を問い直す具体的教材を工夫したい。

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお願いします。

栄養学科については未だ不十分な達成状況にある。全体的な底上げが必要だが、秀1名・優2名と、少数ながら結果を出した学生もいる。このような学生の取り組みを学科内で共有できれば、栄養学科全体に良い影響を与えることができるだろう。グループ学習を部分的に導入するなど、他の学生の学習のありかたを可視化することを試みたい。

リフレクションカード 2016年度後期

学科	栄養学科
氏名	新谷 恭明

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
教育課程論	2	後期	選択	はい	14

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	○	○	○	○

3. 授業準備について

<p>授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。</p> <p><授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など</p>	<p>①教育課程論は前期に教職概論を受講した学生が教職への道を一步踏み込む科目になる。教員として知っておくべき諸課題についての基礎理論および新しい動向などについて教師のまなざしで見ることが出来る資質の習得を心がけた。</p> <p>②既に教職への関心を深めている学生なので、具体的な資料に基づいて思考を磨くことを試みた。</p> <p>③チームで考えるという場面も採り入れて新しい学びのやり方をさせてみた。</p>
---	---

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
		やや達成された	やや達成された	どちらともいえない	やや達成されなかった	やや達成されなかった
<p>(2)上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。</p> <p>* 根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示し下さい。</p> <p><授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など</p>	<p>最終的な成績の平均値は82.1であり、この科目の平均値の83.6を1.5ポイント低いが、理想的な水準と思われる80点以上には14人中10人(71.4%)が該当した。90点以上の学生は2人にとどまったが、まずまずの成果であったと思う。</p> <p>学生の到達度自己評価は3.1～3.4という数値を示しており、中央値もすべて3.0であり、満足はしていないようだ。図書館の利用者はなく、その辺りの学ぶ力を獲得してもらいたい。</p>					

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

<p>DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。</p> <p><授業評価の指標> 「受講動機」、「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など</p>	<p>受講動機は資格取得と必修科目となり、教職科目としてカリキュラムマップ上の位置づけは問題ない。</p>
--	---

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお願いします。
また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお願いします。

<授業評価の指標>

「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など

授業の質評価の中央値は3.0平均値も3.1~3.3であり、「かなり」に記入した学生はいない。ある意味資格取得のために仕方なく受講しているのかもしれない。学生に栄養教諭になりたいと言わしめる魅力を与えられるよう授業を改善したい。

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお願いします。

リフレクションカード 2016年度後期

学科	栄養学科
氏名	手嶋 英津子

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
学校栄養指導論Ⅱ	3	後期	選択	いいえ	14

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	○	○	○	○

3. 授業準備について

<p>授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。</p> <p><授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など</p>	<p>本科目は、学校栄養指導論Ⅰの内容を踏まえ、小学校、中学校での食に関する指導において、児童・生徒が理解しやすい内容の授業を組み立て、実践につなげる力を身に付けることを目標としている。栄養教諭を取得するために必須であるため、受講動機は必修科目である、資格取得に必要であると回答している。</p> <p>授業計画は、4年次での栄養教育実習にむけて必要な知識や技術を修得できることに重点をおいて実施した。</p>
---	---

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
		やや達成された	やや達成された	どちらともいえない	やや達成された	やや達成された
<p>(2)上記の評価の根拠を簡単に示して下さい。</p> <p>* 根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示し下さい。</p> <p><授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など</p>	<p>本科目の受講者は14名であり、その内、栄養教諭を取得予定の学生は11名である。少人数のため客観的な評価は困難であるが、最終成績は「理想的レベル(80点以上)」に達し、到達度自己評価では、全てにおいて「そうだと思う」と答えている。成績評価は、筆記試験、模擬授業、提出物で評価した。以上のことより、概ね教育目標は達成されたと考える。しかし、思考判断、技能表現に関しては、模擬授業等を通して栄養教諭として理想的なレベルに達しているとは評価できなかったため、この2点に関しては栄養教育実習に向けての課題であると考えている。</p>					

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

<p>DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけから見た内容的妥当性の評価を記入してください。</p> <p><授業評価の指標> 「受講動機」、「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など</p>	<p>①CP、カリキュラムマップ上の位置づけから見ての内容的妥当性 本科目は、「専門教育科目」の中の「教職に関する科目」に位置づけられている。食に関する指導の学習指導案の作成、児童・生徒へ授業を実践する力を養うために重要な科目である。受講生が2名のため客観的な評価は困難であるが、最終成績は「理想的なレベル(80点以上)」に達しており、学習到達度の自己評価も「そうだと思う」と回答しており、内容的には妥当であると考えている。</p> <p>②DP、行動目標から見ての内容的妥当性 本科目は、栄養教諭として栄養教育に必要な、専門的な知識および技術を修得することに評価の重みをおいている。これらを修得するために、栄養教諭として食や健康に関するスピーチを毎時間繰り返し実践することで身に付けることができたと考えられる。</p> <p>③まとめ 以上のことから、内容的妥当性には問題ないと思われる。</p>
--	---

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお願いします。
また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお願いします。

<授業評価の指標>

「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など

本科目は、4年次の栄養教育実習を見据え、食の指導を実践する力を身に付けることを目標としている。そのため、授業内容は、学習指導案の作成や模擬授業の実施、毎時間のスピーチを取り入れる等、体験を通して学習できるようにしている。しかし、学生の進捗状況に差があるため授業だけではなく、学生の理解度に合わせ、適宜個別指導を取り入れていきたい。

年度により人数の変動のある科目であることから、履修者数や学生の特性に応じて授業方法を検討していきたいと考える。

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお願いします。

本科目は、履修者数が少人数であり、授業評価からは客観的な評価はできないが、概ね教育目標は達成されたと考える。課題は、栄養教諭としての表現力や思考判断力が理想的レベルに達していなかったため、次年度は個別指導を取り入れる等、改善に向けて検討していきたい。

リフレクションカード 2016年度後期

学科	栄養学科
氏名	大黒 剛

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
教育相談（カウンセリングを含む。）	2	後期	選択	はい	14

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	○	○	○	○

3. 授業準備について

<p>授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。</p> <p><授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など</p>	<p>授業の実施にあたり、大切にしていること：教科書的に教育相談の基礎知識を与える事も大切である。しかし、それだけではなく、より実践的な内容の授業にしたかったので、私がスクールカウンセラーという仕事を通して学んだ事、子どもや保護者の現状、現場職員の様子などを伝えるように心がけた。したがって、演習問題の中に事例も多く含み、講義を聞くだけの授業ではなく、「考えさせる」授業を行った。</p>
---	--

4. 学生の目標達成状況について

(1) 教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	達成された	やや達成された	達成された	達成された	やや達成された	
<p>(2) 上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。</p> <p>* 根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示し下さい。</p> <p><授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など</p>	<p>学習到達度自己評価の結果を見ると、最も高い項目は、「自分が学ぼうとしている専門分野について、学びを深めたいと意欲を持つ事ができた」で、3.9～4.4ポイントで、中央値を上回る得点だった。これは去年の平均点を上回るものだった。インターネットを使った授業は行わなかったものの、自由記述の中には、「関連する本を読んだ」「復習をするようになった」といった、自発的、積極的に学習を行う生徒もいた。また、学習量の評価として、「ボランティア活動で高校生と触れ合う」学生もおり、教育相談についてより積極的に理解しようとする態度を形成していた。思考判断については、授業内で事例検討を行い、「もしあなたが養護教諭として保護者から相談を受けたら、どのように対応するか」といった演習問題を行い、養護教諭としての判断力を向上させる取り組みを行った。その演習については学生のほとんどが、中学校や高校の現状を知らない為に、大変役に立ったという意見を頂いた。</p>					

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

<p>DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。</p> <p><授業評価の指標> 「受講動機」、「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など</p>	<p>受講動機を見ると、資格取得の為に必要であると回答している生徒がほとんど(76.9～90.9%)である。そのことから、この講義の重要性が伺える。いじめや不登校、非行問題等、学校内では様々な問題が起こっており、養護教諭を目指す学生はこの講義を受ける事によって、学校の現状を知ることができるように工夫した。以上のことから、内容的妥当性には問題ないと思われる。</p>
--	---

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお示しください。
また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。

<授業評価の指標>

「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など

授業の質評価について、「テスト、レポート、提出物などの評価基準が明らかではなかった」という項目が、去年は平均点3.5だったが、今回は4.0とポイントが上がった。新たな取り組みとしてテストについては明確に学生へ提示した結果だと考えられる。また今回は模擬テストなども作成した。

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示しください。

教育相談の授業では①基礎知識の獲得、②応用力（事例解決の思考判断）、また③実技（カウンセリング能力）を学ばなければならない。受講する学生が多いので③の実技については思う様に時間が取れていないのが現状である。次年度は、カウンセリング能力を向上させるために、ロールプレイやカウンセリングの練習の時間も作りたいと思う。また、インターネットを使ったりサーチや、ワークも盛り込みたい。